2021 年度　修士論文

離島高校における
地域学習教育の題材としての観光の有用性

東京都立大学大学院　都市環境科学研究科　観光科学域

20854512　狭間辰之
指導教員　川原晋

2022 年 2 月

要旨

人口減少社会となった日本のなかでも、特に、中山間地域や離島の若者の流出は喫緊の課題である。地域内に大学や就職先がなく、進学や就職を理由に若者が地域を離れ、戻らない状況がある。進学や就職時に地域を離れることはやむを得ないとするならば、将来的に地域に戻る U ターンを促す方策が必要とされている。既往研究では、子どもの頃の地域への愛着醸成が U ターンにつながること（薮谷 2021）や、その愛着は地域を深く理解したり、地域の人と関わる体験が記憶されることで形成されることが報告されている（Jorgensen et al. 2001）。したがって、若者が地域を離れる前、つまり高等学校卒業までに、地域での経験を記憶することが、U ターンの促進につながる可能性があると考えられる。

そこで、本研究では、高校における地域での体験型教育に着目する。

地域と教育の関係を表す概念には、地域に目を向け地域を学ぶ「地域学習」や、「学校・地域社会・家庭」の 3 主体が連携して教育を行うという「地域教育」が 2000 年以前よりある。また、近年では、総合的な学習の時間や、その探求的学習の要素をより強める改訂をした「総合的な探求の時間（高等学校学習指導要領 平成 30 年告示）」の中で、これら「地域学習」や「地域教育」の要素が盛り込まれている。また、2022 年から『地理総合』として観光教育が必修化される予定であることなど、地域学習の一部として観光を取り上げる機運が高まっている。観光研究においても、地域の人による観光資源の発見や発信といった活動が地域の愛着を生むことも言われている。

そこで、本研究は、地域を離れる前の若者が地域での経験を記憶する教育体験が生まれている可能性のある事例として、高校における「地域学習」や「地域教育」（以下、あわせて「地域学習教育」と呼ぶ）に着目し、特に、観光を題材とする学習プログラムの実施状況や、生徒・学校と地域との関わり状況を把握する。そこから、地域学習教育の題材として観光を取り上げる場合の特徴や有用性を明らかにする。調査対象は全国の離島高校を対象とする。

既往研究では、大学や商業高校で行う観光分野の人材育成をめざした観光教育の視点から、教育内容やカリキュラムに関して論じたもの（宍戸 2008,2009）や、生徒への効果に関して論じたもの（稲本 2020）があるが、より全国で一般的に行われる

「地域学習教育」のなかで観光の関わりを論じたものや、全国の動向を論じたものはない。本研究は５章から構成されている。１章は、研究の背景、目的、既往研究レビュー、研究対象を記した。

第２章では、全国の離島高校において取り組まれている地域学習教育の基礎情報を、観光を題材としているかに関わらず概観することを目的として、各校の公式ホームページに掲載されている情報を調査した。『離島・へき地高等学校一覧（文科省公表）』に掲載された 67 の離島高校を調査対象とした。この Web 調査より、離島に位置する 42 校において地域学習教育が取り組まれており、離島の行政や事業者、文化資源管理者などとの関係を持ちながら調査や体験型の学習が進められていることや、成果物の多様性を確認できた。観光を題材とした成果物も特産品開発、観光パンフレットや動画の作成などが見受けられ、これらは次章のアンケートにおける、観光に関わる探究活動の要素として設定した（魅力発見、地域資源の他地域との差別化を意識した価値づけ、地域外への発信）。ただし、掲載されている情報量には差が大きく、傾向がつかめるものではなかった。

また、「ふるさと教育」の先進事例として紹介され、３年以上の実績と公開資料を入手できた長崎県宇久高校の地域学習教育の担当教員へのプレヒアリングをおこない、地域学習教育に対する指導要領等からの要請や学校側の期待、目的、運用状況や課題を把握した。これらを元に次章におけるアンケート設計の論点を抽出した。（以下要旨では略）

第 3 章は、前章で離島高校で地域学習教育の実施が確認できた４２校を対象に、地域学習教育プログラムや地域との関わりの詳細内容を把握し、観光を題材とすることの特徴を見出すことを目的にアンケート調査をおこなった。回答数は 20 校、このうち、設定した条件で抽出した「観光を題材とした地域学習教育」を行っていたのは 13 校(65％)であった。とくに観光を題材としている高校の教員は、題材としていない高校に比べ、アピールポイントに「地域との連携」を記載しており、また、関わる地域主体数が多い傾向にあった。

第４章では、地域学習教育プログラムのプロセスにおける観光に関わる取り組みの発現状況や、そのプロセスにおける学校と地域の関わり方や、互いに対する期待や課題意識の変化を把握した。観光を題材としている地域学習教育を行う高校のうち許可が得られた９校の教員 11 名と、地域主体 10 名にヒアリング調査を行った。

学習指導要領に示されている探求的学習のプロセス「1 課題の設定→2 情報の収集→3 整理・分析→4 まとめ・表現」の各フェーズにおいて、担当教員と地域双方の意識や評価を整理した。その結果、観光を題材とすることで、教員が目指すことが実現されていることが分かった。これより、地域学習教育の有用性があると考えられる。また、観光を題材とする地域学習教育活動は、教員側の課題設定によるものだけでなく、探究活動を進めていく中で、生徒が自発的に観光をテーマにする場合があることがわかった。また、観光を題材とすることで関わる地域主体が多くなる傾向がある理由としては、生徒が複数グループに別れて観光以外の産業やまちづくりの地域課題解決などの複数テーマで探求し、その解決・提案手段として観光手法が加わることで、相談したい地域側の関係主体が増えていることが推察された。また、地域学習教育に対する教員と地域主体の動機、期待、課題は、関わりの初期から成果物ができた後とでは変化が生まれており、地域主体の組織や個人による差はあるものの島の将来のためという公益的意識からより積極的な関わりを持つ方向に変わっていることがわかった。

５章は、要約と提言を行った。

内容

第 1 章　はじめに 10

１－１　研究の背景 10

１－１－１　人口減少の課題 10

１－１－２　地域と連携する教育 11

１－１－３　観光と教育 12

１－２　研究の目的 13

１－３　研究の方法 13

１－３－１　離島高校の選定理由 13

１－３－２　研究フローと調査方法 14

１－３－３　論文構成 15

１－４　既往研究の整理 16

１－５　用語の整理 17

第 2 章　全国の離島高校における地域学習教育の把握 18

２－１　はじめに 18

２－２　離島高校における地域学習教育の把握 19

２－２－１　協力する地域主体 19

２－２－２　各校での取り組み内容 20

２－２－３　地域学習教育における目的 21

２－２－４　地域学習が取り組まれている科目 22

２－３　地域学習教育に関しての情報 23

２－３－１　地域学習教育の現状 23

２－３－２　学校と地域の関係性 25

２－４　小括 26

第 3 章　地域学習教育を行う高校の状況把握と観光を題材とした取り組みの有無による比較 28

３－１　はじめに 28

３－２　アンケート概要 29

３－３　基本情報の把握 31
３－３－１　取り組みが行われる授業科目 31
３－３－２　取り組み開始年度 32
３－３－３　観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校 33
３－４　観光を題材とした取り組みの有無による比較 34
３－４－１　地域学習教育に取り組む目的と地域学習教育の担当教員が感じる効果 34
３－４－２　地域学習教育に協力している地域主体 40
３－４－３　地域学習教育の取り組み内容 44
３－４－４　取り組みに協力する地域主体と内容の実施項目 47
３－４－５　アピールポイント 49
３－５　地域学習教育の課題点 50
３－６　小括 52
第４章　観光を題材とする地域学習教育の発展プロセスと高校と地域主体の協力関係の把握 54
４－１　はじめに 54
４－２　インタビュー調査概要 55
４－２－１　調査概要 55
４－３　インタビュー調査の分析方法 56
４－３－１　分析手法 56
４－３－２　観光を題材とする地域学習教育の取り組み内容と探究活動のプロセス 58
４－４　高校と地域主体の互いに対する考え 59
４－４－１　教員が考える地域主体への考え 59
４－４－２　地域主体が考える取り組みや学校に対する考え 65
４－４－３　高校と地域主体の両者の考えから見る関係性 74
４－５　観光に関わる取り組みの発現状況 77
４－６　観光を題材とする地域学習教育における高校と地域主体との関わり方 79
４－７　小括 80

第５章　おわりに 82
５－１　各章のまとめ 82
５－２　考察 86
５－３　提言 88
５－３－１　離島地域における観光を題材とした地域学習教育の課題 88
５－３－２　地域学習教育の課題に対する提言 89
５－４　今後の研究課題 90
謝辞 91
参考文献・資料 92
付録１　離島高校一覧と WEB 調査で閲覧したホームページ先リンク ... 95
付録２　アンケート回答票 99

図表目次

【図】

図 1　本研究のフローと調査方法 14
図 2　第 2 章の調査項目と目的 18
図 3　地域学習教育で取り組まれている科目 22
図 4　第 3 章の調査方法と目的 28
図 5　地域学習教育が取り組まれている授業科目 31
図 6　地域学習教育が取り組まれている授業科目 32
図 7　地域学習教育の目的と効果 35
図 8　観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校の目的と効果..... 36
図 9　観光を題材としない地域学習の目的と効果 37
図 10　地域学習教育において取り組みに協力している関係者数..... 40
図 11　地域学習教育の地域主体数の分布 40
図 12　協力かつ島内に所在している地域主体の割合分布..... 41
図 13　島内に所在する地域主体数うち協力している割合分布..... 41
図 14　観光を題材とすることの有無で見る地域主体の割合..... 42
図 15　地域学習教育における取り組み内容 44
図 16 観光を題材とすることの有無で見る実施内容の比較..... 46
図 17　協力する地域主体数と内容の実施項目数の関係..... 47
図 18　観光を題材とすることの有無をプロットした散布図 48
図 19　アピールポイントの記述分類 49
図 20　教員が感じる地域学習教育における課題点..... 50

図 21　地域学習教育における時間余裕 51
図 22　第 4 章の調査方法と目的 54
図 23　分析の概要 56
図 24　整理の最終イメージ 57
図 25　探究活動の取り組みプロセスと地域学習教育の取り組みプロセス
..... 58
図 26-1　教員が持つ地域主体に対する考えの整理 60
図 26-2　教員が持つ地域主体に対する考えの整理（つづき）..... 61
図 27-1　地域主体（行政）がもつ高校に対する考えの整理 66
..... 67
図 27-2　地域主体(行政)が持つ高校に対する考えの整理（つづき）.... 67
図 28-1　　行政以外の地域主体が持つ高校への考えの整理 68
図 28-2　行政以外の地域主体が持つ高校に対する考えの整理（つづき）
..... 69
図 29　高校と地域主体の協力関係におけるそれぞれの考え 74
図 30　観光に関する取り組みの発現プロセス 77
図 31　観光手法が入ることによる地域主体増加のプロセス 79
図 32　観光を題材とすることの地域学習教育への有用性 87
図 33　離島地域における観光を題材とした地域学習教育の課題点 88
図 34　地域学習教育の課題点に対する地域主体がもつべき仕組みへの提言
..... 89

【表】

表 1　ホームページより確認できた関係する地域主体 19

表 1　ホームページより確認できた取り組み内容 20
表 3　ホームページより確認できた地域学習教育の目的 21
表 4　アンケートの質問事項と回答方法..... 30
表 5　質問と効果の対応関係 34
表 6　目的と効果の比較からわかった変化の分類とその変化した項目... 38
表 7　取り組みのアピールポイントの記述内訳 49
表 8　課題点の記述回答の高校数及び該当表現 50
表 9　設定したインタビュー項目 55
表 10　観光に関わる取り組みの発現タイミングに関する発言..... 77

第１章　はじめに

１－１　研究の背景

１－１－１　人口減少の課題

日本の人口は 2008 年をピークに減少傾向にあり、2050 年には日本の総人口は１億人を下回ると予測されている。特に地方都市や中山間地域では、都市への人口流失により、人口減少が深刻な問題となっている。JILPT(2016)の調査によると、地方出身者において、出身地からの転出の理由は大学への進学や就職が多く、転出年齢は 18 歳が約 6 割を占めていることが分かっている。これより、高校卒業を機に地方を出る若年層が多いことがわかる。このような地方において、人口の維持には、転出した若年層の U ターンを促進することが一つの策として考えられる。斎藤ら(2019)は、U ターンを増加させる要因として、子どものころに回帰意向が形成されることを挙げられていた。薮谷ら(2021)[1] は、「子どものころに地域への愛着を育むことが、将来の定住及び U ターン意向の発露に繋が」ると論じている。また、Jorgensen ら（2001）によると、愛着は地域での経験が「記憶」として認知されることで形成されると論じられている。つまり、地域での経験を記憶として認知しておくことによって、地域への愛着を育み、地域への回帰意向を形成し、Ｕターンを促進することができると考えられる。したがって、日本においては、若者が地域を離れる前、つまり、高等学校卒業前までに地域での経験をすることが、Ｕターン促進につながる可能性があると考えられる。

そこで本研究では、高校における地域での体験型の教育に着目する。

---

[1] 藪谷 祐介, 阿久井 康平. 2019. 高校生の通学時における地域接触が地域愛着形成に与える影響-富山県小矢部市内の高校に通学する高校生を対象として-. 都市計画論文集,56 . pp772-779

１－１－２　地域と連携する教育

地域と教育の関係を表す際、「地域学習」や「地域教育」という言葉が挙げられる。「地域学習」に関して、宮崎（1995）[2] によると、「「地域社会」をフィールドとみなし「地域社会」を教科書と考える姿勢が必要」と論じている。つまり、「地域学習」は、地域に目を向けて地域を学ぶ教育であることが求められている。また、「地域教育」に関しては、1987 年に臨時教育審議会の第 3 次答申において、家庭・学校・地域が連携して、子ども育てる環境をつくることが重要であると議論されており、「家庭・学校・地域」の 3 主体が連携して教育を行っていく考え方のことを指している。中央教育審議会答申（1996）[3] では、「家庭や地域社会と共に子どもたちを育成する開かれた学校となる」ことが提唱された。これらの答申によって、地域橋を行うためには、地域学習の重視や、地域の人材や施設などの教育資源の活用が求められていると指摘されてきた（黒光 2007）。

また、高校教育においては、1999 年の学習指導要領より、「総合的な学習の時間」が創設され、「地域学習」や「地域教育」の要素が盛り込まれ、授業が展開されていた。そして、2022 年には学習指導要領の改訂によって、探究的学習の要素が強まり、「総合的な学習の時間」は「総合的な探求の時間」となることが決まっており、現在先行的に実施している高校もある。

また、稲本(2020)によると、観光地域づくりによる、魅力の発信などにより、住民が誇りと愛着を持てる社会へとなっていくと述べており、観光地域づくりにおける、観光資源の発見や発信は、地域への愛着につながるものであると考えられる。

---

[2] 宮崎　正勝. 1995.初等社会科における地域学習の意義と方法：話し合い,イメージ・マップ作り,物語作りを中心にして, 教育方法学研究 20(0), pp117-125

[3] 中央教育審議会答申. 1996. 21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について. URL:https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/960701.htm

１－１－３　観光と教育

観光と教育の関係としては、観光教育と呼ばれる教育が 1960 年代から存在している。観光教育は、当初、宍戸（2008）によると、観光産業への人材を育成する職業教育として展開されたとしている（宍戸 2008)。しかし、2000 年代に入ると、総合的な学習の時間や学校設定科目の導入による教育改革によりこれらの学習の素材として、観光教育は多様化され、自分自身のキャリアや地域に目を向けるきっかけとして活用されて始めていると指摘されている（宍戸 2008)。2009 年からは、地域学習の内容を観光教育として発展させていくことを目的に「観光甲子園」事業が始まった。この事業は、高校生による地域魅力の再発見や地域活性化のデザイン、地域に対する誇りの醸成などを目指しており、観光を通じた地域貢献と教育的な効果が期待されている（福本ら 2011)。さらに、2022 年からは『地理総合』として観光教育が必須化される予定であることなど、地域学習の一部として観光を取り上げる機運が高まっている。

１－２　研究の目的

本研究は、地域を離れる若者が地域での経験を記憶する教育体験が生まれている可能性のある取り組みとして、高校において、地域教育の理念に基づいて進められる地域学習（以下、「地域学習教育」と呼ぶ）に着目する。特に、観光を題材とする学習プログラムの実施状況や、生徒・学校と地域との関わり状況を把握し、、地域学習教育の題材として観光を取り上げる場合の特徴や有用性を明らかにすることを目的とする。

また、調査対象は全国の離島高校を対象とする。

１－３　研究の方法

１－３－１　離島高校の選定理由

本研究では、離島に所在する高等学校（以下、離島高校）対象とする。その理由として、以下の２点を挙げる。

①学区スケールと地域スケールが一致している為、地域主体との連携の有無及びそれによる影響を把握し易いため。

②若者の流出による過疎化が喫緊の課題であることから、地域学習教育に対する問題意識が大きいと考えられるため。

１－３－２　研究フローと調査方法

図１に研究フローと調査方法を示す。

まず、Web 調査と一事例へのプレヒアリング調査を行い、全国の離島高校における地域学習教育の概観をした（2 章）。Web 調査は、文部科学省が公表する「離島・へき地高等学校一覧」より、離島に所在する高等学校 67 校を抽出し、これらの高校のホームページを閲覧し、地域学習教育の情報を収集した。また、プレヒアリング調査は、長崎県における「ふるさと教育」の先進事例として紹介され、3 年以上の実績と公開資料を入手できたことから、長崎県立宇久高等学校を対象に行った。

そして、地域学習教育に関して、ホームページ上に記載していた高等学校 42 校に対しアンケート調査を行い、地域学習教育の詳細な状況の把握と観光を題材とすることによる特徴を整理した（3 章）。20 校の回答を得ることができ、これらの回答の結果を分析した。

その後、観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校とその取り組みに協力する地域主体に半構造化インタビュー調査を行い、高校と地域主体の関係性の把握した（4 章）。この調査は、アンケート調査によって判断できた観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校 12 校に協力依頼をし、承諾いただいた９校の担当職員と、担当教員から紹介していただいた地域学習教育に協力している地域の方 10 名を対象に行った。

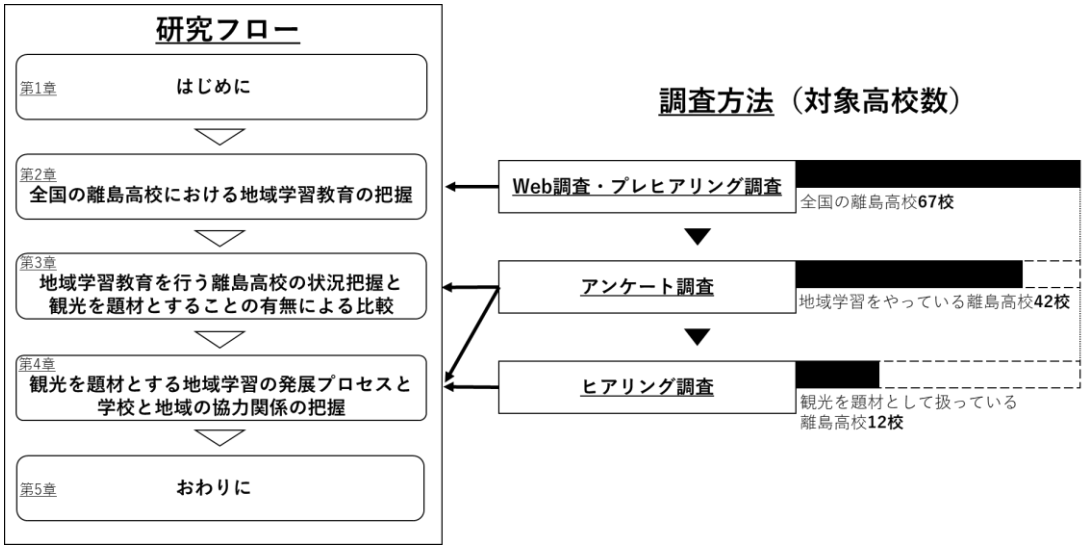


図１　本研究のフローと調査方法

１－３－３　論文構成

本研究は、全５章で構成される。

第２章は、全国の離島高校において取り組まれている地域学習教育の基礎情報を観光を題材としているかに関わらず概観した。第３章では、地域学習教育の実施が確認できた離島高校の詳細な動向を把握し、観光を題材とする地域学習教育の特徴を明らかにした。第４章では、観光を題材としている高校に調査を行い、観光に関わる取り組みの発現プロセス、学校と地域との関わり方、学校と地域の両者に対する期待や課題意識の変化を把握した。第５章では、観光を題材とする地域学習教育における学校と地域の関係性について提言を行った。

１－４　既往研究の整理

本研究の既往研究を整理した

観光教育にする研究は大学や商業高校で行う観光分野の人材育成をめざした観光教育の視点から、教育内容やカリキュラムに関して論じたものとして（宍戸 2008,2009）や（寺本 2019)、生徒への効果（稲本 2020）に関して論じたもの、観光教育そのものを把握するものとして（工藤 2015)、(大島 2016）があるが、より全国で一般的に行われる「地域学習教育」のなかで観光の関わりを論じたもの、全国の動向を論じたものはなかった。

また、本研究における観光教育とは「観光が果たす役割について理解し、関心を持ち、日本各地の観光資源の魅力を自ら発信できる力を育む（観光庁 2020「改訂学習指導要領の内容をふまえた観光教育のプログラム作成等の業務」)」の意味であり、大学や商業高校で行う観光分野の人材育成をめざした観光教育のことではない。

１－５　用語の整理

「地域学習教育」

学校が所在する地域を対象に、地域教育の理念に基づいて進められる地域学習のことを指し、授業の一環として行っている教育を指している総合的な探求の時間で取り組まれているような地域の課題を発見し、解決策を見つけるようなプログラムや地産品の開発などだけでなく、自治活動（地域清掃など）や地域文化（伝統芸能など）に触れる取り組みなども、地域との関わりを持っているとみなし、地域学習教育に含めている。

「観光を題材とする地域学習教育」

本研究において、“観光を題材とする”地域学習と表現している取り組みに関しては、「魅力の発見」、「地域資源の立ち意図の差別化を意識した価値づけ」、「地域外への発信」ような要素が含まれている探究活動を指している。これらの要素は、2 章の Web 調査にて導き出し、アンケート調査における観光に関わる探求の要素として設定している。

「観光教育」

学や商業高校で行う観光分野の人材育成をめざした観光教育のことではなく、「観光が果たす役割について理解し、関心を持ち、日本各地の観光資源の魅力を自ら発信できる力を育む（観光庁 2020「改訂学習指導要領の内容をふまえた観光教育のプログラム作成等の業務」)」の意味での教育である。

第２章　全国の離島高校における地域学習教育の把握

２－１　はじめに

第２章では、全国の離島高校において取り組まれている地域学習教育の基礎情報を、観光を題材としているかに関わらず概観した。そのために、全国の各離島高校の公式ホームページに掲載されている地域学習教育の情報を調査するWeb 調査と、一事例を対象とした地域学習教育の担当教員へのプレヒアリング調査を行った。調査方法は以下のとおりである。(図 2)

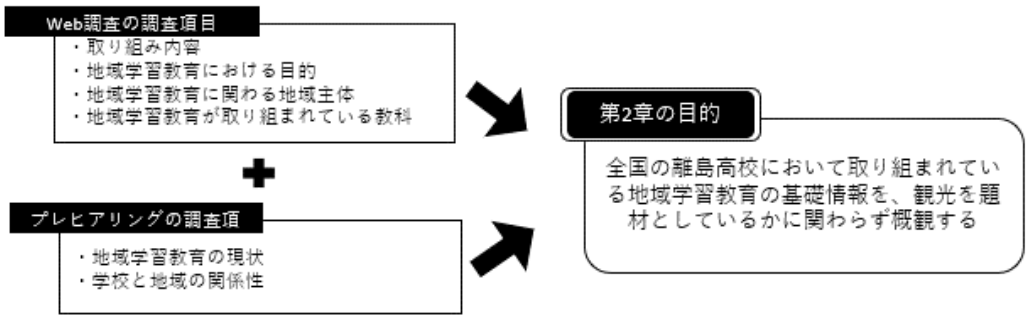


図 2　第 2 章の調査項目と目的

また、本章においては、大学入試センターが公表する『離島・へき地高等学校一覧』より、離島に所在する高等学校 67 校を抜き出し、Web 調査で地域学習教育の実施が確認できた高校 42 校の抽出し、整理している。さらに、プレヒアリング調査対象校は、地域学習の好例であるとふるさと教育の先進事例として紹介され、3 年以上の実績と公開資料を入手出来た高校を対象とした。

２－２　離島高校における地域学習教育の把握

まず、文部科学省が公表する「離島・へき地高等学校一覧」より、離島に所在する高等学校 67 校を抽出し、各校のホームページより、地域学習教育に関する情報の掲載の有無を確認した。その結果、地域学習教育を実施していることを確認することができた離島高校は 42 校であったため、これらのホームページ上の情報から、現状の把握を行うこととした。収集した情報は、地域学習教育における地域主体や、取り組みの内容、目的、取り組みが実施されている科目についてである。

２－２－１　協力する地域主体

各離島高校での取り組みにおいて、協力をしている地域主体として確認できた主体は以下のとおりである（表１）。

表 1　ホームページより確認できた関係する地域主体

地域主体	代表的な記載例
町議会、行政	町役場、行政、市役所職員
教育機関（小中高・大学）	大学、専修学校、幼・保・小中学校
地元企業の経営者、事業者、働き手	島の社会人・地元で働く人々・地域の各事業所
地域資源（史資料や海洋資源、郷土芸能など）の管理者	郷土芸能の指導者
その他	保護者

協力をしている地域主体は、「行政機関や議会」、「教育機関」、「民間企業」、「地域資源を保全する管理者となる地域住民」と 4 つに分類することができた。島内の地域主体に関しては、幅広く協力していることが分かった。島内全体で地域学習教育を行っていることが推察できる。また、島外に所在する大学との関係もあることが分かった。これより、島内だけでなく、島外との機関とも協力関係を持ちながら、地域学習教育が行われていると分かった。

２－２－２　各校での取り組み内容

各校の取り組み内容に関しては、以下のように整理することができた。（表２）

表１　ホームページより確認できた取り組み内容

取り組み内容	
地域の産業の調べ学習	地域に関して学習する（知る）内容
地域の文化（郷土芸能、祭）体験	地域に関して学習する（知る）内容
地域の課題発見とその課題に対する解決案を提案	地域のことを学習し、情報を発信していく内容
ホテル宿泊プランの作成	地域のことを学習し、情報を発信していく内容
地域行事への参加、ボランティアとしての参加（地域清掃など）	地域のことを学習し、情報を発信していく内容
観光パンフレット、観光案内板の作成	地域のことを学習し、情報を発信していく内容
Web発信（PR動画、HP作成）	地域のことを学習し、情報を発信していく内容
商品（特産品・レシピ）開発、販売(例：地元レストラン)	地域のことを学習し、情報を発信していく内容
地域産業の体験	キャリア形成につながる内容
販売実習	キャリア形成につながる内容
企業説明会、地域での働き手のインタビュー	キャリア形成につながる内容
講師を迎えての講話・講義、知識付け	キャリア形成につながる内容

【凡例】

地域に関して学習する取り組み

キャリア形成につながる取り組み

これらの取り組みの内容から、「地域に関して学習する取り組み」と「キャリア形成につながる取り組み」の２つの取り組みに大きく分類することができた。「地域に関して学習する取り組み」は、地域に関して学習するだけのものと、それに加えて情報発信を行う成果物の作成を行うものがあることが分かった。

これらの取り組み内容の整理から、観光庁が公開する「観光教育の要素」[4]を参考に、地域学習教育における観光の要素を、「魅力の発見」、「地域資源の他地域との差別化を意識した価値づけ」、「地域外への発信」と設定した。

---

[4] 観光庁. 2020. 令和元年度改訂学習指導要領の内容を踏まえた観光教育のプログラム作成等の業務. p18.
URL: https://www.mlit.go.jp/common/001344216.pdf（最終閲覧：2022 年 2 月）

２－２－３　地域学習教育における目的

目的として挙げられた項目は、大きく 3 つに分類することができた。それぞれの項目の内訳を示す（表 3)。

1 つ目が「探究活動としての目標」で、探究活動として、教科学習では得られない能力や資質の醸成である。総合的な探求の時間の目標ともなっている、課題解決能力や、協働して行う力、キャリア教育、積極性、向学心などの目的が見られた。この項目の中で最も多く挙げられていたのは、問題解決能力であり、6 校であった。その次に協働する力となっており、5 校が目的として記載をしていた。これより、「探究活動としての目標」の分類においては、問題解決能力や協働する力に重きが置かれていることが推察できる。

2 つ目が、「地域に対しての意識の醸成」である。地域に対する理解促進や、地域振興の担い手の育成、郷土愛の醸成が挙げられ、グローカル人材の育成を掲げている学校も見られた。地域振興の担い手の育成に関しては、14 校が挙げており、すべての項目の中において、もっとも多く挙げられていた。次の郷土愛の育成も 11 校と挙げた高校が多くなっていた。これより、地域学習教育の目的としては、地域に対しての学生の意識を醸成することが主目的となり得るということが推察できる。

3 つ目の「高校の利益」は、高校の魅力化を目指すものである。地域学習教育の取り組みを高校の特色として行っている高校が見られた。地域学習教育を学校の特色として考え取り組みを進めている高校があった。

表 3　ホームページより確認できた地域学習教育の目的

	校数
探究活動としての目標	
協働する力	5
問題解決能力	6
向学心	1
積極性	3
キャリア教育	3
自己の在り方を考える	1
地域に対しての意識の醸成	
地域を知る	3
郷土愛の育成	11
地域振興の担い手	14
グローカル人材の育成	1
高校の利益	
魅力化	1

２－２－４　地域学習が取り組まれている科目

地域学習教育が取り組まれている教科に関しては、ホームページ上には記載をしていない高校のあり、42 校中 30 校から確認ができた。結果は以下のとおりである。(図３)

最も取り組みを行う科目として多かったのは、総合的な探求(学習)の時間の 25 校（60%）であった。次が学校設定科目の 5 校（12%）であった。その他 5 教科においても、テーマ設定を行い取り組んでいる高校が 2 校（5%)、休日を利用している高校が 2 校（5%）であった。背景でも述べたとおり、地域学習教育は総合的な探求の時間や学校設定科目の柔軟なカリキュラム構成が可能である科目において、取り組みが行われていることが分かった。

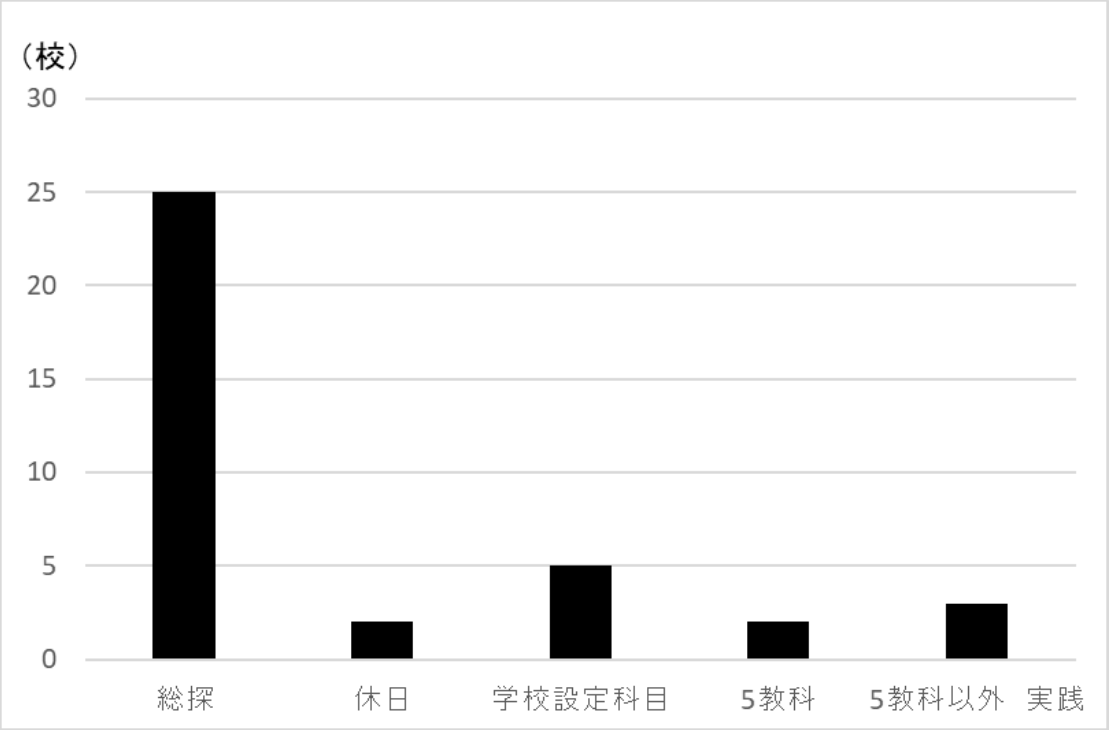


図 3　地域学習教育で取り組まれている科目

２－３　地域学習教育に関しての情報

地域学習教育の取り組みのきっかけや学校側の期待、目的、運用状況や課題を把握するために、地域学習の先進事例と推察された、長崎県立宇久高校学校の地域学習教育の担当教員へのプレヒアリングを行った。3 年以上の実績と公開資料を入手できたため、対象とした。

２－３－１　地域学習教育の現状

地域学習教育の現状においては、①「取り組み内容」、②「取り組みの目的」、③「取り組みを始めた理由・きっかけ」、④「参考にした取り組み」、⑤「取り組みの関係者」、⑥「取り組みにあてられる授業時間」、⑦「取り組みにおける今後の課題」の 7 つを質問項目として設定し、知見を得ることにした。

①「取り組み内容」

各学年によって大きなテーマが設定されており、3 年間をかけて探究活動を進めていた。1 年生では、研究や探究活動の体験させることを目的として、仮説立てや研究の方法、結果の分析など、それぞれの過程において、研究の進め方を実際に学ばせていた。2 年生では、食品開発を行っており、駆除対象であり、駆除活動後、廃棄されていた食材を使って。最後には島内において販売を行っていた。3 年生では、地元を活性化させることを目的に、毎年内容を変えながら活動を行っていた。これらの活動は、年度末には、コロナ禍以前は島内放送なども行い、地域の方に発表会を行っていた。

②「取り組みの目的」

先に述べた各学年の目的となっている、探究活動の経験や、地元の活性化などの目的のほかに、成果をコンテストに出すことにより、学校内では成し遂げられないような成長の促進や、活動を通して学校としての特色を出し、生徒数増加につながる高校のアピールとすることも目的としていた。また、全体的にこのような地域学習教育においては、地元の活性化を意識した取り組みがほとんどある一方で、観光の視点を意識しているわけではないことが分かった。

③「取り組みを始めた理由・きっかけ」

学習指導要領の改訂により探究活動は重視するような方向性になっていることと、ふるさと教育として地元を扱うことを重視する流れとなっていることが挙げられた。

④「参考にした取り組み」

今回ヒアリングに対応していただいた教員の方は、取り組みの立ち上げの際にはまだ赴任していなかったため、立ち上げ当初のモデルなどに関しては把握できていないとしたうえで、県の研修として中山間地域などの学校に訪問し、探究活動に関して、取り組みの視点などの情報を得る機会はあったということであった。

⑤「取り組みの関係者」

観光協会が特に関わっており、他には行政や県内の食品関連企業、地元の飲食店などが取り組みの中において、助言や協力をしてもらっていることが分かった。

⑥「取り組みにあてられる授業時間」

総合的な探求の時間に取り組みが設けられていた。総合的な探求の時間としては、この取り組みのほかに、進路学習なども行っているため、総合的な探求の時間の半分から 3 分の 2 ほどの時間を取り組みに当てていた。発表会の準備などに取り掛かり始める秋ごろからは、ほとんど取り組みの時間に当て、準備を進めているということであった。

⑦「取り組みにおける今後の課題」

課題として 3 点挙げられており、1 つ目が、特に 1 年生の探求活動の経験を目的とした研究では、特定の教科の教員が中心となり行っているが、他教科の教員でもできる内容を考える必要性があると考えているが、生徒に面白みがある活動である必要もあるため、そのバランスの取り方が難しい点、2 つ目が教員の転勤による引継ぎが繰り返される中で、取り組みや探究活動そのものに対

する教員の意識や理解を引き継げるかどうかという点、3 つ目が、この取り組みにおいて教員側も答えがあるというわけではないため、手探り状態での指導となり、柔軟な発想が求められるため、教員の力量や手腕が問われる点である。

地域学習教育の現状としては、先の背景でも挙げたように、総合的な学習の時間において取り組まれているものであり、探究活動として取り組まれていた。地元の活性化や高校の特色となることを目的としており、地域学習教育は地域の個性を出し、取り組み内容や成果を地域内だけでなく、対外的に PR することも可能であると考えられる。しかし、取り組みが始まってから、まだ年数が浅く、課題も多く残っており、教員の指導方法の確立や、教員の転勤による引継ぎでの取り組みに対する理解の質の低下の可能性が考えられた。

２－３－２　学校と地域の関係性

学校と地域の関係に関しては、取り組み以前から、保護者であるからなど限定せずに地元の方が部活動などの課外活動において指導をしたり、学校行事においても、ボランティアで参加したりと、地元との深いつながりがあることが分かった。取り組みにおける協力の内容は、商品開発の際に使う材料の準備や提供、パンフレットや製品のラベルのデザインに関する指導、PR 動画素材としての参加などが挙げられた。必要に応じて地域側に依頼を行っており、依頼に対しても、協力的であり、毎年協力を依頼する主体であれば、積極的に協力もしてくれる環境であり、学校の取り組みに関しては、島内に浸透しており、断られることはないということであった。取り組みにおいて地域側は、高校の教育活動において、取り組みを特色のあるものであると捉えており、継続して欲しいという要望など、発表会時のアンケートにおいてもポジティブな評価がされていることがわかった。

離島という特性もあるのか、地域と学校の距離が近く、取り組みにおける活動の認知もかなりあるため、取り組みに対するポジティブな評価を持っており、協力姿勢があることが考えられる。

２－４　小括

本章で明らかになったことを整理する。

文部科学省が公表する「離島・へき地高等学校一覧」に掲載された 67 の離島高校を対象としてホームページから情報を得る Web 調査を行い、全校の離島高校において取り組まれている地域学習教育の基礎情報を、観光を題材としているかに関わらず概観した。その結果、42 校において地域学習教育が取り組まれていることが確認できた。協力している地域主体は、島内の行政や　議会などの公的機関や、事業者や文化資源管理者など民間の方とも関りがあり、さらに島外に所在する大学とも連携をしており、幅広い協力関係があることが推察できた。取り組みとしては、地域のことを体験や考える学習やそれに加えた地域の情報を発信する活動、キャリア形成につながる学習が行われ、成果物の多様性を確認できた。観光を題材とした成果物として、特産品開発や観光パンフレット、PR 動画作成などが見受けられた。これらから、「魅力の発見」、「地域資源の他地域との差別化を意識した価値づけ」、「地域外への発信」が地域学習教育において観光に関わる探究活動の要素であると考えることができた。これらの結果は 3 章におけるアンケートにおいて、観光に関わる探究活動の要素として設定した。また、地域学習教育の目的に関しては、「探究活動としての目標」、「地域に対しての意識の醸成」、「高校の利益」の 3 つに分類することができた。他にも、取り組んでいる科目は、総合的な探求の時間を利用していることも分かった。しかし、それぞれの高校において、掲載されている情報量には差が大きく、傾向がつかめるものではなかった。

また、地域学習教育の取り組みのきっかけや学校側の期待、目的、運用状況や課題を把握するために地域学習の先進事例と推察された長崎県立宇久高等学校の地域学習教育担当者へのプレヒアリングを行った。この調査から、まず、2022 年の学習指導要領の改訂によって、全国の高校で地域学習教育が推進されていることが分かった。高校側の期待として、地域学習教育によって、探究活動の経験だけでなく、地元の活性化や、特色のある学校づくりにつなげていきたいという思いがあることが分かった。さらに、授業運営の状況や課題も把握した。主要な課題は、5 年程度で教員の転勤があるため、地域主体との関係を保ちながら地域学習教育を継続していくために、培ってきた理念や信頼関係

の引継ぎや、マンネリ化回避の工夫など、通常の授業に加えて負担がかかることであると分かった。これに加え、学校と地域主体との関わりの具体例も聞き取り、アンケート調査設計の知見を得た。

第３章　地域学習教育を行う高校の状況把握と観光を題材とした取り組みの有無による比較

３－１　はじめに

第３章では、離島高校における地域学習教育の詳細な状況と、離島内外にある組織や団体との関わり、地域学習教育の課題等を把握すること、また、観光を題材とする地域学習教育の特徴を明らかにすることを目的とした（図４）。そのために、第２章で抽出した地域学習教育を行っていることがわかっている高等学校 42 校にアンケート調査を行った。

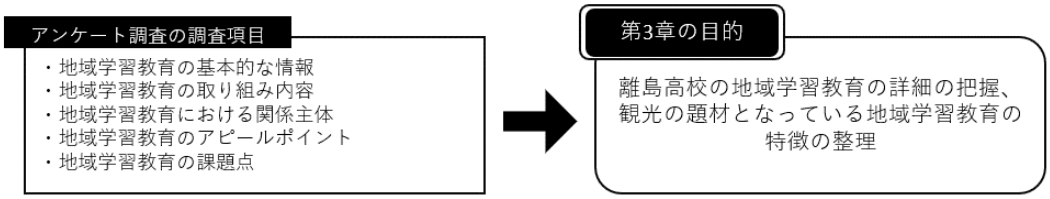


図４　第３章の調査方法と目的

３－２　アンケート概要

第 2 章で抽出した地域学習教育を行っていることを確認できた 42 校に対し、各校で行われている地域学習教育に対して、第 2 章で得た知見をもとに、離島内外にある組織や団体との関わりや、地域学習教育の課題等に関して、アンケート調査を行った。20 件の学校から回答を得た。アンケート概要および結果は以下の通りである。実際に配布したアンケート質問・回答票は、付録資料（1）として巻末に載せている。

○名称

「離島の高等学校における地域学習教育に関するアンケート調査」

○目的

離島に所在する高等学校で取り組まれている地域学習教育の状況を調査し、離島内外にある組織や団体との関わりや、地域学習教育の課題等を把握する。

○質問内容

大きく分けて２つの項目を用意し、それぞれが紙媒体でのアンケートを通して回答を得た。（表４）

○アンケート対象

Web 調査において、地域学習教育の取り組みを行っていることが確認できた 42 校に対し、地域学習教育の担当教員を対象にアンケート調査を行った。

○アンケート期間

2021 年 9 月 3 日から 9 月３１日

○配布方法

対象となる高等学校に対し、郵送に配布・回収を行った。

○回答数

20 件の高等学校から回答を得ることができた。

○設問設計

それぞれの設問における選択肢は、第 2 章で得た知見をもとに設定した。

表 4　アンケートの質問事項と回答方法

番号	アンケート項目	回答方法
地域学習教育の情報		
1	地域学習の基本的な情報についてお尋ねします。	記述式
2	地域学習教育において、島内あるいは島外のどのような組織や団体が関わっているのか(関わっていない場合は、今後の関わりについてのご見解)についてお尋ねします。以下の表を埋める形でご回答ください。	記述式＋複数選択
3	貴校の地域学教育について、設問 2 でお答えいただいた学外の関係者（①を選択した主体）の協力によるものを含めた、具体的な取り組み内容についてお尋ねします。	選択式
4	地域学習教育を進めていく、あるいは貴校で最初に地域学習教育に取り組み始める時に（カリキュラムの内容の設定や、協力者を決める際等に）参考にしたものに関して教えてください。	選択式
5	貴校の地域学習教育の目的についてお尋ねします。	選択式
6	貴校の地域学習教育において、独自の特徴だと思う点や、アピールポイントをご記入ください。	記述式
7	貴校の地域学習教育を通して、地域へ実際に提示・提供（あるいは提案）した具体的な成果物についてお尋ねします。	記述式
地域学習教育の課題に対する意見		
8	地域学習教育を担当するあなた自身のことについて教えてください。	選択式＋記述式
9	教員になって何年になりますか。また、貴校に赴任して何年になりますか。	記述式
10	あなた自身が感じている地域学習教育の効果についてお尋ねします。	選択式
11	あなたにとって、地域学習教育に関する準備や事前調整、振り返りや改善の検討等のための時間的余裕は十分であると感じますか。	選択式
12	貴校での地域学習教育の担当教員として、あなたは通算何人目になりますか。	選択式
13	あなたが地域学習教育の担当になった際、前任の教員からの引き継ぎは十分になされたと感じていますか。	選択式
14	今後、地域学習教育を後任の教員に引き継ぐ上で、あなたが思う、特に重要な引き継ぎ内容はありますか。	記述式
15	地域学習教育を進めていく上での、現在の困りごとや課題があればご記入ください。	記述式

３－３　基本情報の把握

３－３－１　取り組みが行われる授業科目

離島高校において地域学習教育が取り組みが行われている授業科目についての結果を示した（図５）。

総合的な探求の時間が 17 校(85%)であった。他には、学校設定科目が 2 校(10%)、学校行事が 1 校(5%)であった。いずれもいわゆる 5 教科と呼ばれる教科における取り組みはなく、先行研究や第 2 章で行った Web 調査の結果のとおり、総合的な探求の時間が、最も多くなっていることが分かった。

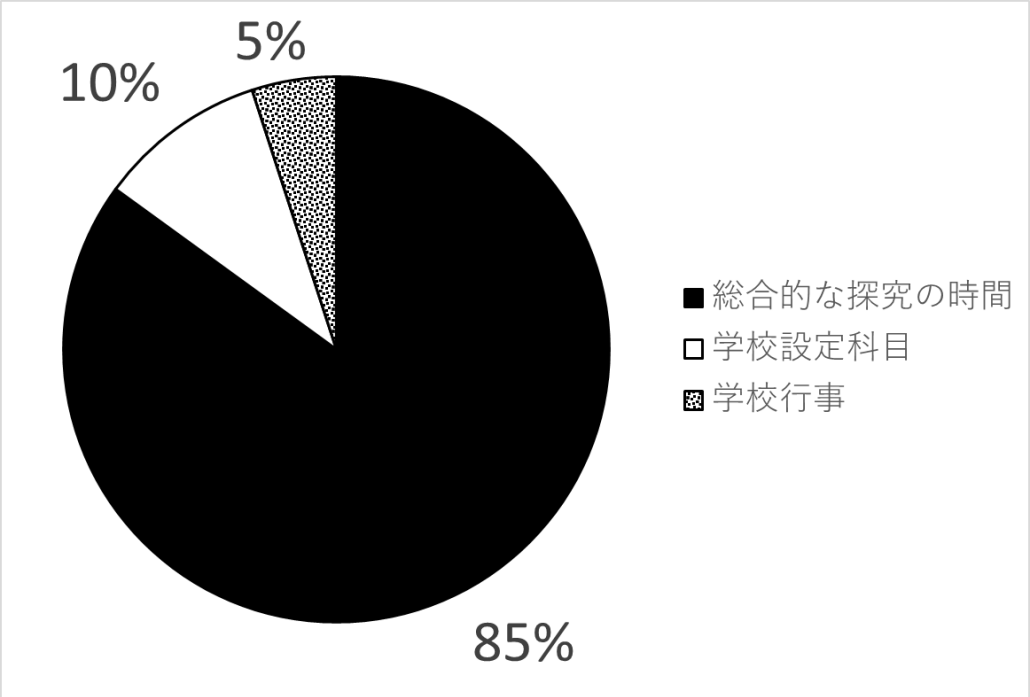


図 5　地域学習教育が取り組まれている授業科目

３－３－２　取り組み開始年度

各校で取り組まれている地域学習教育に関して、取り組みを開始した年度の回答を示した（図６）。

最も多かった開始年度は、2019年で5校（25%）であった。2019年度は、高等学校の学習指導要領の改訂版が公示された翌年であり、３－３－１での結果も踏まえると、『総合的な探求の時間』の学習指導要領の中において、地域学習教育が適切だと考えられ、先行的に始められたと考えることができる。

また、2015 年頃から地域学習教育を取り組み始められている。長崎県教育庁高校教育課（2018）[5]によると、「「消滅可能性都市」（2014 年日本創生会議）発表のころから上位に挙がった“しま地区”の高校を中心に、市町と連携した地域創生型探究活動が広がり始めた」としており、全国の離島高等学校においても、このような傾向があると推察できる。

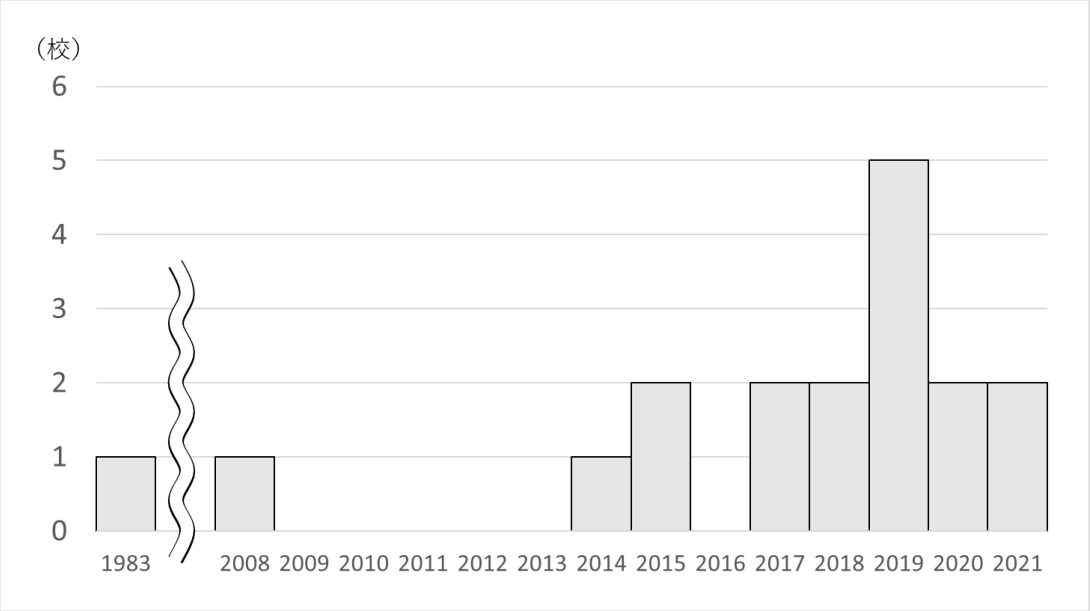


図 6　地域学習教育が取り組まれている授業科目

---

[5] 令和元年度に行われた全国高等学校教育改革研究協議会の選択協議題 A「地域との連携・協働による新しい高等学校づくり」の中において、長崎県教育庁高校教育課から提示されたプレゼン資料より
URL:
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/10/18/1422061_06.pdf （最終閲覧：2022 年 2 月）

３－３－３　観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校

今回のアンケート調査においては、『地域学習教育に関するアンケート調査』としていたため、質問３の各回答から観光を題材としている取り組みであることを判断した。質問３において、基準として設けた取り組み内容のうち、いずれかの取り組みが行われている場合に、観光を題材とする地域学習教育であると判断することとした。質問に記載してある取り組み内容のうち、該当する選択項目は以下の３つである。

・パンフレットやガイドブックを作成する（観光産業に関連するもの）
・映像を作成する（観光産業に関連するもの）
・職場体験・ボランティア体験をする（観光産業に関連するもの）

この取り組みのうち、いずれかに該当し、観光を題材としていると判断できた離島高校は、13 校(65％)であった。観光を題材する地域学習教育に取り組む離島高校が半数を超えていた。

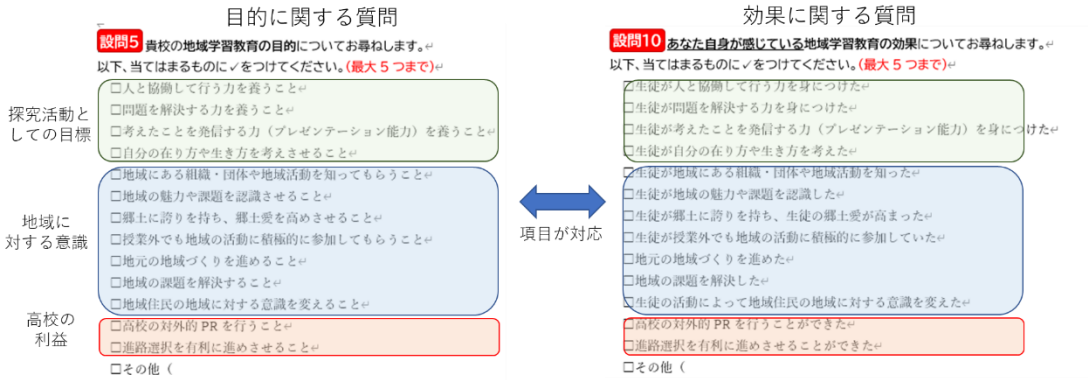
３－４　観光を題材とした取り組みの有無による比較

前節で明らかにした観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校の特徴を、観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校 13 校とと観光を題材としていない高校 7 校の回答で比較し、整理を行った。比較を行った項目は、①地域学習教育に取り組む目的と地域学習教育の担当教員が感じる効果、②地域主体、③取り組み内容、④各校で取り組まれる地域学習教育へのアピールポイントや特徴の 4 つである。

３－４－１　地域学習教育に取り組む目的と地域学習教育の担当教員が感じる効果

アンケート調査において、地域学習教育の目的と担当教員が感じている効果に関して、あてはまると思うものを最大 5 つ選択する形式で回答をしてもらった。選択項目は、目的と効果でそれぞれ対応するようにしており、また、4 つに分類できるように作成した。（表 5）

表 5　質問と効果の対応関係



この２つの質問に対する結果は以下のグラフとおりであった。（図７）

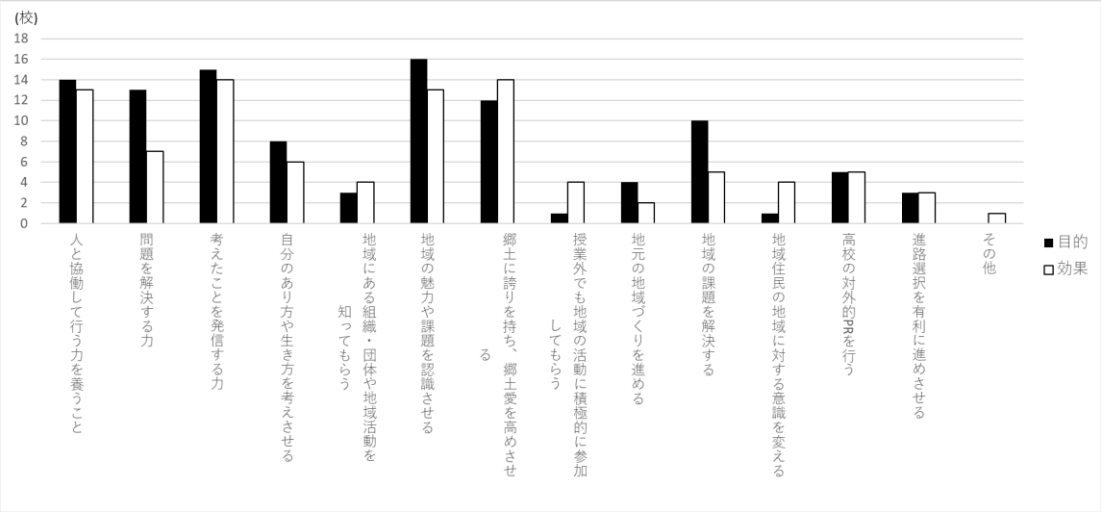


図７　地域学習教育の目的と効果

全体の傾向として、地域学習の目的で、最も回答が多かったものは、「地域の魅力や課題を認識させること」であり、16 校（80％）が回答をしていた。それから、「考えたことを発信する力(プレゼンテーション能力)を養うこと」（15 校：75％)、「人と協働して行う力を養うこと」(14 校：70％)、「問題を解決する力を養うこと」(13 校：65％)、「郷土に誇りを持ち、郷土愛を高めさせること」(12 校：60％）をなっていた。全体的には、地元地域に対する生徒の意識や行動の変化に関する項目も選択されている一方で、総合的な探求（学習）の時間に求められる能力の項目が高い傾向にあった。第２章で明らかとなった、地域学習教育は総合的な探究（学習）の時間で取り組んでいる高校が多い傾向にあることから、授業目標として以上のような傾向が見られたと考えられる。

効果に関しては、「生徒が考えたことを発信する力（プレゼンテーション能力）を身につけた」、「生徒が郷土に誇りを持ち、生徒の郷土愛が高まった」の 14 校（70％）であった。また、「生徒が人と協働して行う力を身につけた」、「生徒が地域の魅力や課題を認識した」が 13 校（65％）となっており、他の項目に関しては、ほぼ同じくらいの割合となっていた。全体的にみると、総合的な探求(学習)の時間で求められる能力と、地元地域に対する生徒の意識や行動の変化の項目が挙げられていた。

目的と効果の選択された項目を比較すると、その他以外の 13 項目のうち、9 項目は目的と同じ回答数もしくは、目的より効果の回答数が少なくなっていたが、「地域にある組織・団体や地域活動を知る」、「郷土に誇りを持ち、郷土愛を高める」、「授業外でも地域の活動に積極的に参加する」、「地域住民の地域に対する意思を変える」は目的より効果での回答が多くなっていた。

また、観光を題材とした取り組みの有無により、目的のアンケート結果を分けて考えた。

観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校の目的と効果の結果は以下のグラフのとおりである。（図８）

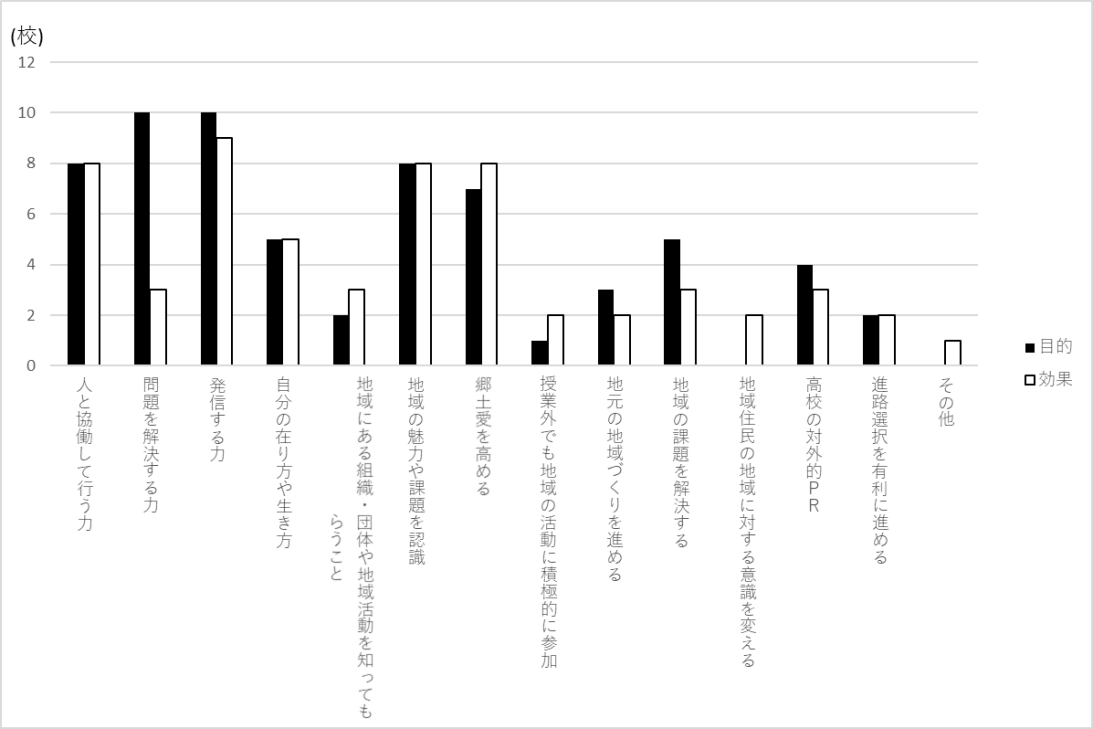


図 8　観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校の目的と効果

観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校の目的は、「問題を解決する力を養うこと」、「考えたことを発信する力（プレゼンテーション能力）を養うこと」（13 校中 10 校：約 77%）が最も多く選択されていた。それから、「人と協働して行う力を養うこと」、「地域の魅力や課題を認識させること」（8 校：約 62%）、「郷土に誇りを持ち、郷土愛を高めさせること」（7 校：約 54%）

が選択されていた。全体的な傾向と同じく、地元地域に対する生徒の意識や行動の変化も選択をさせていたが、総合的な探求の時間で求められる能力の項目が多く選択されている傾向があった。

効果は、「生徒が考えたことを発信する力(プレゼンテーション能力)が身につけた」(9 校：約 69%）が最も高く、「生徒が人と協働して行う力を身につけた」、「生徒が地域の魅力や課題を認識した」、「生徒が郷土に誇りを持ち、生徒の郷土愛が高まった」(8 校：約 62%）と続いていた。

目的と効果を比較してみると、目的として最も高かった「問題を解決する力」が著しく減少していることが分かった。効果として総合的な探求の時間で求められる能力の項目を選択する学校が少しであるが減少しており、反対に地元地域に対する生徒の意識や行動の変化が少し増加していることがわかる。

一方、観光を題材としていない高校の目的と効果の結果は以下のグラフのとおりである。(図９)

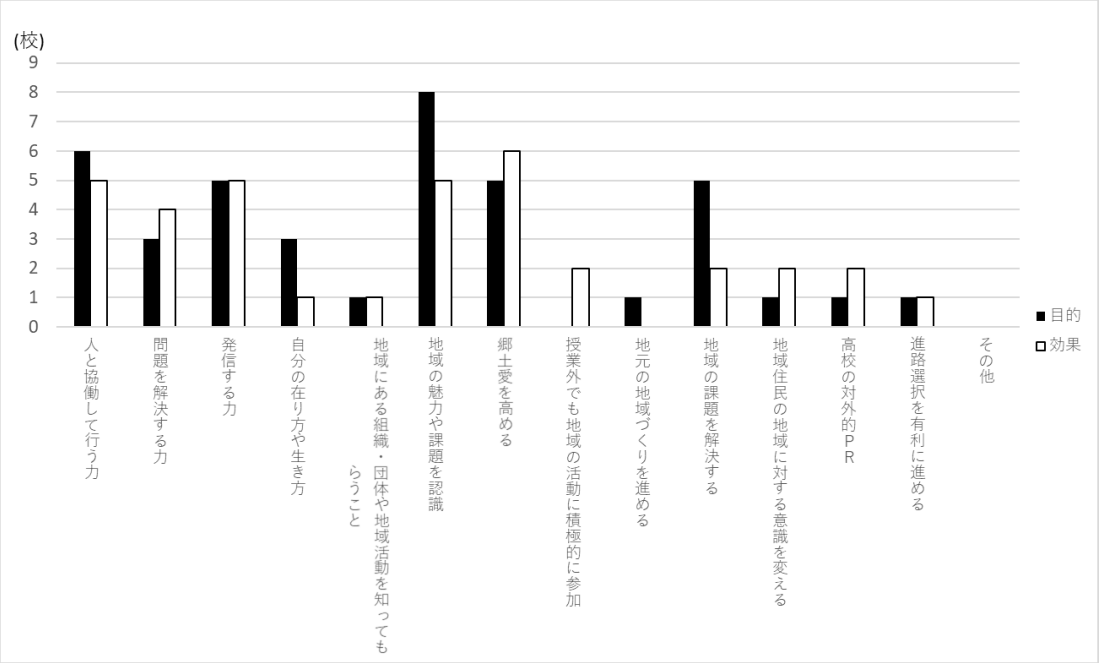


図９　観光を題材としない地域学習の目的と効果

観光を題材としていない高校の目的は、「地域にある組織・団体や地域活動を知ってもらうこと」(8 校：100%）が最も選択されていた。次に、「人と協

働して行う力を養うこと」(6 校：75%)、「考えたことを発信する力（プレゼンテーション能力）を養うこと」、「地域に誇りを持ち、郷土愛を高めさせること」、「地域の課題を解決すること」(5 校：62.5%）となっていた。全体の傾向とは少し違っており、地元地域に対する生徒の意識や行動の変化が目的として選択されていた。

効果に関しては、「生徒が郷土に誇りを持ち、生徒の郷土愛が高まった」(6 校：75%）が最も選択されており、次に「生徒が人と協働して行う力を身につけた」、「生徒が考えたことを発信する力(プレゼンテーション能力)を身につけた」、「生徒が地域にある組織・団体や地域活動を知った」(5 校：62.5%)と選択させているものが多かった。

目的と効果を比較してみると、100%の選択であった、「地域にある組織・団体や地域活動を知ってもらうこと」は、減少していることが分かった。その他の項目は、あまり変化がなかった。

目的と効果をならべ、回答の変化をそれぞれの高校でみると、変化を以下のように分類することができた。(表 6)

表 6　目的と効果の比較からわかった変化の分類とその変化した項目

変化の分類	変化している項目
地域に関連する項目の向上	『地元地域に対する生徒の意識や行動の変化』・『地域（地域住民）の変化』の項目の増加
生徒の地域に対する知識・意欲のみの向上	『地元地域に対する生徒の意識や行動の変化』のみ増加
地域に関連する項目の減少	・『地元地域に対する生徒の意識や行動の変化』・『地域（地域住民）の変化』の項目が減少 ・『総合的な探求（学習）の時間で求められる能力』・『高校側の利益』の増加
総合的な探究（学習）の時間の項目のみ減少	『総合的な探求（学習）の時間で求められる能力』の項目のみが減少
変化なし	増減なし

この分類を観光題材とすることの有無でわけると、観光を題材とする地域学習教育に取り組みを行う高校は、総合的な探究の時間で求められる能力を目的として挙げていたが、効果の回答において、これらの選択が減り、地域に関連する項目をあげる数が増加している、もしくは、総合的な探究の時間に求めら

れる能力の選択だけが減り、地域に関連する項目の選択は変化しないという結果であり、観光を題材とした地域学習教育に内容の取り組むことで、より地域に関連する項目に対しての効果があったと考えていることが分かった。

３－４－２　地域学習教育に協力している地域主体

現在、地域学習教育に協力をしている地域主体は図 10 に表されている通りである。

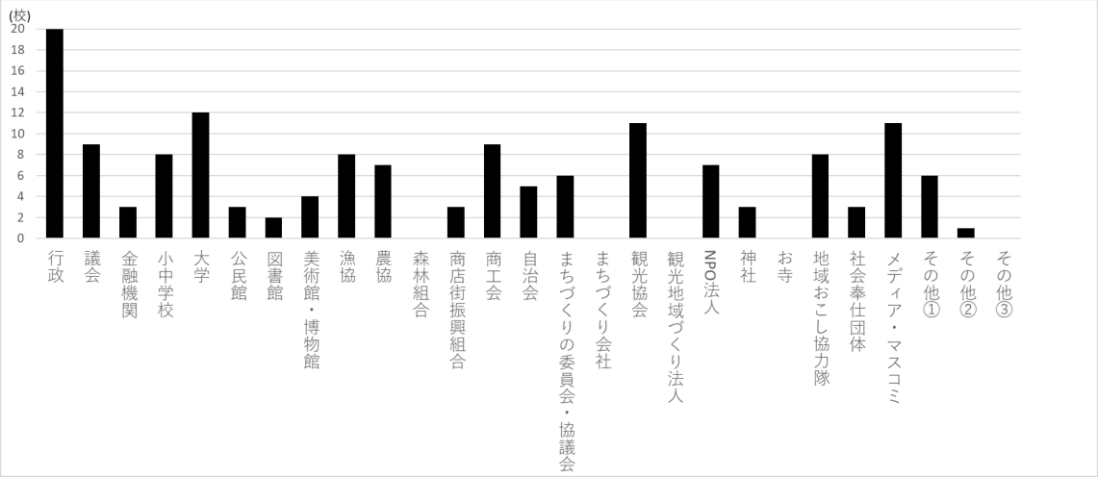


図 10　地域学習教育において取り組みに協力している関係者数

行政はすべての学校で連携を持っており、他には大学（12 校：60%）や観光協会・メディアマスコミ（11 校：55%）が多かった。

また、各校の協力している地域主体数は、大体 7 件前後であることがわかった。（図１１）

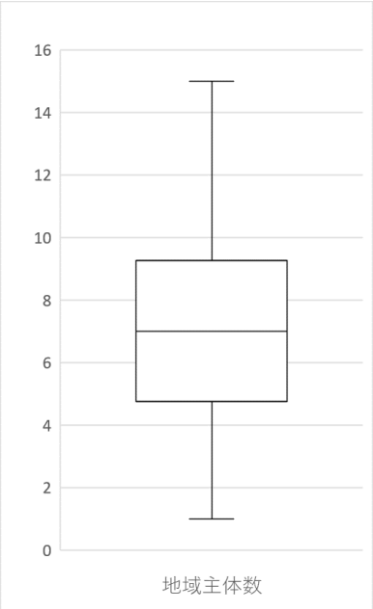


図 11　地域学習教育の地域主体数の分布

地域学習教育に協力している地域主体で、地域内に所在している地域主体の割合は、ほとんどの高校において 8 割以上であった。それぞれの高校で地域学習教育に協力する地域主体はほとんどが島内にある組織や団体であり、地域との結びつきが必要であるということがわかる。(図 12)

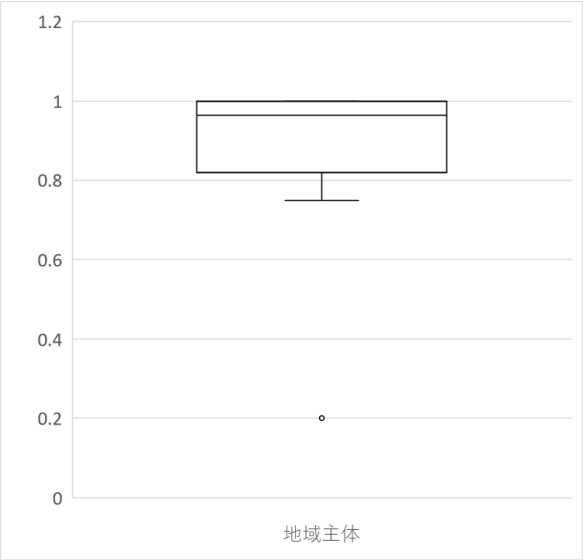


図 12　協力かつ島内に所在している地域主体の割合分布

また、島内にある組織・団体のうち、地域学習教育に協力している地域主体の割合分布は、以下の通りである（図 13)。かなり幅の広い分布となっているが、島内の 5 割程度の組織や団体と連携をしていることが読み取れる。

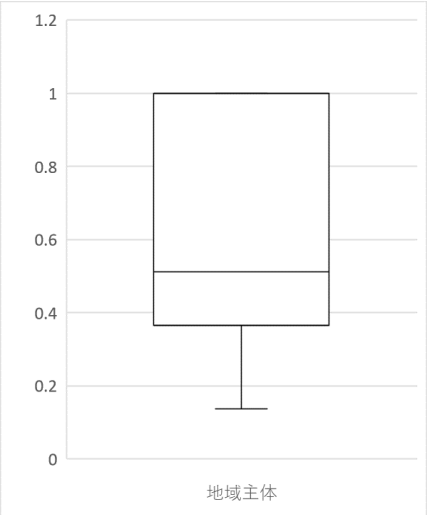


図 13　島内に所在する地域主体数うち協力している割合分布

また、観光を題材とした取り組みの有無により、地域主体に関するアンケート結果を整理した。地域学習教育に協力する地域主体は以下のグラフのようになった。（図 14）

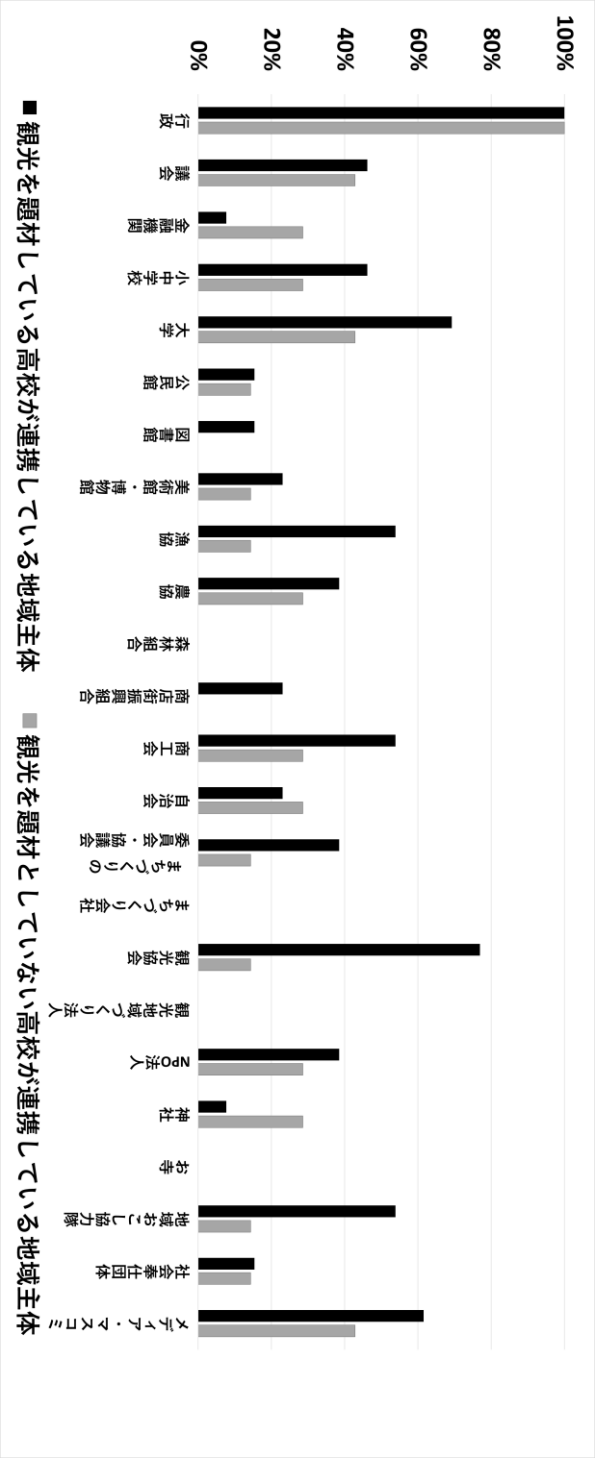


図 14　観光を題材とすることの有無で見る地域主体の割合

観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校は、大学・漁協・観光協会・地域おこし協力隊の連携があることが分かった。一方で、観光を題材としない高校は、金融機関・神社・社会奉仕団体との連携が傾向として見られた。

３－４－３　地域学習教育の取り組み内容

地域学習教育での取り組み内容は、以下のグラフのようになった（図 15）。

図 15　地域学習教育における取り組み内容

講演・レクチャーが最も高く 18 校（90%）であった。他には、地域の課題発見・整理が 14 校（70%）、地域課題に対する解決策の立案とインタビュー調査が 13 校（65%）、施設や事業所の見学が 11 校（55%）であった。

地域学習教育において、生徒に対して情報を提供する手段として、講演やレクチャー、施設や事業所の見学、インタビュー調査がなされていると考えられる。また、基本的な取り組みの軸として、地域の課題発見や整理、解決策の立案の取り組みがあり、総合的な探求の時間の流れに沿って行われていると考えられる。

また、観光を題材とした取り組みの有無により、取り組み内容のアンケート結果を分けて考えた。地域学習教育の取り組み内容は以下のグラフのようになった。（図 16）

観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校は、全体の傾向と同様の傾向があり、講演・レクチャーやインタビュー調査を用いて、情報を提供し、地域の課題発見・整理や、その課題解決に向けた解決策の立案の割合が高くなっていた。一方で観光を題材としていない高校においては、講演やレクチャーはあるものの、全体の傾向として高かったインタビュー調査や課題の発見・整理、解決策の立案の割合が下がっていた。観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校と比較すると、地域の自治活動への参加や、施設や事業所の見学、食品や加工品以外の商品開発の割合が少し高くなっていることが読み取れる。

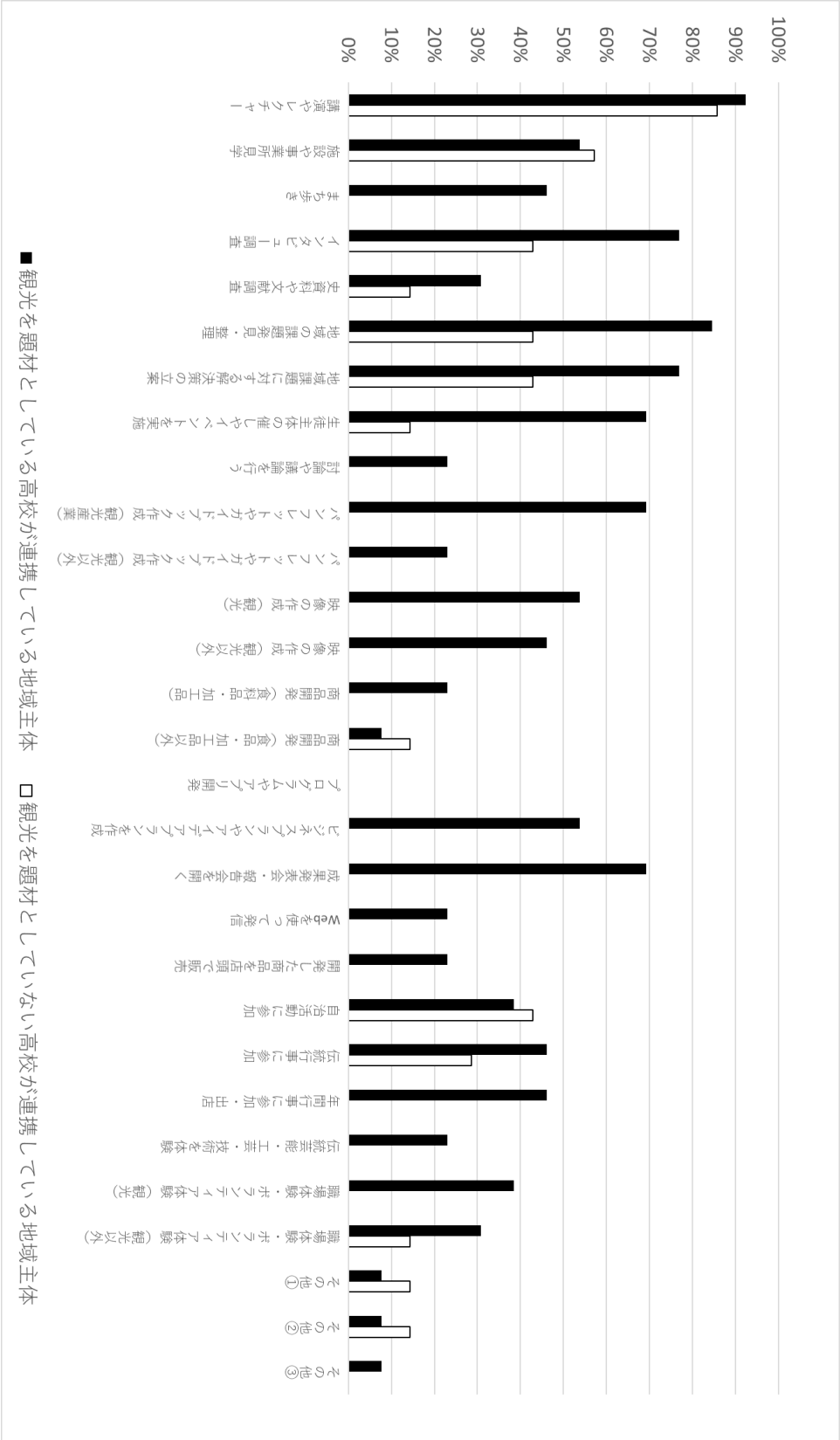


図 16 観光を題材とすることの有無で見る実施内容の比較

３－４－４　取り組みに協力する地域主体と内容の実施項目

横軸を取り組みに協力する地域主体数に、縦軸を取り組みの内容の実施項目数として、散布図に示した。相関係数は 0.367 であり、弱い正の相関があることが分かった。（図 17）

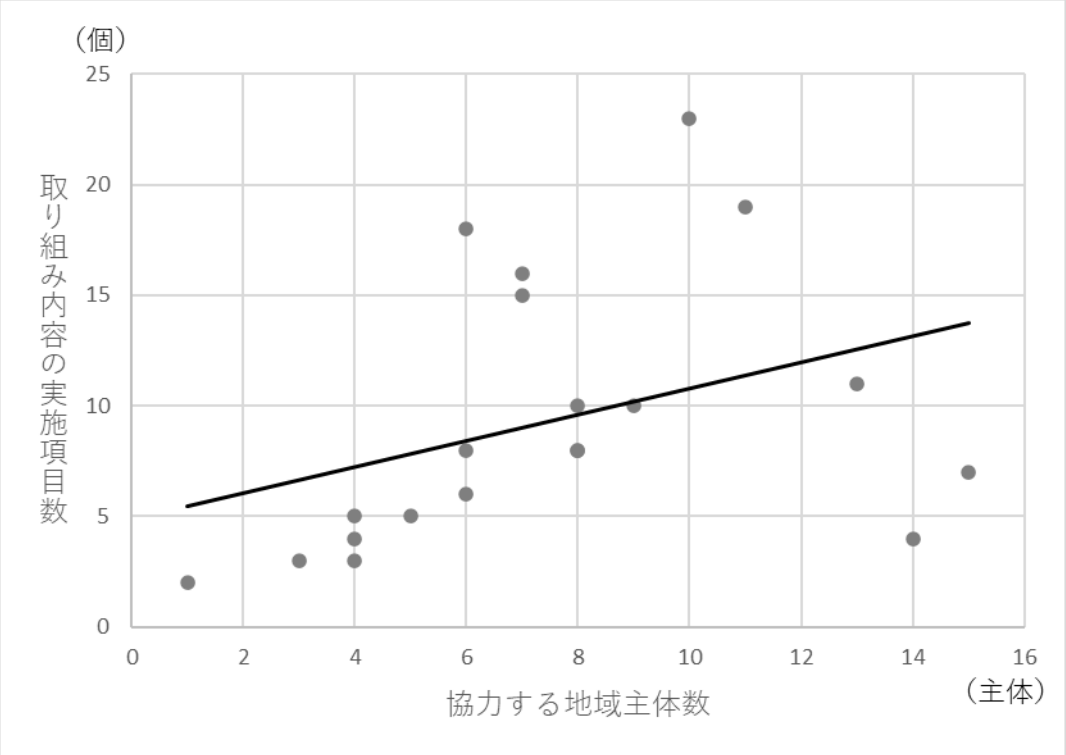


図 17　協力する地域主体数と内容の実施項目数の関係

また、観光を題材とした取り組みの有無を散布図にプロットしたところ、以下のようになった。観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校は、協力する地域主体数も取り組み内容の実施項目数も、概ね多い傾向があることが分かった。（図 18）

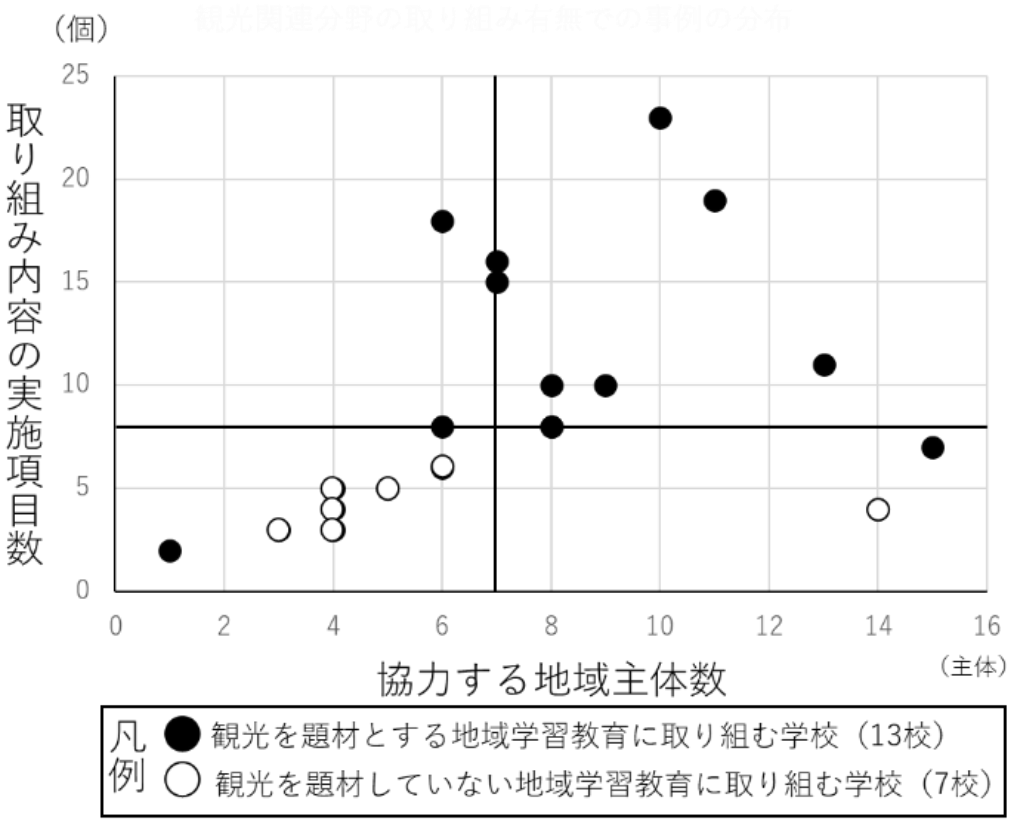


図 18　観光を題材とすることの有無をプロットした散布図

３－４－５　アピールポイント

アンケート調査項目において該当の地域学習教育の独自の特徴だと思う点やアピールポイントを自由回答にて記載してもらった。回答の記載内容は、以下の表のようになっており、大きく分けて、「取り組み内容」、「地域主体との関係性」、「離島ならではの特徴」の３つにわけることができた。(図 19)

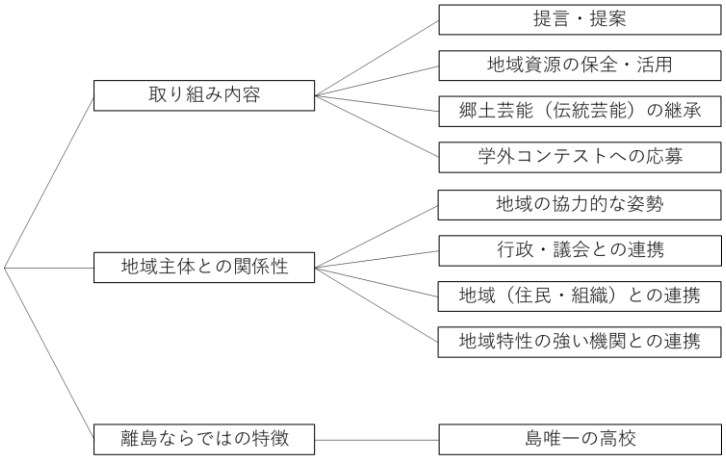


図 19　アピールポイントの記述分類

観光を題材とした取り組みの有無で比較したところ、観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校は、地域主体との連携の記載が多くなっていることが分かった。これより、地域主体との連携を意識して取り組みが行われていることが考えられる。(表 7)

表 7　取り組みのアピールポイントの記述内訳

	母数	観光	非観光
取り組み内容に関して			
提言・提案	2	2	0
地域資源の保全・活用	5	2	3
郷土芸能（伝統芸能）の継承	2	0	2
学外コンテストへの応募	1	1	0
生徒主体での進め方	3	3	0
地域主体との関係性に関して			
地域の協力的な姿勢	2	2	0
行政・議会との連携	3	3	0
地域(住民・組織)との連携	4	3	1
地域特性の強い機関との連携	2	0	2
離島ならではの特徴			
島唯一であること	2	1	1

３－５　地域学習教育の課題点

アンケートにおいて、地域学習教育を進めていく上での課題や問題点に関して、自由回答にて記述をしてもらった。以下の表のように、教員側の問題点と、生徒側の問題点に分けられた。(図 20)

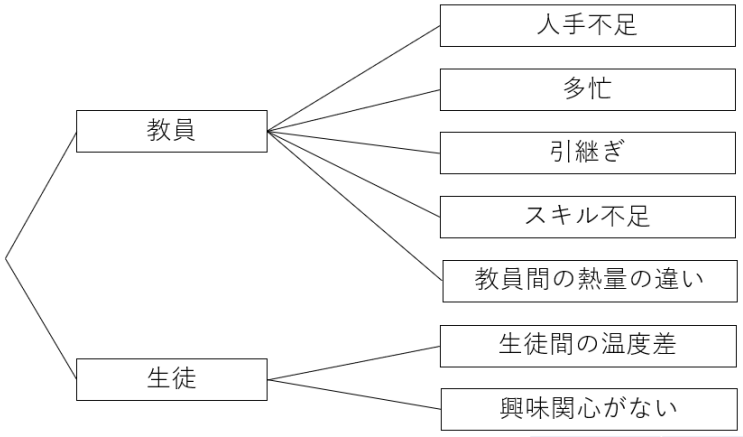


図 20　教員が感じる地域学習教育における課題点

大きく分けると教員側の問題点と生徒側の問題点があり、記述としては、教員側の問題点が多く回答された。教員側の問題点としては、人手不足や、教員

表 8　課題点の記述回答の高校数及び該当表現

	件数	表現
先生側の問題点		
人手不足	2	教員不足・配置されている教員の数が少ない
多忙	2	多忙・時間に余裕がない
引継ぎ	2	引継ぎが重要・趣旨を理解し、指導内容の質の維持を以下に図るかが課題
スキル不足	2	教員のファシリテーションスキルの不足・専門的な知識がないため、手探りで授業を進めている
教員間の熱量の違い	2	成果が出ていなければ、多くの教員から、総探が軽視されてしまいがちになる点・教員全体のベクトル合わせ・教員個々の熱量の違い。
生徒側の問題点		
生徒間の温度差	2	腹落ちしていないままやらされる感覚の生徒もいる・生徒間の温度差
興味関心がない	1	自分の住む地域についての思いや将来的な展望等がない。興味関心がない。

の業務の多忙による時間的余裕のなさ、専門的な知識のない中で進めていることによるスキル不足、取り組みに対する教員の熱量の違いが挙げられており、今後取り組みを持続させていくための引継ぎに対しての、取り組みの趣旨の理解や質の維持に対する課題が上がっていた（表 8）。

一方で生徒側の問題点としては、生徒の取り組みに対する温度差や地域に対する興味・関心の薄さが挙げられていた。

また、地域学習教育における準備などに対し、時間的余裕に関して質問したところ、以下のグラフのようになった。（図 21）

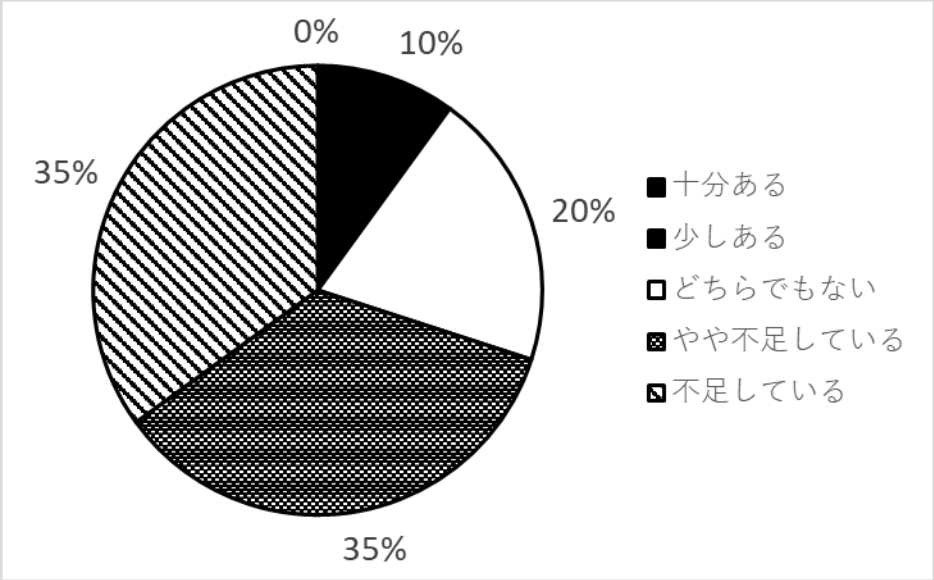


図 21　地域学習教育における時間余裕

約 7 割の教員が「不足している」もしくは「やや不足している」と回答していた。担当の教科に加え、地域学習教育に関する準備も重ねて行う必要があるため、時間的余裕がない中で、取り組みが行われているのが現状であると考えられる。

これらの取り組みは比較的最近に始められていることもあり、今後の持続的な取り組みとする中で、かなりの問題点があることが考えられる。教員間でも教科教育との必要性の観点から熱量の違いが出ていると考えられ、教員内でも地域学習教育における理解が不足していることが現状であると考えらえる。

３－６　小括

本章で明らかになったことを整理する。

2015 年以降、消滅可能性都市の発表の頃より、地域学習教育が増加しており、総合的な探求（学習）の時間において、地域に触れる地域学習教育が、離島高校において取り組まれてきたことがわかった。地域学習教育の中でも、観光を題材とする取り組みを行っている学校は、過半数を占めていた。

観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校と題材としていない高校を比較したところ、地域学習教育の目的に関しては、観光を題材とする地域学習は総合的な探求の時間の目標とされる能力を意識し、そうでない地域学習は地域に対する生徒の変化や地域の課題解決に意識をしていた。しかし、担当教員が感じている効果としては、どちらも総合的な探求の時間の目標とされる能力の選択が減る一方で、地域に対する変化や効果に関しての選択は、増加もしくは変化なしの傾向があった。地域学習教育の取り組みによる効果として、地域への生徒の郷土愛の醸成や、地域課題に対する意識をつけることができたと感じていることが分かった。

地域主体に関しては、すべての高校に行政が関わっており、観光を題材とする取り組みを行う高校は、大学や漁協、観光協会、地域おこし協力隊の連携があり、そうでない学校は、金融機関・神社・社会奉仕団体との連携が傾向として見られた。

取り組み内容に関しては、全体的に講演やレクチャーによる情報提供と、インタビュー調査による情報の収集、地域の課題発見から、解決策の立案へとつながる議論の取り組みが多く、観光を題材とする取り組みにおいては、その後のパンフレット作成や動画の作成が特徴として挙げられた。一方で、観光を題材としていない取り組みにおいては、地域の自治活動への参加や施設や事業所の見学、食品や加工品以外の商品開発の割合が、観光を題材とする取り組みの学校より高くなっていた。

取り組みに協力する地域主体数と内容の実施項目数に関しては、弱い正の相関関係があった。また、概ね観光を題材とすることによって、地域主体数も取り組み内容の実施項目数も多くなる傾向があることも分かった。

自由記述において、各高校の取り組みのアピールポイントを回答してもらっ

たところ、全体的には、「取り組み内容」、「地域主体との関係性」、「離島ならではの特徴」の３つに大きく分けることができた。観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校は、題材としていない高校より地域との連携に関して記載が多かった。協力する地域主体が多いため、地域を意識して取り組みが行われることが推察できた。

また、地域学習教育において、担当教員が感じる課題に関して、質問したところ、地域学習教育を行うための準備等にに対する時間的余裕がなく、教員の人手不足やスキル不足、教員間の熱量の違いが存在していることが分かった。それぞれの専門の教科に加えて、これらの地域学習教育を行っていくことからも、教員側の負担がかなりあることが考えられる。

第４章　観光を題材とする地域学習教育の発展プロセスと高校と地域主体の協力関係の把握

４－１　はじめに

第４章では、第３章で抽出した、観光を題材とする地域学習教育を行う高等学校 13 校のうち、授業時間にて取り組みが行われている高等学校 12 校に対し、インタビュー調査を依頼し、許可が得られた 9 校の教員 11 名と、地域主体 10 名に半構造インタビュー調査を行った。この調査で、地域学習教育プログラムのプロセスにおける観光に関わる取り組みの発現状況や、そのプロセスにおける学校と地域の関わり方や、互いに対する期待や課題意識の変化を把握することを目的とした。（図 22）

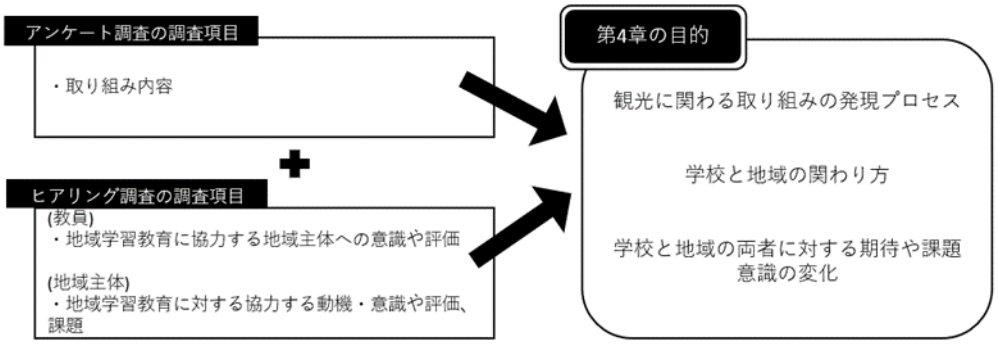


図 22　第 4 章の調査方法と目的

インタビュー手法は、教員や地域主体が明確に自覚していない意識を掴むため、設定した質問から波及的に質疑を繰り返す半構造化方式を選択した。

４－２　インタビュー調査概要

４－２－１　調査概要

○目的

アンケート調査を基に、より詳細な地域学習教育の効果、高校と地域主体との関係に関しての情報を調査し、離島高校の地域学習教育の今後の可能性に関して探ることを目的とする。

○調査形式

Zoom または電話を利用し、半構造化インタビュー調査を行った。

○質問項目

担当教員と地域主体でそれぞれ質問を立てた。質問項目は以下の表のとおりである。(表 9)

表 9　設定したインタビュー項目

教員に対する質問項目
取り組みの詳細（観光の取り組みも含む）
地域主体との関わり経緯
地域主体の取り組みに対する協力の姿勢・様子
地域主体への要望
これからの取り組みへの意識
地域主体に対する質問項目
協力した経緯
協力した動機
取り組みへの印象・評価
今後の協力意向

○調査対象者

アンケート調査において、観光を題材とする地域学習教育を行っている 13 校のうち、授業時間に取り組む 12 校を対象とし、調査の許可が得られた 9 校の担当教員 11 名にヒアリング調査を行った。さらに、教員からの紹介により、協力している地域主体の 10 名に対してもヒアリング調査を行った。

４－３　インタビュー調査の分析方法

４－３－１　分析手法

本章におけるヒアリング調査は、「質的データ分析法（佐藤郁也,2013,新曜社)」に基づき、以下の手順で分析を行った（図 23)。まず、インタビュー調査での発言を文字に起こし（①)、半構造化インタビューで想定した項目（②)ごとに QDA（質的データ整理支援）ソフトを用いて、コーディングを行った（③)。コーディングによって出た具体的なコードを KJ 法の要領でまとめ、抽象的なコードを割り当てた（④)。そして、総合的な探求の時間で想定される、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の探究活動のプロセスに沿ってまとめた（⑤)。最後に、縦軸を「半構造化インタビューで想定した質問項目及び、KJ 法にて抽出したコード」を、横軸は「総合的な探求の時間で想定される探究活動のプロセス」で整理した（⑥)（図 24）。

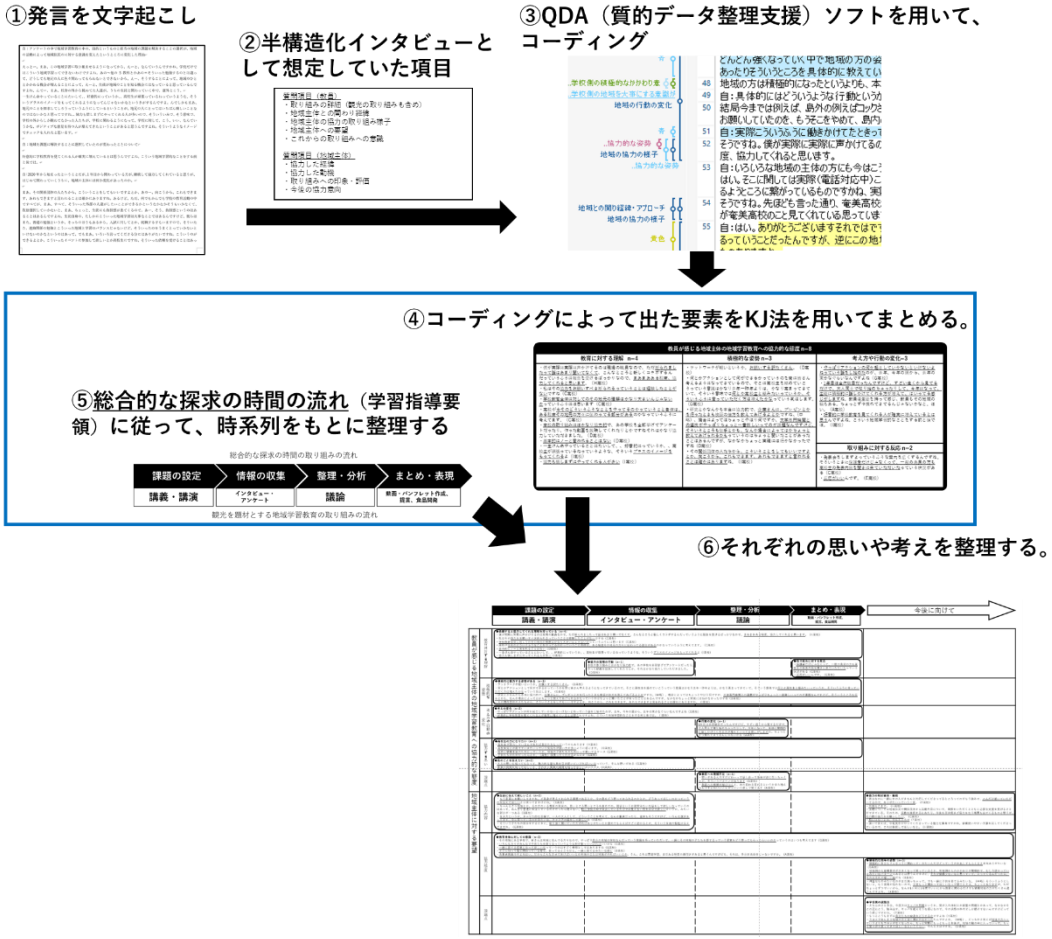


図 23　分析の概要

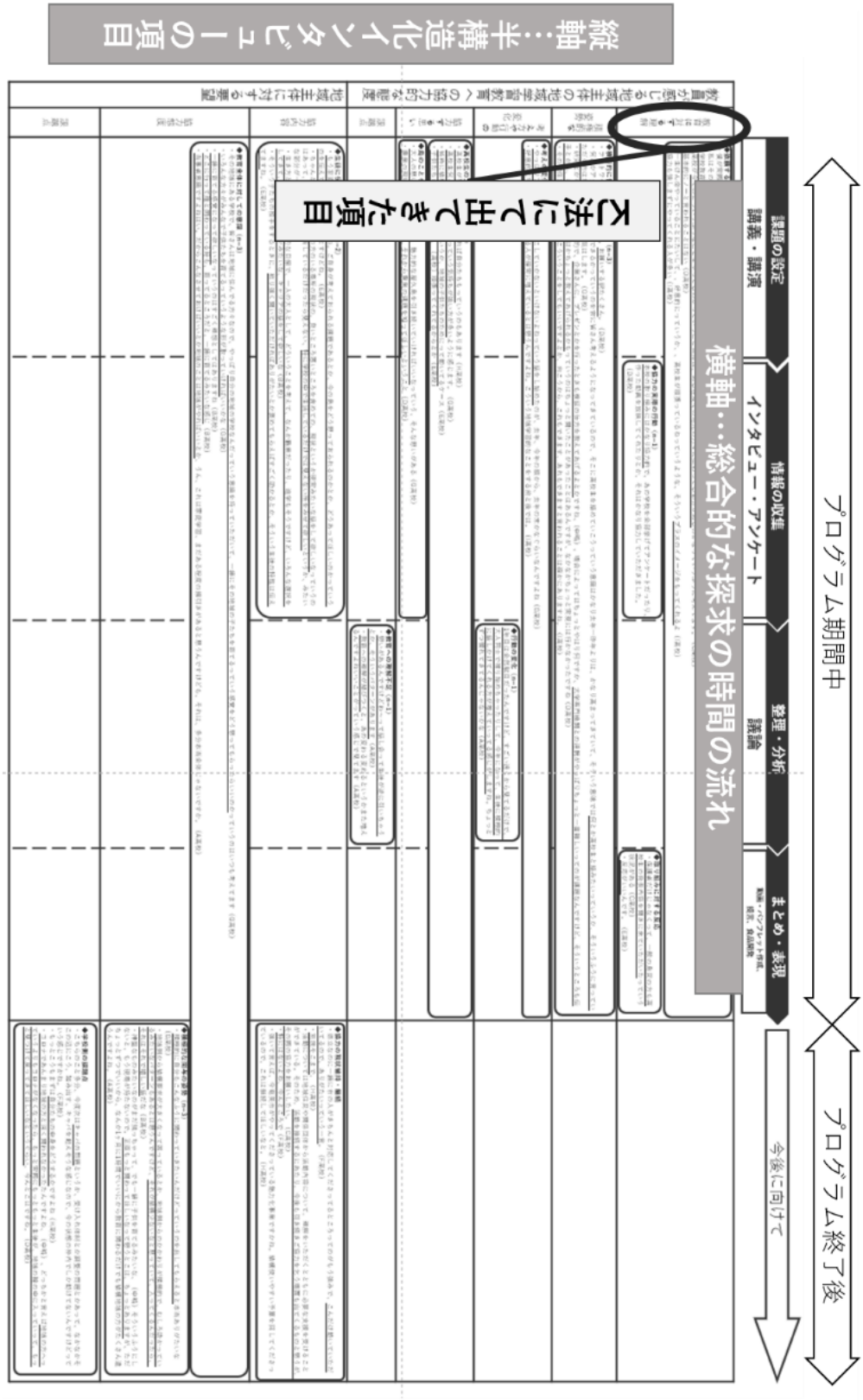


図 24　整理の最終イメージ

４－３－２　観光を題材とする地域学習教育の取り組み内容と探究活動のプロセス

アンケート調査によって明らかになった観光を題材とする地域学習教育に取り組む 13 校の取り組み内容の結果と、インタビュー調査での取り組みに対しての発言をもとに、取り組みの流れを整理する。

3 章において、観光を題材とする高校の取り組み内容は、講演やレクチャー、インタビュー調査において情報集を行っていた。その後、地域の課題発見や整理を行い、解決策の立案および観光産業に関連するパンフレット・ガイドブックの作成や、動画の作成を行い、発表会や成果報告会などを開催していることが整理された。また、インタビュー調査においても取り組みの内容に関しては、アンケートの結果と同様であった。

この結果より、まず、課題の設定時においては、地域住民や大学教授などの地域外の方から講演や教員による授業を行っていた。その後、アンケートやインタビュー調査において情報を収集する。そして、それらの情報をもとに議論や整理をしながら、アウトプットとして、商品開発やアイディアの提案、パンフレットや PR 動画の作成、解決策の提言を行っていることが分かった。（図 25）

以上の探究活動のプロセスと取り組み内容を対応させながら、整理を行っていく。

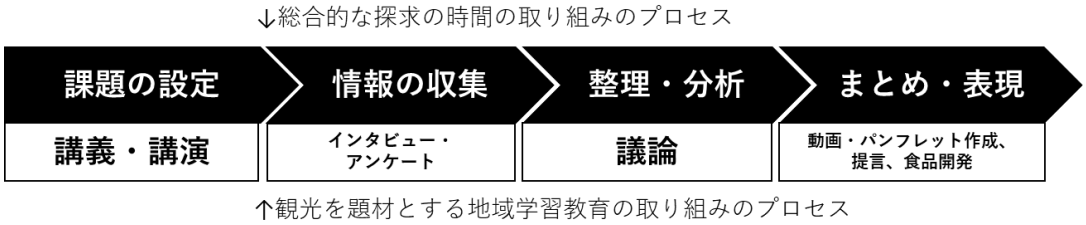


図 25　探究活動の取り組みプロセスと地域学習教育の取り組みプロセス

４－４　高校と地域主体の互いに対する考え

インタビュー調査結果を 4－2 の分析方法にのっとって、担当教員の発言と地域主体の発言で整理をしている。また、地域主体に関しては、行政と行政以外の地域主体とに発言を分けた。

４－４－１　教員が考える地域主体への考え

ここでは、教員が地域主体に対して考えていることを整理した。（図 26）半構造化インタビューにて、想定していた質問項目は、「地域主体の協力の様子（①)」、「地域主体に望む今後の協力姿勢に対する要望②」の 2 点である。

取り組み中 → 取り組み後

	課題の設定 講義・講演	情報の収集 インタビュー・アンケート	整理・分析 議論	まとめ・表現 動画・パンフレット作成、提言、食品開発	今後に向けて
①教員が感じる地域主体の地域学習教育への協力的な態度					
(i) 教育に対する理解 n=5	**◆依頼すると協力してくれる理解を持っている（n=4）** ・僕が実際に実際に声かけてるのは現場の職員なので、ただ断られましたって話はあまり聞いてなくて、こんなところと新しくコラボするんだっていうふうに報告を受けるばっかりなので、まあまあある程度、協力してくれると思います。（H高校） ・私はその協力をお願いすべき断られるっていうことは経験したことがないですね（C高校） ・学校教育全体に対してのその地元の理解はかなり大きいんじゃないかっていうふうには思います（C高校） ・高校が今そのどういうふうなことをやってるのかっていうこと自体は、ある程度その地元の方々に伝わってる部分があるのかなっていうふうに考えてます。（C高校） ・基本的にノーと言われることはない（D高校） ・一生けん命やっていることにたいして、、好意的にっていうか、、高校生が頑張っているねっていうような、そういうプラスのイメージをもってくれるよ（I高校） ・協力も惜しまずにやってくれる人が多い（I高校）	**◆協力の実際の行動（n=1）** 本校の取り組みにはかなり協力的で、あの学校を全部挙げてアンケートだったり、作った動画を放映してくれたりとか、それはかなり協力していただきました。（D高校）		**◆取り組みに対する反応** ・保護者だけじゃなくって、一般の島民の方も高校生の発表内容を聞きに来ていただいたっていう状況がある（C高校） ・反応がいいんです。（E高校）	
(ii) 積極的な姿勢 n=2	**◆積極的に協力する姿勢がある（n=2）** ・フットワークが軽いというか。お願いするとたくさん。（D高校） ・研究とかなんかも本当に協力的で、企業さんに、プレゼンとかを行ったときも検証の仕方を教えてあげるよとかですね、(中略）、場合によってはちょっとやはり何ですか、大学専門機関との連携がやっぱりちょっと一番難しいってのが課題なんですけど、そういうところも伝手とかも、なんか場合によってはかちょっと教えてあげられるかもっていうのはちょっと聞いたことがあったことはあるんですが、なかなかちょっと実現には行かなかったですね（D高校） ・その関係団体の人たちから、こういうことをしてもいいですよとか、向こうから、これもできます、あれもできますと言われることは確かにありますね。（I高校）				
(iii) 考え方や行動の変化 n=3	**◆考えの変化（n=3）** ・やっぱりアクションの何か起こしていかないといけないよねっていう話をし始めたのが、去年、今年の頭から、去年の末かなぐらいなんですよね（G高校） ・何とかアクションとして何ができるかっていうのを常に皆さん考えるようになってきているので、そこに高校生を絡めていこうっていう意識はかなり去年一昨年よりは、かなり高まってきていて、そういう意味では何とか高校生と絡みたいっていうか、そういうふうに言っていただく方は増えたかなっていう気はします。（G高校） ・好意的に学校教育を見てくれる人が確実に増えているとは思うんですよね。こういう地域学習的なことをする前と後では。（I高校）		**◆行動の変化（n=1）** 1年目は全然駄目だったんですけど、すごい遠くから見てるだけで、大人同士で喋り始めちゃったりして、今年になって、生徒に積極的に話しかけてくれる方が増えていってる感じがしますね。ちょっとずつ慣れてきてるんじゃないかな（A高校）		
(iv) 協力する思い n=4	**◆高校生の力になりたい（n=3）** ・高校生が努力しているんであれば自分たちもっていうのもあります（H高校） ・高校生何とか育てていきたいっていう気持ちが強い方が多いように感じます。（G高校） ・純粋に結構生徒のためにっていうか、地域の子供たちのためにって動いてるケース（E高校） ・子供たちのためだったらとか、〔高校〕頑張ってくれてるからとか（E高校） **◆島のことを伝えたい（n=2）** ・大人の思いも知ってもらって、魅力的な屋久島を引き続いていければいいなっていう、そんな思いがある（G高校） ・農業の現場を知ってほしいと、それから農業の課題を知ってほしいということ（D高校）				
(v) 課題点 n=1			**◆教育への理解不足（n=1）** ・思いがあるんですけどわ～って話し合って生徒が逆に引いちゃうとか、そういうパターンがあります（A高校） ・教育への理解が結びつくと、あの変わる変わるというかまた増えるんですよねいいことがっていう感じで見てます（A高校）		

凡例
◆発言のまとめ（n=該当人数）
コメント（発言者に当てられた記号）
下線（根拠となる発言）

図 26-1　教員が持つ地域主体に対する考えの整理

		取り組み中				取り組み後
		課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現	今後に向けて
		講義・講演	インタビュー・アンケート	議論	動画・パンフレット作成、提言、食品開発	
②地域主体に対する要望	(i) 協力内容 n=2	**◆生徒に伝えて欲しいこと（n=2）** ・もう率直にお願いしてますね。ご自身が考えておられる課題であるとか、今の島をどう思っておられるのかとか、どうあってほしいのかっていうのを伝えてほしいとは言ってますけどね。（E高校） ・ちゃんとこう地域とか、その方のいる場所の現状の、良いところ悪いところを含めての、現状というか現実みたいな話をして欲しいなっていうのはあって、あんまり普通に生活しているだけだったら見えない、特に学校の中で生活しているだけでは見えない所をみせて欲しいというか、みたいな部分が一つある（B高校） ・生き方というか、キャリア的な目線で、一人の大人として、どういうことを考えて、なんか職業だったり、進学もそうですけど、いろんな選択をしてきて、今に至っているのかみたいな、キャリアの話をして欲しいな（B高校） ・そういう子たちの相手をするときに、粘り強く聞いていただければありがたいとか褒めてもらえばすごく助かるとか、そういう生徒の特性は伝えてますね。（E高校）				
	(ii) 協力態度 n=6					**◆協力の現状維持・継続（n=3）** ・県立なのに一緒に市の人がきちんと対応してくださってるところってのがもう強みで、こんだけ動いていただいてるので、ありがたいっていう一言。（F高校） ・別段そこまで、（H高校） ・活動については地域住民や関係団体から活動内容について，理解をいただくとともに必要な支援を受けることができている。そのため，活動を継続するにあたり，今後も引き続きご協力をご2場面も出てくるものと思うが，その際の協力をお願いしたい。（C高校） ・特にはないよね、今んところで（F高校） ・強いて言えば、今〔地元〕がやってくださっている魅力化事業ですかね。結構使いやすい予算を回してくださっているので、これは継続してほしいなと。（H高校） **◆積極的な関与の姿勢（n=3）** ・積極的に自分もこんなふうに関わっていきたいんだけどっていうのを出してもらえると本当ありがたいな（G高校） ・地域側から結構要求が大きくなって困っているとか、地域側からのかかわりが積極的で、むしろ助かっているみたいなパターンもあるとは思うんですけど、それが結構少ないなと思っていて、入ってくるんだったら、それはそれで嬉しい話だな（B高校） ・神聖なものみたいなのがまだ残っちゃって、でも一緒に子供を育てるみたいな、（中略）そういうふうにしないと、もう現場が持たないので。正直もっと関わってほしいなって思うとこは、ちょっとありますが、ただちょっとずつでいいから、なんか1ヶ月に1時間でいいにから教育に関わるだけでも結構地域の方がたくさん違うんですよね。（A高校）
		◆教育全体に対しての意識（n=3） ・その地域にある学校で、皆さんは地域に住んでる方々なので、やっぱり自分の地域の学校なんだっていう意識を持っていただいて、一緒にその地域の子たちを育てるっていう感覚をどう思ってもらったらいいのかっていうのはいつも考えてます（G高校） ・いろんな方々がみんなで子供たちを育てるっていうような形が取っていければいいかな（G高校） ・一緒に育てる感覚になって欲しいなっていうのはすごく理想としてはありますね（B高校） ・どこに行って誰と関わっている時も、育ってるところだと、一緒に育てるみたいな感じ（B高校） ・当事者意識ですよねはい。だからこんなさせておけばいいとか地域のことは地域がやればいいとか、うん、これは家庭学習、まだある程度の線引きがあると思うんですけども、それは、多分本当全体じゃないですか。（A高校）				
	(iii) 課題点 n=3					**◆学校側の課題点（n=3）** ・こちらのこと多分、今度次はキャパの問題というか、受け入れ体制とか調整の問題とかあって、なかなかそこの辺にこう、踏み出す、キャパを超えそうな感じなので、今の状態の枠内でしか動けてないんですけどっていう感じですかね。（F高校） ・もっとこうもまずは自分たちの中身をどうするかですよね（H高校） ・コロナであんまり地域の方と深く関われなかったたんですよね、（中略）、どっちかと言えば地域の方へっていうよりもコロナがなくなったら、もっと実際にもっともっと生徒が、地域の輪の中に入っていって、もっと見つけて戻ってきてほしいなというぐらい、今んとこはですね。（D高校）

凡例

◆発言のまとめ（n=該当人数）
コメント（発言者に当てられた記号）
下線（根拠となる発言）

図 26-2　教員が持つ地域主体に対する考えの整理（つづき）

（1）教員が感じる地域主体の協力の様子（①）

「教育に対する理解（①-(i)）」に関しては、地域主体が地域学習教育に関して協力的であると、5 校の担当教員が考えていることがわかった。そのうち 4 校は、依頼に対して協力を拒まれることがなく、地域学習教育に対しての理解があると考えていた。また、アンケートや動画の放映などの依頼も協力的に行ってくれる地域主体や発表会や生徒の取り組みに対する地域主体の反応が良いと感じており、保護者だけでなく、島民全体に地域学習教育の取り組みに対する理解があることが考えられる。

「教育に対する理解」に対して言及した 5 校の中でも「積極的な姿勢（①-(ii)）」があると、担当教員が感じている学校が 2 校あった。地域主体の行動として、「フットワークが軽いというか。お願するとたくさん（D 高校）」や、「関係団体の人たちから、こういうことをしてもいいですよとか、向こうから、これもできます、あれもできますと言われることは確かにありますね（I 高校）」という発言からわかるように、高校側が求めたこと以上に動いていたり、地域主体ができることを提案したりする地域主体があることも分かった。

「考え方や行動の変化（①-(iii)）」は、地域主体が、地域に対してアクションを起こしていこうという考えや、学校教育を好意的に見る態度に変化があることが分かった。さらに、高校生と一緒にアクションを起こしていきたいという考えに変化している地域主体があることも分かった。また、行動の変化として、地域学習教育への参加の態度が変わり、生徒と関わろうとする行動が見えてきたという高校もあった。地域学習教育に協力することを通じて、学校教育を近くに感じ、高校生とのかかわりを持つ意識を持たせる効果があることが考えらえられる。

学校教員が考える地域主体が「協力する思い（①-(iv)）」は、高校生の力になりたいという考えと、島のことを伝えたいという思いが挙げられた。高校生の頑張る姿や、地域の子どもたちのためにと動く地域主体が多く、地域主体の考えの中に、地域の子どもたちを育てる感覚があることが推察できる。また、大人の現在考えている思いや、現在の地域の課題を知って欲しいという思いがあり、講義や講演、インタビューなどへの協力を引き受ける例もあることが分かった。これらは、地元の子どもである高校生に、大人の思いや地元の課題を

認識させ、将来を託していこうという意識があるからこそであると推察できる。

最後に、担当教員が感じる地域主体への「課題点（①-(v)）」であるが、これは教育への理解不足が挙げられていた。伝えたい思いはあるものの、教育を行うことへの知識がなく、高校生にうまく伝えられていないことがあると、A高校の担当教員は発言しており、地域主体の教育に対する手法の面に課題が残っていることが分かった。1 事例でのみの発言であったが、教育の専門家ではない地域主体が、教育に関わることに対する課題点であり、どの地域においても起こりうることであると推察できる。

（2）教員が地域主体に望む今後の協力姿勢に対する要望（②）

「協力内容（②-(i)）」は、地域主体が地域学習教育に関わる際に意識しておいて欲しいことをまとめたものである。高校生に対して、地域主体が考えている地域の現状や課題、思いなどの学校で生活しているだけでは見えない部分と、協力されている方の人生に関してキャリアの視点から、率直に伝えて欲しいという考えが、教員にあることがわかった。これらの発言をした担当教員は、「課題の設定」時の講義や講演、「情報の収集」時のインタビューやアンケートの際に、地域主体に協力してもらっている学校の教員であった。地域主体が高校生に教えたり、伝えたりする場となる、「課題の設定」時や「情報の収集」時の地域主体の関わりとしては、地域に住む大人が感じていることを率直に子どもたちに伝えることが求められていることが考えられる。

「協力姿勢（②-(ii)）」は、地域主体の協力する様子に関して、今後の要望をまとめたものである。現状に満足をしている高校が 3 校であり、より積極的な関与の姿勢を求めている高校が 3 校あった。満足している高校では、「こんだけうごいていただいてるので、ありがたいの一言（F 高校）」や、「別段、そこまで（H 高校）」という発言から、現在の協力姿勢以上にもとめるものがない考えを持っていることが分かった。また、　今後の支援や協力を継続して欲しいということも述べており、これからも継続的に同じような協力をしてもらうことを望んでいることが分かった。一方で、より積極的な関与の姿勢を求めている学校は、「こんなふうにかかわっていきたいんだけどっていうのを出してもらえると本当ありがたい（G 高校）」や地域側からの要求が「入ってくる

んだったら、それはそれで嬉しい話だな（B 高校)」、「もっと関わってほしいなと思うとこは、ちょっとあります（A 高校)」のような発言から、地域主体がより主体的に地域学習教育に対して関わることを望んでいることが考えられる。これらの学校は、教育全体での地域主体のかかわり方にも言及していた。「一緒に育てる感覚になって欲しい（B 高校)」や、「いろんな方々がみんなで子どもたちを育てるっていうような形を取って行ければいいば（G 高校)」という発言からわかるように、学校だけでなく地域全体で高校生、さらには地域の子どもたちを育てている感覚をもってほしいという考えを持っていることが分かった。この考え方は、地域教育の考え方であり、学校教育の根幹に地域教育の考え方があることが考える。地域学習教育を通して、地域と学校が協同して、子どもを育てるもののきっかけとして、地域学習教育が利用されていることが推察できる。

「課題点（②-(iii))」は、地域主体に対してではなく、学校自身の今後の取り組みに対する課題点である。「キャパの問題というか、受け入れ態勢とか調整の問題とかあって（F 高校)」や、取り組みの「中身をどうするか（H 高校)」という発言から、現在の学校が抱える地域学習教育における課題点が、地域主体を受け入れるための態勢ができていないこと、地域学習教育の取り組み内容がまだ模索段階であることが考えられる。また、これに関する発言した 3 校の担当教員のうち、2 校は前述の地域主体に対する協力体制に満足をしていると発言しており、地域主体の要望より、学校側が地域学習教育に対する改善をしていかなければならないと考えていることが分かった。

４－４－２　地域主体が考える取り組みや学校に対する考え

ここでは、地域主体が取り組みや学校・教員に対して考えていることを整理した（図27、28）。地域主体に関しては、行政と個人や住民で整理を分けている。これは、行政の組織としての回答と、個人や住民の個人としての回答には、立場による発言に差があると考えられたためである。そのため、それぞれの半構造化インビューで想定していた項目において、行政と行政ではない地域主体でそれぞれ議論を行う。質問項目は、「取り組みに協力した動機③」、「学校への評価④」、「取り組みに対する今後の要望⑤」、「取り組みに対する今後の協力意向⑥」の４点である。

図 27-1　地域主体（行政）がもつ高校に対する考えの整理

取り組み中 → 取り組み後

課題の設定（講義・講演） → 情報の収集（インタビュー・アンケート） → 整理・分析（議論） → まとめ・表現（動画・パンフレット作成、提言、食品開発） → 今後に向けて

③協力した動機

(i) 評価 n=2

◆取り組みに共感・評価（n=2）

・地元のことを子供のときから考えたりとか、どういう課題を持っていて、それをどうしたいのかっていうのを考える時間があるというのは、〔地元〕の将来にとっても、子供たちが考えてくれるのはいいことなのかなあと思うので、それに対して市としては、協力するっていうのは、なんでしょう、当たり前（c）

・人口減少対策を考えるときに、やっぱりUターンしてもらうってことが大切になると思うんですけど、その時には島とのつながりを今のうちに強くすることが必要だと思うんです。（中略）、あとあのその、地域の課題に対して自分たちがこう能動的に取り組んで解決していくような取り組みを、今のうちにしてもらうことが子供たちの成長自身につながると思います。それがまた、いずれ自分がいろんなスキルを持った時に、このスキルを使って、そういった課題を解決する、と思ってもらえるかとか、色々とつながりが出てくると思うんですよ。そういう意味で、我々はパラモンプランの取り組みに協力することはすごく意味があることだと思っているんですよ。（d）

(ii) 期待・願望 n=4

◆将来地元と繋がる期待（n=3）

・将来、進路が少しでも〔地元〕の方に向いてくれると嬉しいなあという気持ちがあります（b）

・離れる前にできるだけ地域を知ってもらいたいという一つは思いがあります（b）

・いつか島にUターンしてくれるっていうこともあるかなと思っていて（d）

・島に大学がないから、90%ぐらいは、島外に就職進学していってしまうのを、1人でも2人でもいいんで、島に残す仕組みって何かできないのかっていうのを模索してた時なんで、そういったのをきっかけに、あの島に残ってもらえればっていうような思いが当時あったんで、それも含めて、っていう感じです。（e）

◆成果に期待（n=1）

・実現的な提案になれば、それはそれでまた市としての、利益と言いますか、市としての事業に繋がっていくようなことも考えられるので、なので高校生の意見を市として捉える場でもあるので、すごく大事な場として考えております（c）

④学校への評価

(i) 取り組みに対する評価 n=5

◆取り組みによる機会の創出（n=3）

・地元のことをやっぱり、いろんな文化なんかを知りたいっていう子どもたちが、増えてるかどうかちょっとわかんないですけど、そういう時間を持ってくれてるので、いい状況なのかなと思ってます（b）

・一番は地元に住んでる人たちが地元のことをよく知ってもらって、で、地元に住み続けてもらう、それが、それが最終的にはそれしかないのかなというのがあるので、それに乗っ取った教育を小学校中学校高校がしてるっていうのは、一番いいことだと思います。（b）

・この高校生の時代に、地元のことを考えるということは、自分自身もなかったので、その課題を探す、市がどういう課題を抱えてるんだとかっていうのを知るっていうことも多分なかったと思うんですね。ですので、そういう点ではすごくいい機会を作っていただいてるなあとは思っております。（c）

・本当貴重な、貴重な人材ですよね、もう。本当に〔地元〕をしょっていくっていう、人数もどんどん減ってる中で、期待というのも確かにあると思うんですね。そういった中で、その地元のことを考えてくれるっていう嬉しさももちろんあると思います（c）

・自分たちと地域とのかかわりを強くする取り組みっていうのがすごく意味があると思うんですよ。私が高校生だった頃って、そういう取り組みが全然なくて、高校卒業したら、都会の大学に進学して、そこで就職するとか、そんなことしか考えてなかったんですけど、それとは全然違って、自分が住んでいる場所と自分のつながりっていうのは、この〔取り組み〕を通して強くなっているのかなと思っています（d）

◆取り組みへの印象（n=2）

・まずありがたいというのがまず一番にあります（c）

・初めて聞いたときめちゃくちゃレベル高いことしてるっていうのは、素直に思って（g）

・（著者）地域側っていうのはかなりいろんなことやってるなとか、結構プラスに取られてはいらっしゃるんですかね、（調査対象者）やっぱりそれは間違いなく、（g）

・〔取り組み〕の中身のカリキュラムとかもしった状態であれすごいなみたいな話も聞いたことあるし、そういったところでちょっとずつ、〔取り組み〕の認知度が上がってきたときにやっぱり、そういう声が聞き出してます。（g）

◆先生に対して（n=2）

・学校の先生たちは忙しいってイメージがあるので、あんまり学校の先生たちにいろいろお願いするのが恐縮するかなっていうのはあるんですけど、やっぱりいろいろお願いしていったらやっぱり、ひきうけていただけるので、うちらってありがたいんですけど、あんまり負担にならないように、気を遣うところはありますね。（b）

・〔著者〕やっぱり島の外から来た先生が最初はギャップというか、そういったところに驚かれている感じ、様子は結構あるんですかね。（調査対象）そうね。うん、そして地域のことも知らないし、全く。（著者）自分が学ぶところから始まりますもんね。（調査対象者）そうそう、だから大変なんよ、先生たちが。（e）

◆取り組みの効果（n=1）

・子供たちが多分一生懸命頑張ってたら親、親と大人ってすごいそれを協力しようとしたっていうような形で活力が生まれていくっていうのが一つ期待できるところだと思う（g）

(ii) 課題点 n=2

◆課題点（n=2）

・結局ルーティン化してしまうと、一番最初に気づいた人の思いっていうのが多分、薄くなっていくっていうのが多分あるかな（e）

・3年間カリキュラムの中でどこまでできるかという話になってくるんですよね。今の時間だと、ここくらいが限界なのかなという気がしますね（b）

凡例

◆発言のまとめ（n=該当人数）
コメント（発言者に当てられた記号）
下線（根拠となる発言）

図 27-2　地域主体(行政)が持つ高校に対する考えの整理（つづき）

取り組み中 → 取り組み後

		課題の設定 講義・講演	情報の収集 インタビュー・アンケート	整理・分析 議論	まとめ・表現 動画・パンフレット作成、提言、食品開発	今後に向けて
⑤取り組みに対する要望	(i) 内容 n=2					**◆取り組み内容（n=2）** ・いろんな分野のテーマで、携わってもらえると、よりその地域との結びつきも深くなっていくと思う（g） ・この取り組みも、もっと大々的にですね、例えば市民の方とか発表できるような場があったりだとか、周知も記録できたりするとまたいいのかもしれない（c） **◆取り組みの期間の捉え方（n=2）** ・小学校中学校高校の話になってしまいますね。例えば、小学校でこんなこと、中学校でこんなことって題材があるんだけど、例えば一つのものに対して、繋げて、小学校で習ったことの上に中学校の探求の時間、中学校で習ったことのものの上に高校の探究に時間、そういう繋げたものがあれば、もったいなくならなくても、中学校で習ったことがもったいなくならなくても済むのかなとは思うけど、そこはまだ難しいかなと。（b） ・やっぱりどうにかいいアイディアとかですね、継続していけたらなというのはありますね。その次の学年にも引き継いだりとかですね（c） ・その1年生2年生でがっつりやれたりするとまた成果が変わってくるのかなという気はしますね。（c）
	(ii) 継続 n=4					**◆継続希望（n=4）** ・ぜひこういった取り組みを今後も高校には続けてもらえるとありがたいなと思います（d） ・一番最初に携わった先生が、途中で見に来る仕組みであったりだとか、（中略）、今どんな感じで回ってるのかとか、自分が思い描いた学習がきちんとされてるのかっていうのを見せる機会も必要なんかなっていうのは、あるなあと思って（e） ・これはもう、必要大事なことを、両方、高校だけでなくて、私たちにとってもだいじなことなので、ぜひ続けて下さいとお願いしたいところではあります（b） ・継続してもらっていく、5年目っていうところがあるけど、これがもう10年15年と続いていくといいな（g）
	(iii) 高校生の姿勢 n=1					**◆高校生の取り組みに対する熱量（n=1）** ・高校生の熱量の方も上がっていってくれる方がこちらもやる気が出たりとかっていうのもあるのでそこが難しいけど、熱を持たせでくださいという感じです（c）
⑥今後の協力意向	(i) 意識 n=3					**◆協力姿勢（n=3）** ・基本的に学校側から求められてそれに対して動くというスタンスなので求められることであればですね、がっつりと協力をさせていただきたいと思っています。（c） ・位置づけは我々アドバイザーなんだと思うんですよ。そういう形で、行くのは全然かまわないです。また別の役割。実際どういう役割を期待されるかはわからないんですけど、何かもっとこういうことして欲しいってあるんだったら、ぜひそういうのには協力していきたいと思います（d） ・一番最新しい観光、観光も毎年毎年変わっていくものだから、そういう情報っていうのを提供してあげられたらいいなっていうのが一つと、そういうところからきっかけで、外との交流っていうのも、僕らを利用してもらって、あの結びつけていけたらいいかな。観光に係る協力依頼があればもうこっちはどんどんどんどん積極的にさせてもらいますよっていう感じ（g）
	(ii) 関わり方 n=1					**◆教員のフォロー（n=1）** ・題材選ぶのに、大変だ、苦労されているという話をきいたりするので、そこをフォローする形、こういうものがありますよ、そういう探しやすくするようなお手伝いができたらなと思っています。（b）
	(iii) 思い n=1			凡例 **◆発言のまとめ（n=該当人数）** コメント（発言者に当てられた記号） 下線（根拠となる発言）		**◆生徒に期待する意識（n=1）** 少しでも島内に就職したりとか、残ってくれる人を欲しいなっていう思いだったけど、今もう全然そういうことじゃなくて、地域で学んだ、地域のことをキチンと思った上で、あの本土でチャレンジする。でも本土にいながらも地域のことを、自分の育ったところをきちんと思ってくれれば、もうそれだけでいいかなって思って（e）

取り組み中 → 取り組み後

		課題の設定 講義・講演	情報の収集 インタビュー・アンケート	整理・分析 議論	まとめ・表現 動画・パンフレット作成、提言、食品開発	今後に向けて
③協力した動機	(i) 期待・願望 n=4	**◆島の将来のため（n=3）** ・〔地元〕の子たちが行きたい高校にしていくっていうのが一番なんじゃないかなっていうこと、かなりあって、今子育てもしてるので、今小学2年生の方なんですけど、〔高校〕に行ってほしいってわけじゃないですけど、〔高校〕に行きたいっていう選択肢が生まれるようにはしたいなと行ってほしいとは思ってないんですけど、別に高校に行きたいって言ったら行けばいいし、いきたくないって言ったら、自分が好きなことすればいいんじゃないかなと思いますけど、選択肢があることが大事かなと。（a） ・島にとってもプラスだなっていうのをもう感じたときに、そこに自分の力で多少なりとも良い影響があるならば、関わらせてもらえたらいいな（f） ・ちょっとでも栄えてもらえば、交流人口が増えて、〔地元〕を知ってもらえるきっかけになったりすればね、ありがたいじゃん。そういう気持ち、そういう気持ちはあるね（i） **◆伝統を継承したい（n=1）** ・神楽もちょっと舞ってみたいな、協力してみたいなという子供が1人でも出ればいいのかなっていうのも一つのきっかけもちろん、まず大まかに言ったらもう知ってほしい知ってほしいな（h）				
	(ii) もとからある考え方 n=3	**◆なんでも協力する意思（n=2）** ・私達でできることならばっていう形でね。なんでもその協力をしますよというのが前提だからやっぱ〔地元〕では。もうほら、そんなの嫌だよっていう人おらんと思うよね。わからんけど。私たちは、どうどうぞどうぞ私達で何か、何か協力できたら力になることがあれば、いくらでもしますよっていう感じ。（i） ・学生じゃなくてもいいんですよ。宇久島ですから、人口2000人くらいしかいないんで、それこそ、高校の先生だけとかでも構わないし、事業者さんでも構わない島民でも構わない、何かしら動こうとするのが大事だと思うんで、学生とっていう言い方ではないような気がしますね。誰か何かやるんやったら協力します。〔地元〕のためであればなおさらのこと。（j） ・母校からの依頼だったので、断る理由はないかな（j） **◆地域で子どもを育てる意識（n=1）** ・地域一体でね、子供たちを育てていかなきゃいけないというところが一番大きいのかなとあるから、そういった方にね。地域が、少しでも協力して、やっていかんばいけんね、というのは思いながらやってる（h）				
④学校への評価	(i) 取り組みに対する評価 n=4	**◆高校生への期待（n=1）** ・Facebookのコミュニティを作ってるんですけど、そのときにいろんな自分たちの活動を投げるんですけど、あんまり反応ないけど、高校生のことだけ投げるとみんなが一気に返信してくるみたいな。これ自分だったらこれができるよみたいな、いいねーみたいな、皆、高校生ににすごい期待してるんだな、みんなすごく感じます（a） **◆取り組みに共感（n=1）** ・その授業が単純に面白いというか私が高校生の時に欲しかったなと思ったんですね。私も1回高校卒業して出て帰ってきてる感じなんですけれども、帰ってくるまで島のことってあんまり知らなかったし、なんか島にどんな大人がいるのかも知らないし、なんか自分の進路も適当に決めちゃった感じだった（f） **◆取り組みの様子（n=2）** ・今すごいで頑張ってる感じがするからこのまま頑張ってくださいという感じで（f） ・子供たちは一生懸命頑張ってくれてて先生方も一生懸命だと思ってる（i） **◆取り組みの効果（n=1）** ・島だけの発表会じゃなくてっていうこと。（中略）、そこ（島外での発表）で自信をつけていってるんじゃないかなと思うね（h）				
	(ii) 課題点 n=5	**◆高校の関わりにくさ（n=4）** ・ただ地域も学校に入りたいけど、学校が閉ざされてるっていう現状も、ね、〔地元〕とか島だったら不審者とか、そうそういないんで問題ないと、やっぱりそういう部外者が入ってきたとき何かあったらっていう、その怖さがあると思う（a） ・保護者がかかりやすいっていうのが現状だと、保護者以外だと、なかなか協力しづらい。学校の先生が知ってる人と繋がれるイメージですね。（a） ・高校生とかなってきたらちょっともう、勉強が忙しいとかかったるいとかなって、あるかもしれんけど、地域の行事、例えば文化祭にしろ何しろ、そういったものを見に行ってみようかなとか、そこでまた新しい発見ができるかもしれないですよね。高校生に対してそういうのがあるよね。今はなかなかね。お祭り自体もその高校生とかは、もの持ったりとかなんかすることないけん。（h） ・自分の子供がおったときはどういうことをやってるというのが、ちょっと目に見たり聞いたりする感じてたけど、今はちょっと子供が学校離れたら、そのどういうことを起こしてるかがちょっともう見えてないとね。それはちょっと私達は回覧板とかで高校だよりと宇久中だよりとかもちょっと回っては来てるけど（i） ・だいたい高校がその親御さんとかじゃない限り、どういったことやってるっていうのはわかんないんですね。（j） **◆ハード面での受け入れ態勢（n=1）** ・技術的な話とかになるんですけれどもWi-Fiで、学校の中で飛んでるWi-Fiで、TwitterとかGoogleとかが見れない、それはセキュリティ的にしょうがないところではあるんですけれども（f） ・teamを使ってたんですね。それに学習支援員が入れない。アカウントを作ってもらえないみたいなっていうので生徒たちが何を提出してきたのかがわからないみたいな状況が、この2学期まで続いて（f）				

図 28-1　行政以外の地域主体が持つ高校への考えの整理

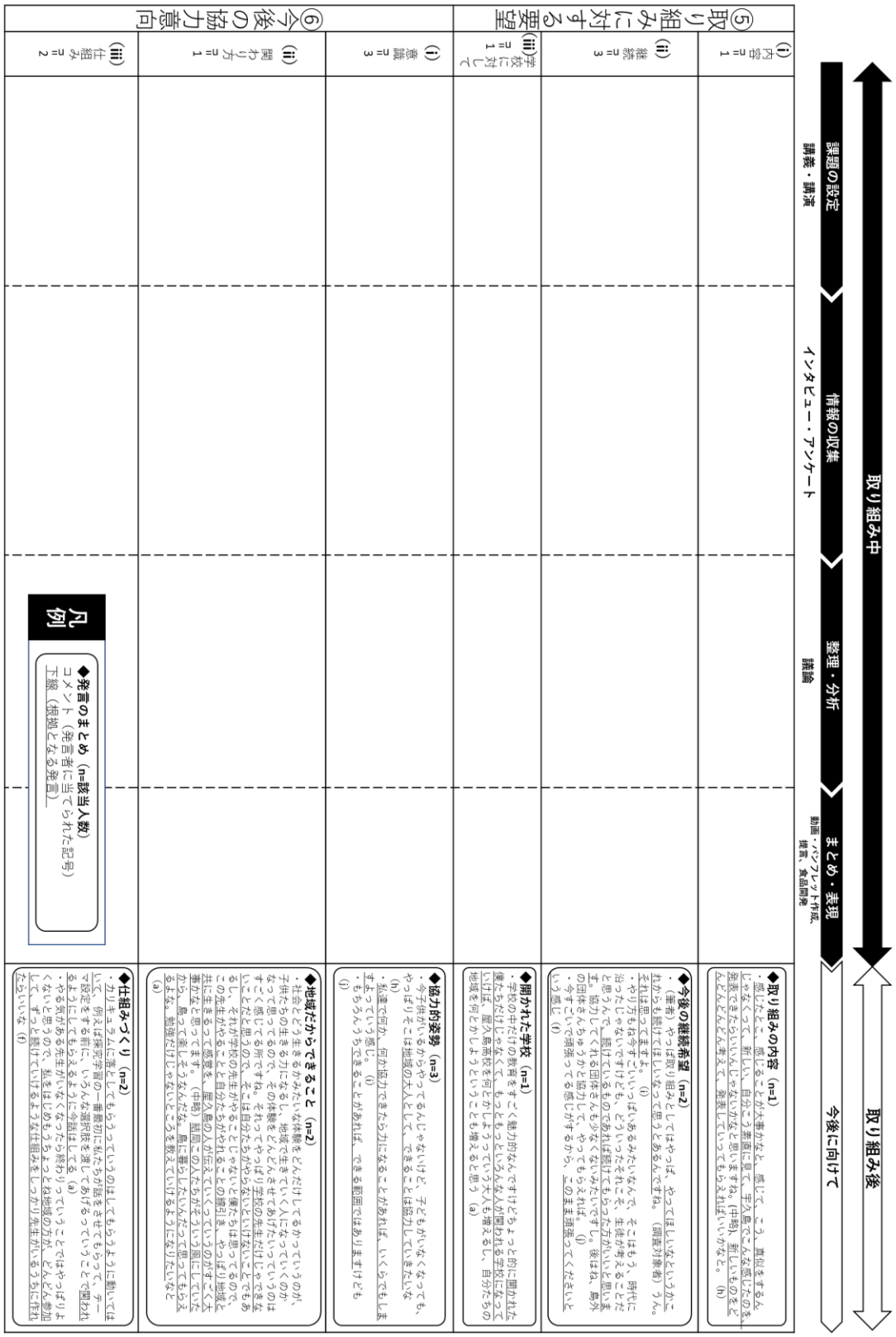


図 28-2　行政以外の地域主体が持つ高校に対する考えの整理（つづき）

（１）地域主体が取り組みに協力した動機（③）

取り組みに対する「評価（③-(i)）」は、協力を依頼された際に、地域学習教育の取り組みに対して、肯定的な評価をしたということである。地域主体のうち行政側に該当する発言があった。「〔地元〕の将来にとっても、子どもたちが考えてくれるのは良いことなのかなと思う（ｃ）」や「地域の課題に対して自分たちがこう能動的に取り組んで解決していくような取り組みを、今のうちにしてもらうことが子どもたちの成長自身につながると思います（ｄ）」という発言の通り、地域学習教育に対して、島の将来や子供たちの成長につながるものだと感じ、協力していたことが分かった。

「期待・願望」（③-(ii)）は、地域学習教育を通して、将来への期待や願望を表したものである。これは、行政も行政ではない地域主体も発言をしている。まず、行政は「進路が〔地元〕に向いてくれる嬉しい（ｂ）」や「そういうのをきっかけに、島に残ってもらえれば（ｅ）」という発言より、高校生が地域学習教育をきっかけに島に留まることやUターンの選択肢を進路を考える上で、持ってほしいという期待を持っていることが分かった。また、成果物に対して、「実現的な提案になれば、(中略)、市としての事業につながっていくようなことも考えられる（ｃ）」と発言しており、地域学習教育での成果物をこれからの市の事業に採用できたらという期待もあることが分かった。行政でない地域主体も同様に、地域学習教育への期待を感じ、協力をしている経緯があった。交流人口の増加や、島で伝わる伝統芸能の継承につながることを期待しており、地域全体で地域学習教育において、高校生が島に留まるもしくは、将来戻ってくるきっかけとなると考えられていることが考えられる。一方で、行政でない地域主体では、「もとからある考え方」として、協力を惜しまない考え方で協力をしていることも考えることができた。行政でない地域主体は、高校からの依頼に対して、断る可能性が低いことが考えられる。

（２）地域主体が考える学校への評価（④）

「取り組みに対する評価（④-(i)）」は、実際に協力する中で、地域主体が感じた地域学習教育に対しての評価である。行政側は、「いろんな文化を知りたい(中略)、そういう時間を持ってくれている（ｂ）」や「すごくいい機会を作っていただいている（ｃ）」、「自分が住んでいる場所と自分のつながりっていうのは、この〔取り組み〕を通して、強くなっているのかな（ｄ）」という発言の通り、地域学習教育が子どもたちに地域を知る機会や、地域と繋がる機会を創出していると認識されていることが考えられる。さらに、地域学習教育に対して、「ありがたい（ｃ）」や「すごいなみたいな話も聞いたこともある（ｇ）」のように好印象を持っていることが考えられる。また、取り組みの今後の効果として、子どもの頑張る姿が親や大人が協力をすることで、大人にも活力が生まれると期待している方もいたことが分かった。これらの好意的な評価の一方で、教員の忙しいイメージから、気を使っていることや、赴任してくる教員の負担に対しての心配や、遠慮があることが分かった。行政でない地域主体は、主体が所属するコミュニティでの高校生に対する期待が高いことが分かった。高校生が行う取り組みに対しての反応が良いことが挙げられており、地域にとっても高校生の力が期待されると考えられる。また、地域学習教育の取り組み内容に対して、「私が高校生の時に欲しかったな（ｆ）」という発言からわかるとおり、地域主体は、この取り組みに対して好印象を持っており、必要性を感じていることが考えられる。加えて、地域学習教育に対して、「頑張っている感じがする（ｆ）」や「子供たちは一生懸命頑張ってくれてて先生方も一生懸命だと思ってる（ｉ）」という発言より、現在の活動の様子に対して、高評価をしていると考えられる。また、島内だけにとどまらず、島外での発表を行う取り組みに協力する地域主体は、生徒の自信を持たせる機会となっていると考えていることが分かった。

「課題点（④-(ii)）」は、地域主体が協力する中で、学校や地域学習教育に対して感じている課題点のことである。行政は、地域学習教育のルーティン化によって、始めた当初の思いが薄れてしまうことや、3 年間のカリキュラムにおける取り組み成果の限界を挙げていた。行政でない地域主体は、「保護者以外だとなかなか協力しづらい。学校の先生が知っている人と繋がれるイメージ

（ａ）」や「子供が学校を離れたら、どういうことをしてるかが見えてない（ｉ）」という発言からわかるように、高校と地域主体の関わりにくさがあることが考えられる。特に、保護者や先生と関りのない人にとっては、学校は近づきにくい印象を持たれていることが推察できた。また、協力する中でハード面の整備に対してまだ、整っていないことに対しての課題もあるという発言もあった。関わり方によっては、デバイスなども必要となるため、単純に招き入れるだけでは、円滑な取り組みを進めることが難しいという課題が推察できる。

（３）地域主体が考える取り組みに対する今後の要望（⑤）

「内容（⑤-(i)）」は、地域学習教育の取り組み内容に対する要望をまとめたものである。行政は、「いろんな分野のテーマで、携わってもらえると、よりその地域との結びつきも深くなっていくと思う（ｇ）」というテーマに関する要望や、「取り組みをもっと大々的に、発表できる場（ｃ）」を作るという地域への周知へとつながる活動に関する要望が挙がった。地域との更なるつながりの創出や周知を行うことで、より多くの住民が高校生の取り組みに認知し、参画することが、行政が考える要望であると考えられる。また、一つのものに対して小中高で繋げて行ったり、「次の学年にも引き継いだり（ｃ）」行政でない地域主体は、真似ではなく「新しいものを考えて発表して欲しい（ｈ）」という今後の高校生の取り組みによる成果に関して要望が挙がっていた。

「継続（⑤-(ii)）」は、今後の地域学習教育の継続することをまとめている。行政は、今後も続けて欲しい要望に加え、「一番最初に携わった先生が、途中で見に来る仕組み」をつくり、当初の思いがしっかりと受け継がれていることを確認してもらうようにすることが必要であると発言していた。行政でない地域主体も同様に、今後も継続していくことを求めていることが分かった。

「高校生の取り組み姿勢（⑤-(iii)）」は、行政が挙げたものであり、高校生の熱量がバラバラであるため、全体的に熱量を挙げることに対する要望であった。

「学校全体に対して」は、行政ではない地域主体が挙げたものであり、今協力している地域主体だけでなく、より多くの人が関われる学校になって欲しいという要望であった。

（４）地域主体が考える取り組みに対する今後の協力意向（⑥）

「協力への意識（⑥-(i)）」は、今後の地域学習教育に対して地域主体の協力への意識のことである。行政は、「学校側から求められてそれに対してい動くというスタンス（ｃ）」や、「もっとこういうことをして欲しいってあるんだったら、ぜひそういうのには協力していきたい（ｄ）」という発言からわかるように、依頼があれば、協力をしていく意識を持っていることが分かった。行政ではない地域主体は、「地域の大人として、できることは協力していきたい（ｈ）」や「できることがあれば、できる範囲ではありますけど（ｊ）」という発言より、地域の大人の役割として、できる範囲で自身の可能なことを行うことが意識されていると考えられる。

「関わり方（⑥-(ii)）」は、今後の地域学習教育への協力の仕方のことである。行政は、教員の苦労している点に対して、フォローしていきたいという意見が挙がった。行政ではない地域主体は、「学校の先生じゃできないことだと思うので、そこは自分たちがやらないといけない（ａ）」という発言より、地域の人だからできることをやっていきたいという意思が見られた。地域学習教育に協力する中で、教員と地域主体が協同で取り組みを進めていく意識が出ていることが推察できる。

「思い（⑥-(iii)）」は地域学習教育に取り組む高校生に対する地域主体の考えである。行政で発言があった。協力当初は、島に留まることを念頭に置いていたが、協力するにつれて、「自分の育ったところをきちんと思ってくれれば、もうそれだけでいいかな（ｅ）」という発言のように、高校を卒業後、地元に居住するという選択肢ではなく、地元との関係を持ち続ける存在となって欲しいと考えていた。

「仕組み（⑥-(iv)）」は、今後の地域学習教育に対して、地域主体が継続して関わり続けられるためのものである。「カリキュラムに落としてもらうっていうのはしてもらうように動いてはいて（ａ）」や「もうちょっと地域の方が、どんどん参加して、ずっと続けていけるような仕組みを（ｆ）」という発言から、継続的に地域主体が地域学習教育に協力することが重要と考えていることが推察できる。

４－４－３　高校と地域主体の両者の考えから見る関係性

観光を題材とする地域学習教育を行う離島高校において、高校と協力する地域主体の関係をまとめる。インタビュー調査の整理から、取り組み中と取り組み後で語られる内容が多かったことから、この二つのフェーズにおいて、整理を行い、高校と地域主体の関係性をまとめた。(図 29)

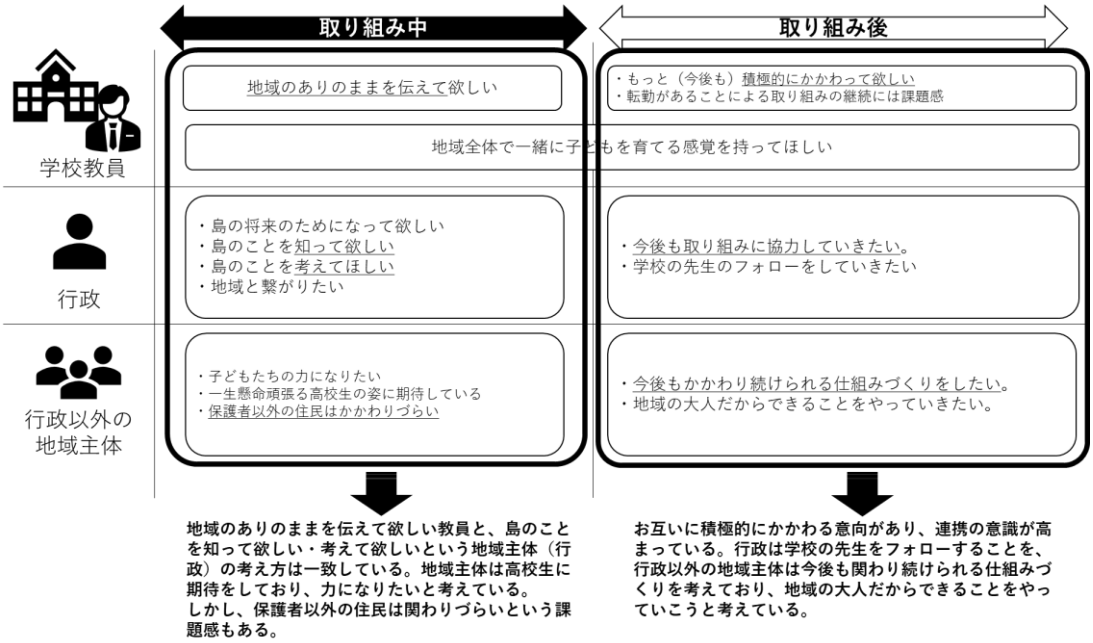


図 29　高校と地域主体の協力関係におけるそれぞれの考え

（1）取り組み中

まず、教員が地域主体に対して持っている要望であるが、地域のありのままを、率直に伝えて欲しいと考えていることが明らかとなった。これに対し、協力している行政は、協力動機として島のことを知って欲しいという思いや、島のことを考えて欲しいという思いをもっていることが分かった。これより、教員が地域主体に対して生徒に伝えて欲しい内容と、地域主体が生徒に伝えたい内容が一致しており、教員の望みを行政が応えていると考えられる。

また、教員は地域主体に対して、地域全体で一緒に子供を育てる感覚を持ってほしいという要望を持っているが、行政以外の地域主体は、保護者以外の住民は関わりづらいと感じており、実際に子供が卒業した後は、高校とのつながりが弱くなり、高校がやっていることを把握できなくなってしまったというよ

うな発言もあった。これより、高校との関わりを持ちづらいと感じてる地域主体や、そもそも関わる機会を持たない地域主体が存在している可能性があると推察できる。したがって、教員の要望と、地域主体が感じている学校への評価から、両者の間には障壁があり、今後の取り組みにおいて、多様な地域主体との関係を広げにくくなる可能性があることが推察できる。

（２）取り組み後

教員の地域主体に対する今後の協力体制に関して、現在の協力姿勢に満足し、今後も同様の姿勢での協力を望んでいる高校もあるものの、より積極的な関わりを望んでいる学校もあった。いずれの場合においても、今後も地域主体には関わって欲しいという考えを持っていることが考えられる。一方で、地域主体は、協力をしていく中で、島の将来のためという公益的な意識から、それぞれの立場において、取り組みへの関わり方を考えるように意識が変化していることが明らかとなった。行政は、地域のことを全般的に知っている立場であることから、テーマ決めの際の教員のフォローを行うことを考えていた。また、行政以外の地域主体で、取り組みに随時参加し、生徒との議論やアドバイス、地域主体の紹介など全体的に関わっている地域主体は、今後も継続的に関わることができるように教員に頼んで、カリキュラムに入れるようにしていたり、仕組みを考えたりしていることが分かった。講演やインタビュー、アンケートでの単発的な関わりを持っている地域主体は、能動的に学校に近づく意識はあまり見られなかったが、協力依頼に対しては、力になれることならなんでもするという考えも見られ、積極的な協力姿勢になっていることが分かった。

以上の結果をまとめると、高校が地域に対して要望する取り組みの内容に対して、地域主体の思いは応えるものになっているが、協力関係を構築に関して、高校と連携をしやすい地域主体は、保護者などの高校と近い関係にある主体であり、それ以外の地域主体との連携は難しいということが分かった。また、取り組みを行っていくことで、地域主体は地域学習教育に積極的に協力する意識を持つようになっており、教員の要望である積極的な協力との齟齬が無くなり、連携の意識が高まっていると推察で来た。

これより、高校と地域主体が連携をするための関係構築に対して、一部課題が残っていると考えられる。

４－５　観光に関わる取り組みの発現状況

本節では、観光を題材としている地域学習教育において、観光が意識される過程に関して、教員のヒアリング調査の内容より整理をした。(表 9)

表 10　観光に関わる取り組みの発現タイミングに関する発言

観光に関わる取り組みの発現タイミング		
（課題設定のための講和・授業）	（生徒の課題意識）	
	地域の主産業として意識	生徒の課題意識
・〔行政〕の講演があるんですよ。一番最初、2年生の授業で、そこで〔行政〕の方から、また課題として思ってることの一つに観光があった。観光というテーマがそもそもあった。（F高校） ・一回の授業で観光に関することを話してもらった（B高校）	・多分彼らの〔地域〕の主要産業とかというイメージは一つは漁業で、もう一つ大きいのがやっぱり観光業と言い彼らのイメージが強いってのも多分あると思います(D高校)	・観光客が来てほしいとか、要は増えてほしいとかがやたら増えるだろうか。どうしたらその故郷の自分の島がもうちょっと元気になるかとかそういうのはすごくあの考え出してるっていうか、考えるようになってるかなって思いますけどね（E高校） ・そもそも観光に興味があって、〔地域〕の観光はどうなっているんだろう（B高校）

観光に関わる取り組みの発現のタイミング２つあり、一つ目が課題設定のための講和でのテーマの提示や、観光をテーマとした設定する場合、二つ目が探究活動を進めていくにおいて、生徒が自発的に観光をテーマに設定する場合であることが分かった。(図 30)

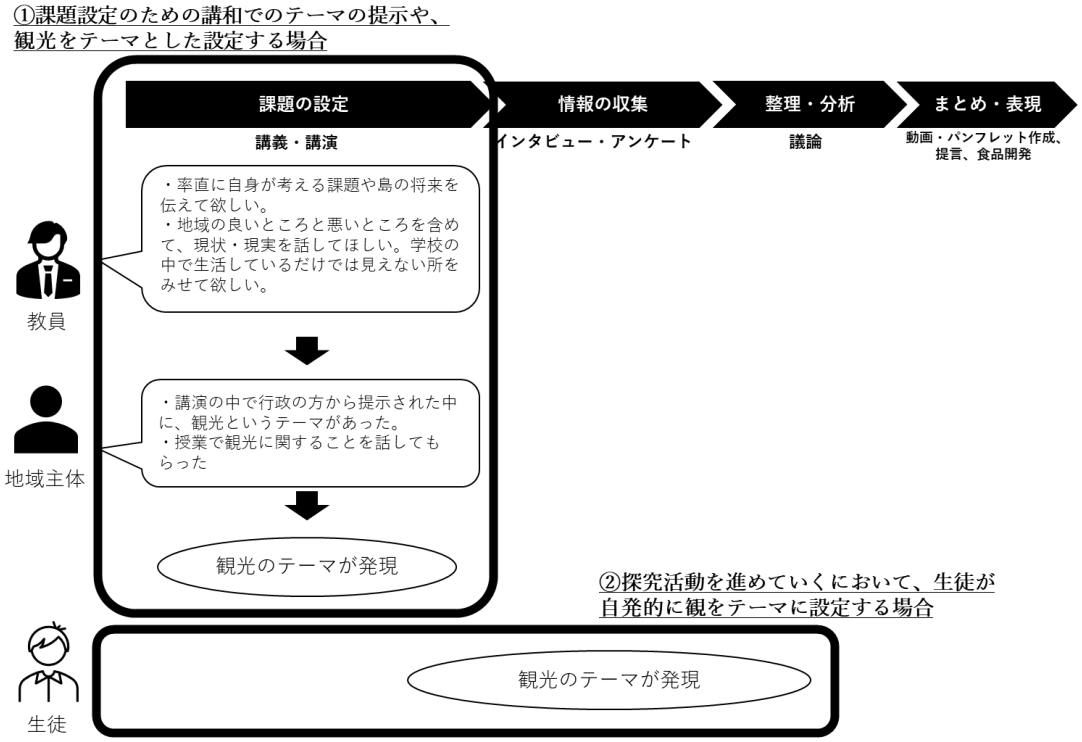


図 30　観光に関する取り組みの発現プロセス

一つ目は、課題設定のための講和や授業のテーマ設定の場合において、課題の設定のフェーズに対する発言と合わせてみると、このような流れになっていることが分かった（図 33 中①)。教員が、地域主体に講演や講義を依頼する際、地域主体への要望として、島の現状を率直に語って欲しいと依頼しており、その結果、地域醜態からの講演において観光が一つのテーマとして語られるプロセスがあることが分かった。つまり、地域主体が地域の観光に対する意識をもっており、地域の課題を考える際に観光に関して考えることが必要なものであると感じていると考えることができる。

2 つ目が、生徒の課題意識の中から自発的に観光をテーマ設定としていく場合である。(図 33 中②)発言を大きく 2 つのカテゴリーに分けることができた。1 つは生徒が、地域の主産業の一つが観光であると考えており、観光のイメージに影響を受けて、テーマ設定につながっていた。島の課題を考えた際に、地元産業として身近にある観光業に目を向けやすいことが推察される。また、もう一つは、生徒の観光に対する課題意識からである。地域学習教育も探究活動とし取り組まれており、取り組みの中における課題設定として、生徒が観光を挙げる形となっている。

また、これらの地域学習教育のテーマ設定する際には、教員が観光をテーマとすることを意識して取り組みを進めていないことも分かった。

４－６　観光を題材とする地域学習教育における高校と地域主体との関わり方

本節では、第３章により、観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校において、協力する地域主体数が多くなっていることが分かっており、その傾向となる理由を考察した。（図 31）

まず、4―２で整理した取り組みのプロセスから、地域学習教育においては、生徒が複数グループもしくは、それぞれ個人にて観光に関わらず、地域の産業やまちづくりの地域課題解決などの複数テーマにて、探究活動を行っている。活動内において、議論を進めていく中で、解決・提案手段として観光手法が加わっていくことが 4－3 にて整理し、示した②のプロセスから明らかとなっている。さらに、ヒアリングにおいて、観光の要素を加えることによって、新たな地域主体への協力をお願いする事例があることが分かった。

これより、観光以外のテーマであっても、観光の要素や手法がかわることによって、地域主体数が増加数ことを推察することができた。

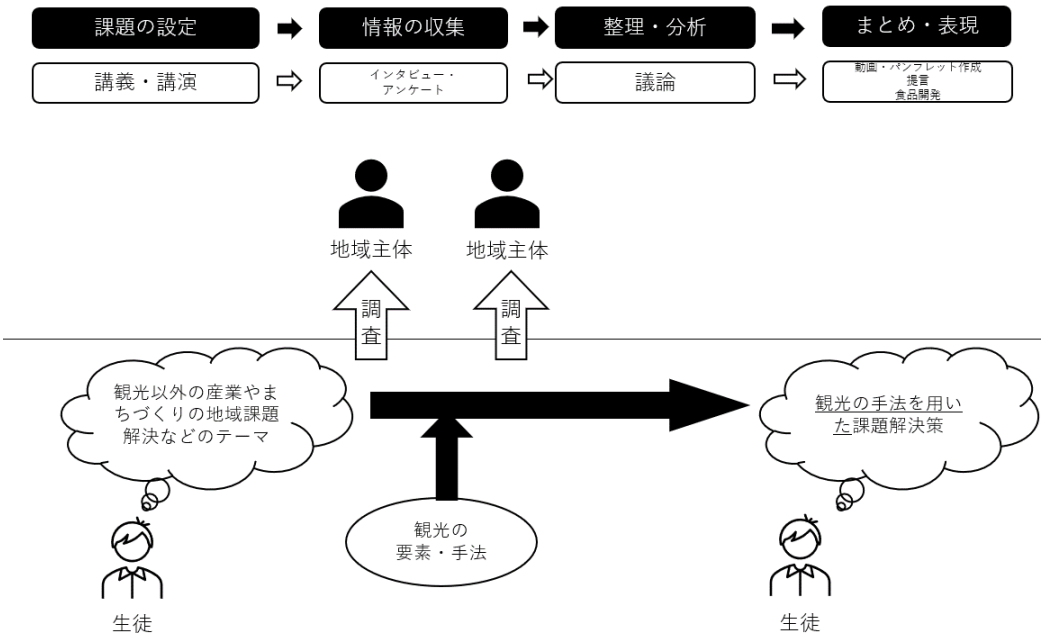


図 31　観光手法が入ることによる地域主体増加のプロセス

４－７　小括

本章で明らかになったことを整理する。

まず、教員と地域主体のそれぞれの地域学習教育に対する考えや期待、課題意識に関してであるが、教員は、地域主体に対して、協力姿勢に関して満足しており、今後も積極的な関わりを求めていた。地域主体は、地域学習教育がＵターンの推進や今後の島の課題解決につながることを期待し、島の将来のためになるという公益的な意識を持っていた。また、地域学習教育に対して、地域の将来の活性化につながるものであると評価をしていた。さらに、今後の協力意向としては、継続して協力していきたいとする積極的な協力姿勢を持っており、教員のフォローやより多くの地域主体が継続して関わることができる仕組みづくりを考え、行動していた。しかし、地域主体は、教員に対する忙しいイメージから要望などを遠慮してしまうことや、高校との関わることが保護者以外では難しく、協力しづらいということを課題として挙げていた。

高校と協力する地域主体の関係としては、取り組みにおいて、教員の望みを行政が応えており、また、地域主体は取り組みに協力する中で、協力動機として考えていた島の将来のためという公益的な意識から、さらに、教員のフォローや今後も継続的に関われる仕組みづくりを考えるなど、より積極的な協力体勢に変化し、高校は地域側への積極的な協力を求めていた。教員にはできない地域住民だからできることを地域主体が担っていきたいという考えを持っている人もおり、地域学習教育への関わり方として、能動的に動こうとする意識も見られた。高校と地域主体のお互いの意識に大きな齟齬はなく、連携の意識が高まっていると推察できた。しかし、保護者以外の住民が高校への関わりづらさがあると挙げられ、気軽に高校と関わりを持つことが難しい状況にあることが考えられる。高校と地域主体の協力関係には、両者の間に障壁が残っており、一部課題が残っていることが明らかとなった。

また、観光に関わる取り組みの発現状況に関して整理を行った。観光を題材とする地域学習教育の活動には、観光に関わる取り組みの発現に２つのプロセスとして整理することができた。一つ目が課題設定のための講演や講義において、地域主体が観光をテーマとして取り上げる場合で、探究活動において課題のテーマとして観光が入っており、観光を意識して探求活動が行われていた。

もう一つが探究活動を進めていく過程において、生徒が自発的に観光をテーマに設定する場合で、生徒の意識の中に、地元の主要産業として観光を意識しており、探究活動を進める中で、他のテーマと観光を結びつけながら、課題解決に向けて活動を行っていることが分かった。いづれの場合においても、教員が観光を意識していないことがあったが、同様のプロセスが見られ、地域主体や生徒の意識に観光の要素があることが考えられる。

さらに、アンケート調査において明らかとなった、観光を題材とする地域学習教育の地域主体数が多くなることに対しては、生徒が複数グループに分かれて、観光以外の産業やまちづくりの地域課題解決などの複数テーマで探求している場合でも、その解決・提案手段として観光手法が加わる際に、相談したい地域主体が増えていることが推察できた。

第５章　おわりに

５－１　各章のまとめ

本研究の総括として、第１章から第４章までまとめる。

第１章では、研究の背景と目的、用語の定義、既往研究の整理、研究方法を整理した。

第２章では、文部科学省が公表する「離島・へき地高等学校一覧」に掲載された 67 の離島高校を対象としてホームページから情報を得る Web 調査を行い、全校の離島高校において取り組まれている地域学習教育の基礎情報を、観光を題材としているかに関わらず概観した。その結果、42 校において地域学習教育が取り組まれていることが確認できた。協力している地域主体は、島内の公的機関や民間企業や住民だけでなく、島外の期間とも連携をしており、幅広い協力関係があることが推察できた。取り組みとしては、「地域に関して学習する取り組み」と「キャリア形成につながる取り組み」の２つの取り組みがあり、「地域に関して学習する取り組み」は、地域に関して学習するだけのものと、それに加えて情報発信を行う成果物の作成を行うものがあることが分かった。

成果物に関しては、多様であり、観光を題材とした成果物として、特産品開発や観光パンフレット、PR 動画作成などが見受けられた。これらから、「魅力の発見」、「地域資源の他地域との差別化を意識した価値づけ」、「地域外への発信」が地域学習教育において観光に関わる探究活動の要素であると考えることができた。さらに、地域学習教育の目的に関しては、「探究活動としての目標」、「地域に対しての意識の醸成」、「高校の利益」の３つに分類することができた。また、取り組んでいる科目は、総合的な探求の時間を利用していることも分かった。しかし、それぞれの高校において、掲載されている情報量には差が大きく、傾向がつかめるものではなかった。

また、地域学習教育の取り組みのきっかけや学校側の期待、目的、運用状況や課題を把握するために地域学習の先進事例と推察された長崎県立宇久高等学校の地域学習教育担当者へのプレヒアリングを行った。この調査から、まず、

2022 年の学習指導要領の改訂によって、全国の高校で地域学習教育が推進されていることが分かった。高校側の期待として、地域学習教育によって、探究活動の経験だけでなく、地元の活性化や、特色のある学校づくりにつなげていきたいという思いがあることが分かった。さらに、授業運営の状況や課題も把握した。主要な課題は、5 年程度で教員の転勤があるため、地域主体との関係を保ちながら地域学習教育を継続していくために、培ってきた理念や信頼関係の引継ぎや、マンネリ化回避の工夫など、通常の授業に加えて負担がかかることであると分かった。

第 3 章では、2 章において離島高校で地域学習教育の実施が確認できた 42 校を対象に、地域学習教育プログラムや地域との関わりの詳細内容を把握し、観光を題材とすることの特徴を見出すことを目的にアンケート調査を行った。回答数は 20 校であった。回答した高校 20 校のうち、18 校が総合的な探求の時間を用いて行われていた。学習指導要領改訂の告示が出る前である 2015 年頃から、地域の過疎化の問題が意識し、地域との連携を意識した教育活動が取り組まれはじめられており、学習指導要領改訂の告示が出た 2019 年度が、開始年度としては最も多くなっていた。また、「観光を題材とした地域学習教育」を行っていたのは、13 校（65%）であり、授業として生徒全体で取り組む高校は 12 校（60%）であった。

取り組まれている地域学習の全体的な傾向として、協力する地域主体には、すべてに行政が関わっていた。また、取り組み内容に関しては、全体的に講演やレクチャーによる情報提供と、インタビュー調査による情報の収集、地域の課題発見から、解決策の立案へとつながる議論の取り組みが多かった。取り組みに協力する地域主体数と内容の実施項目数に関しては、弱い正の相関関係があった。それぞれの地域学習教育では、「取り組み内容」、「地域主体との関係性」、「離島ならではの特徴」の 3 つがアピールされていた。

観光を題材とする地域学習教育に取り組む高校と、題材としていない高校で比較をした。観光を題材とする地域学習教育は①協力している地域主体として、大学や地元産業、観光協会、地域おこし協力隊との連携があること、②協力している地域主体数も取り組み内容の実施項目数も概ね多い傾向があること、③

「地域主体との関係性に関して」アピールする記述が多くみられ、地域との連携を意識して取り組みを行っていることが分かった。

また、地域学習教育における担当教員が感じる課題は、地域学習教育を行うための準備等にに対する時間的余裕がなく、教員の人手不足やスキル不足、教員間の熱量の違いが存在していることであった。それぞれの専門の教科に加えて、これらの地域学習教育を行っていくことからも、教員側の負担がかなりあることが考えられた。

第 4 章は、第 3 章で観光を題材とする地域学習教育を取り組んでいると確認できた 12 校を対象に、地域学習教育プログラムのプロセスにおける観光に関わる取り組みの発現状況や、そのプロセスにおける学校と地域の関わり方や、互いに対する期待や課題意識の変化を把握することを目的に、半構造化インタビュー調査を行った。調査は、許可が得られた 9 校の教員 11 名と、地域主体 10 名に対して行った。学習指導要領に示されている探求的学習のプロセス「1 課題の設定→2 情報の収集→3 整理・分析→4 まとめ・表現」の各フェーズにおいて、担当教員と地域双方の意識や評価を整理した。

教員は、地域主体に対して、協力姿勢に関して満足しており、今後も積極的な関わりを求めていた。地域主体は、地域学習教育が U ターンの推進や今後の島の課題解決につながることを期待し、島の将来のためになるという公益的な意識を持っていた。また、地域学習教育に対して、地域の将来の活性化につながるものであると評価をしていた。さらに、今後の協力意向としては、継続して協力していきたいとする積極的な協力姿勢を持っており、教員のフォローやより多くの地域主体が継続して関わることができる仕組みづくりを考え、行動していた。しかし、地域主体は、教員に対する忙しいイメージから要望などを遠慮してしまうことや、高校との関わることが保護者以外では難しく、協力しづらいということを課題として挙げていた。

高校と協力する地域主体の関係としては、取り組みにおいて、教員の望みを行政が応えており、また、地域主体は取り組みに協力する中で、協力動機として考えていた島の将来のためという公益的な意識から、さらに、教員のフォローや今後も継続的に関われる仕組みづくりを考えるなど、より積極的な協力体

勢に変化し、高校は地域側への積極的な協力を求めていた。高校と地域主体のお互いの意識に大きな齟齬はなく、連携の意識が高まっていると推察できた。しかし、保護者以外の住民が高校への関わりづらさがあると挙げられ、気軽に高校と関わりを持つことが難しい状況にあることが考えられる。高校と地域主体の協力関係には、両者の間に障壁が残っており、一部課題が残っていることが明らかとなった。

また、観光に関わる取り組みの発現状況に関して整理を行った。観光を題材とする地域学習教育の活動には、観光に関わる取り組みの発現に2つのプロセスがあり、①課題設定のための講演や講義において、地域主体が観光をテーマとして取り上げる場合、②探究活動を進めていく過程において、生徒が自発的に観光をテーマに設定する場合であった。教員が観光を意識していない場合でも、同様のプロセスが見られ、地域主体や生徒の意識に観光の要素があることが考えられた。

さらに、アンケート調査において明らかとなった、観光を題材とする地域学習教育の地域主体数が多くなることに対しては、生徒が複数グループに分かれて、観光以外の産業やまちづくりの地域課題解決などの複数テーマで探求している場合でも、その解決・提案手段として観光手法が加わる際に、相談したい地域主体が増えていることが推察できた。

５－２　考察

本研究では、地域学習教育に取り組むことで、地域を離れる前の若者が地域での経験を記憶する教育体験となっている可能性があるとして、地域学習教育に着目をした。これらの教育の一部として観光を取り上げる機運がある中、離島高校における観光を題材とする地域学習教育の状況として、以下のことが明らかになった。

（i）離島高校における観光を題材とする地域学習教育の特徴（第 2 章・第 3 章）

①地域の魅力を発見し、他地域との差別化を行い、発信していく要素を持っていること（2 章）。

②地域学習教育に協力する地域主体が、観光を題材とする地域学習教育のほうが多くなる傾向にあること（3 章）。

③担当教員が地域との連携を意識する取り組みとなっていること（3 章）。

（ii）高校と取り組みに協力する地域主体のそれぞれが持つ地域学習教育への期待や考え（第 4 章）

教員には、地域全体で生徒を育てていきたいという思いや、島のありのままを生徒に学んでほしいという思いで、取り組んでいることが明らかになった。一方、地域主体は、生徒に対して、地域のことを知り、考えて欲しい、地域と繋がって欲しいという思いがあることが明らかになった。

これらの結果から、地域学習教育において観光を題材とすることで、地域学習教育に期待されていることが実現されていることが分かった。これより、観光を題材とすることは地域学習教育への有用性があると考えられる。また、地域主体へも地域主体と高校で生徒を育てていくという意識を育んでいることから、観光を題材とした地域学習教育は、生徒にとって、地域のつながりや愛着につながる環境を確実に提供していると考えられる。したがって、将来の U ターンの素地をつくることにもつながっている可能性があると推察できた。（図 32）

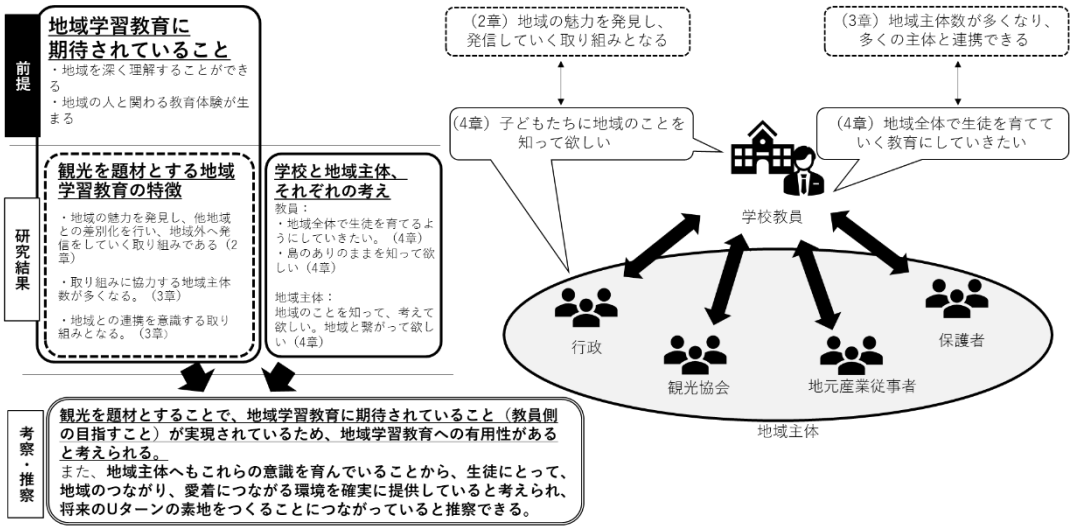


図 32　観光を題材とすることの地域学習教育への有用性

５－３　提言

本研究によって明らかになった、高校と地域主体が連携して地域学習教育を取り組む際の課題点をまとめ、それに対する提言を行う。

５－３－１　離島地域における観光を題材とした地域学習教育の課題

本研究より、観光を題材とする地域学習教育の特徴として、取り組みに協力する地域主体数が多くなることが挙げられる。一方、教員の今後の課題意識として、転勤による新しい教員が地域学習教育の担当となった際の地域との関係性の構築や、地域学習教育の理念の理解などが必要となり、通常の授業に加えて準備などの負担となってしまうことが分かった。地域と一体となった教育を進めていく際に、観光を題材とすることによって起こる地域主体数の増加は、地域を知らない教員にとって各主体との関係性を構築する際に、頼る場所を探すところから始まってしまい、負担になってしまうことも考えられる。(図 33)

また、地域主体の「保護者以外だと、なかなか協力しづらい」や、「子供が学校を離れたら、どういうことをしてるかが見えてない」といった発言から、保護者など学校との接点がある地域主体に比べ、そうでない地域主体は高校との関係性をつくることが難しいと考えられる。

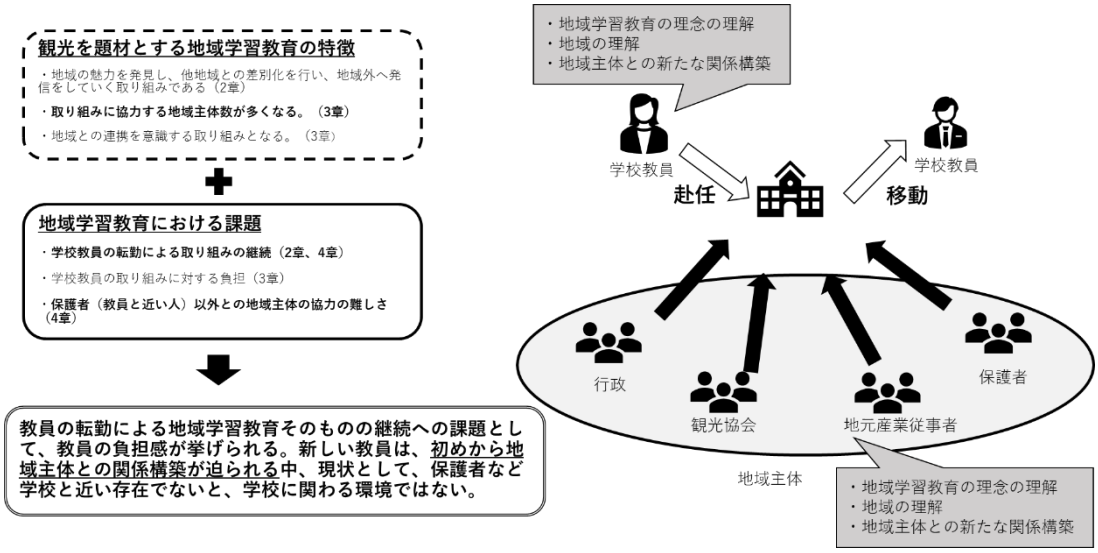


図 33　離島地域における観光を題材とした地域学習教育の課題点

５－３－２　地域学習教育の課題に対する提言

前述した課題点を踏まえ、今後の地域学習教育に向けた提言を行う。(図 34)

挙げられた課題点から、高校と地域主体が関わりやすい環境を構築することが重要であると考えられる。教員は転勤による担当者の流動性もあり、持続的な仕組みづくりが難しいと考えられるため、地域主体の存在に着目をした。これより、地域学習教育を行う際に、地域側にハブとなる組織をつくることで、高校が地域と連携を取るときに、頼りやすい存在となり、地域との関わりを持ちやすい環境をつくることができると考えられる。例えば、観光協会が、多様な産業や地域の人々とつながる組織として、地域の人材バンク機能を持ち、高校生等の地域学習教育のサポートをする。さらに、スムーズに学校と多様な地域主体とのつながりをつくることで、より広域的な活動に結び付くと考えられる。

このような仕組みをつくることで、教員の負担が軽減され、地域学習教育を継続的に行うことが可能となる。その結果、子供たちが島に愛着を持ち、島の将来を担う人材になることにつながると考える。

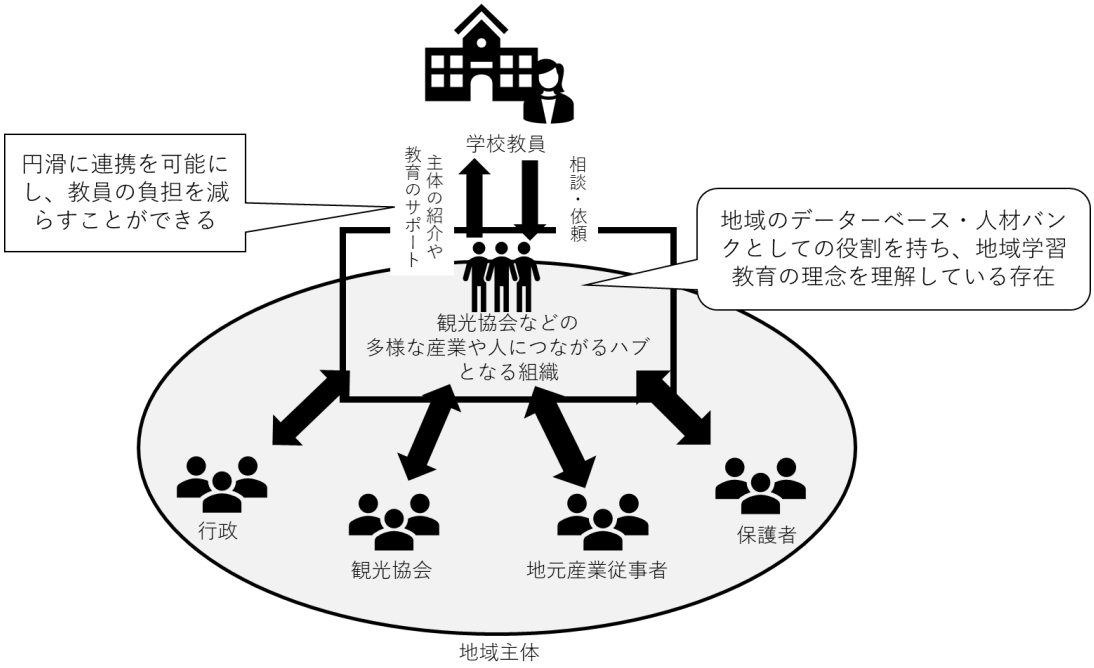


図 34　地域学習教育の課題点に対する地域主体がもつべき仕組みへの提言

５－４　今後の研究課題

最後に今後の研究課題を述べる。

本研究において、離島高校を対象に、地域学習教育への観光を題材とすることの有用性に関して調査を行った。高校と協力する地域主体の期待や考えと両者の関係性に関する調査に関して、調査の限界があり、観光を題材とした地域学習教育に取り組む高校だけを対象に行った。今後、題材としていない高校に対しても調査を行うことで、さらに観光を題材することの意義を検証することができると考えられる。

また、地域主体へのヒアリング調査においては、各離島における調査に協力していただいた方が少なく、一つの離島において幅広い主体に対して調査をすることができなかった。そのため、サンプル数を増やして行うことで、地域側の考えや、地域内での立場による考え方や関わり方の違いも、より詳細に把握することがが必要である。

さらに、今回は地域学習教育を行う生徒に調査をすることができなかった。そのため、生徒の変化は、近くで関わっている教員の感覚であるため、生徒に対しても調査を行うことで、観光を題材とすることによる生徒への影響を明らかにし、別の視点からの地域学習教育における観光を題材することの有用性を明らかにすることができると考える。

離島によって、主要な産業や人口規模など様々な状況が異なるが、今回は離島ごとの状況を考慮した議論ができなかったため、各対象校が存在する離島の状況を把握する調査を行い、あわせて分析することも今後の課題である。

謝辞

本論文を執筆するにあたり、多くの方々に出会い、その度に心あるご指導とご協力を頂きました。

指導教官である観光科学域・教授の川原晋先生には、他大学から進学した私を快く迎え入れ、熱心に私の思いや考えに向き合ってくださり、最後の最後まで、本研究を形にしようと向きあってくださり、誠にありがとうございました。

助教の野田満先生には、大変お世話になりました。毎週のエスキス、自分の考えがまとまらず、なかなか先に進むことができない私に対して、様々な選択を与え、ここまで導いて頂きました。いつも励ましのお言葉を送っていただき、苦しい時も前を向き、自分の研究と向き合うことができました。お忙しい中、突然の相談に、夜遅くであっても、休日であっても、快く引き受けていただき、誠にありがとうございました。

特任助教の平田徳恵先生には、研究室ゼミでの的確なアドバイスをしていただいたり、悩んでいる時に声をかけて頂いたり、いつも悩んで暗闇の中にいる私を、一瞬で、明るいところに連れて行って下さるような存在でした。誠にありがとうございました。

本論文は、42 校の地域学習教育の担当教員の方々、10 名の地域主体の方々のご協力によって成り立っている研究です。ご多忙の中、アンケート調査にご協力いただき、さらに、ヒアリング調査をも快く引き受けていただきました、教員の皆様には、深く感謝申し上げます。

また、川原研究室の皆様には大変お世話になりました。特に山本氏や佐藤氏には、多忙の中、気遣ってくださり、研究の進捗やアドバイスに関して連絡をしてくださいました。また、後輩とも多くの議論を重ね、研究室の同期がいない私に、同期同然のように接してくれた海老沢氏、お互いに切磋琢磨しながら研究を進めた学部 4 年生の皆さんには、いつも支えられておりました。

そして、日々切磋琢磨し、励まし合った地域・計画マネジメント領域の同期の皆様にも感謝の意を表したく思います。

最後に、ここまで私を支え続けてくれた家族にも感謝の気持ちを申し上げ、謝辞と変えさせていただきます。本当にありがとうございました。

参考文献・資料

・Stephanie Riger. 1981. “Community Ties: Patterns of Attachment and Social Interaction in Urban neighborhoods”, American Journal of Community Psychology,9. pp55-66

・Jorgensen S.B, Stedman C.R , “Sense of Place as an Attitude: Lakeshore Owners Attitudes toward their Properties”, Journal of environmental Psychology,21. pp233-248

・稲本恵子. 2020. 観光まちづくりと地域における次世代育成の課題―温泉観光地における中学生の職場体験学習実態調査より―共栄大学研究論集(18),pp 111-126

・大島順子, 2016, 観光の教育力の構造化に向けて. 観光科学 8.pp73-86

・工藤泰子. 2015. 我が国の観光教育機関についての史的研究－2 つの東京オリンピックと教育機関設立を中心に―, 日本国際観光学会論文集,29. Pp13-19

・黒光貴峰. 2007. 高等学校における地域との連携に関する研究. 鹿児島大学教育学部研究紀要. 教育科学編.

・齋藤嘉克・佐藤宏亮. 2019. 若年層の U ターンを促進する要因とその形成プロセスに関する研究

・宍戸学. 2008. 高等学校における観光教育カリキュラムの比較分析. 観光ホスピタリティ教育,3 .pp16-33

・宍戸学. 2009. 高等学校の総合的な学習の時間における観光教育のカリキュラム研究（科研費）

・田宮日奈・甲斐田直子. 2020. 地域に根差した記憶の誘発が地域愛着に及ぼす影響, 環境心理学研究, 8(1), pp.38-38

・福本賢太・宍戸学・吉田常行. 2011. 『観光甲子園』事業の成立過程と現況. 観光ホスピタリティ教育,5.pp.2-14

・宮崎正勝. 1995. 初等社会科における地域学習の意義と方法-話し合い,イメージ・マップ作り,物語作りを中心にして-. 教育方法学研究,20(0).pp.117-125

・薮谷祐介・阿久井康平. 2021. 高校生の通学時における地域接触が地域愛着

形成に与える影響-富山県小矢部市内の高校に通学する高校生を対象として-都市計画論文集, 56(3). pp.772-779
・独立行政法人労働政策研究・研修機構(JILPT). 2016. UIJ ターンの促進・支援と地方の活性化―若年期の地域移動に関する調査結果―, URL: https://www.jil.go.jp/institute/research/2016/152.html. （最終閲覧 2022 年 2 月）
・離島振興法, URL:https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=328AC1000000
072. （最終閲覧 2022 年 2 月）
・有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法 URL:https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=428AC1000000033. （最終閲覧 2022 年 2 月）
・観光ビジョン実現プログラム（2017～2020）
・臨時教育審議会　第 3 次答申, URL:https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318297.htm. （最終閲覧 2022 年 2 月）
・中央教育審議会答申. 1996. 21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について, URL:https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/960　701.htm. （最終閲覧 2022 年 2 月）
・観光庁. 2017. 観光教育に関する実態調査報告書, URL:https://www.mlit.go.jp/common/001293058.pdf. （最終閲覧 2022 年 2 月）
・文部科学省. 2018. 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説総合的な探求の時間, URL:https://www.mext.go.jp/content/1407196_21_1_1_2.pdf. （最終閲覧 2022 年 2 月）
・観光庁.2020. 観光教育の普及に向けて, URL:https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/sangyou/kyoiku_juujitsu.html. （最終閲覧 2022 年 2 月）
・長崎県教育庁高等教育課. 2019, 令和元年度全国高等学校教育改革研究協議会　選択協議代 A　～地域との連携・協働による新しい高等学校づく

り～長崎県の“ふるさと教育”について, URL:https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/10/18/1422061_06.pdf. （最終閲覧 2022 年 2 月）
・文部科学省．不明．学習指導要領「生きる力」URL:https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/newcs/index.htm.（最終閲覧 2022 年 2 月）

付録 1　離島高校一覧と Web 調査で閲覧したホームページ先リンク

第 2 章において抽出した離島高校 67 校の一覧と、Web 調査において HP 検索を行った際の URL を記載している。

都道府県	高等学校名	該当 HP_URL
北海道	奥尻	https://www.town.okushiri.lg.jp/highschool/category/243.html
北海道	天売	http://www.teuri.ed.jp/teurigaku/teurigaku.html
北海道	利尻	http://www.rishiri.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=89
北海道	礼文	http://www.rebun.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=197
東京都	大島	http://www.osima-h.metro.tokyo.jp/site/zen/content/000439333.pdf
東京都	小笠原	https://www.metro.ed.jp/ogasawara-h/our_school/feature.html
東京都	神津	http://www.kouzu-h.metro.tokyo.jp/site/zen/index.html
東京都	新島	http://www.niijima-h.metro.tokyo.jp/site/zen/
東京都	八丈	https://www.metro.ed.jp/hachijo-h/news/yarogon/index.html
東京都	三宅	http://www.miyake-h.metro.tokyo.jp/site/zen/cate_00001.html
東京都	大島海洋国際	https://www.metro.ed.jp/oosimakaiyokokusai-h/
新潟県	佐渡（高等学校）	http://www.sado-h.nein.ed.jp/
新潟県	羽茂	http://www.hamochi-h.nein.ed.jp/search/
新潟県	佐渡総合	http://www.sadosou-h.nein.ed.jp/index.html
新潟県	佐渡（中等	http://www.sado-ss.nein.ed.jp/

	教育学校）	
新潟県	佐渡特別支援	http://www.sado-tk.nein.ed.jp/index.html
兵庫県	家島	http://www.hyogo-c.ed.jp/~ieshima-hs/
島根県	隠岐	https://www.oki-hs.ed.jp/gakka/sougoutankyu/
島根県	隠岐島前	https://www.dozen.ed.jp/program/
島根県	隠岐水産	https://www.shimanet.ed.jp/okisui/prospectus/prospectus.html
島根県	隠岐養護	http://www.shimanet.ed.jp/okiyougo/
広島県	広島商船高専	https://www.hiroshima-cmt.ac.jp/
広島県	大崎海星	https://osakikaisei-miryokuka.com/kamijima-gaku/
広島県	広島叡智学園	https://higa-s.jp/senior-high/home/
香川県	小豆島中央	https://www.kagawa-edu.jp/syochuh01/index.html
愛媛県	弓削商船高専	https://www.yuge.ac.jp/school-guide/policy
愛媛県	弓削	https://ehm-yuge-h.esnet.ed.jp/
長崎県	北松西	http://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/tokusyoku/70210tokusyoku/70210islandchallenge/73240.html
長崎県	宇久	http://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/tokusyoku/70220tokusyoku/74938.html
長崎県	五島	http://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/tokusyoku/baramon/baramon-baramon/
長崎県	五島南	http://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/tokusyoku/70250tokusyoku/7025yumetry/
長崎県	上五島	http://www2.news.ed.jp/section/kamigoto-h/
長崎県	中五島	http://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/tokusyoku/70490siroogaku/
長崎県	壱岐	https://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/seikatu/70270seikatu/70270gyouji/87139.html
長崎県	壱岐商業	http://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/toku

		syoku/70450tokusyoku/
長崎県	対馬	http://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/tokusyoku/70280tokusyoku/17751.html
長崎県	上対馬	http://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/tokusyoku/70290tokusyoku/70290honkounotokusyoku/7973.html
長崎県	豊玉	http://www2.news.ed.jp/bunrui/syoukai/tokusyoku/70500tokusyoku/
長崎県	五島海陽	http://www2.news.ed.jp/bunrui/sonota/osirase/70540hurusato/
長崎県	奈留	http://www2.news.ed.jp/section/naru-h/
熊本県	牛深	https://sh.higo.ed.jp/ushikou/home
熊本県	勇志国際	https://www.stepup-school.net/search/list/detail/77
鹿児島県	屋久島	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/yakushima/
鹿児島県	大島	http://oshima.edu.pref.kagoshima.jp/
鹿児島県	奄美	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/amami/docs/2016091400658/
鹿児島県	大島北	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/oshimakita/
鹿児島県	古仁屋	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/koniya/
鹿児島県	喜界	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kikai/
鹿児島県	沖永良部	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/okierabu/
鹿児島県	与論	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/yoron/
鹿児島県	徳之島	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/tokunoshima/docs/2020052000054/
鹿児島県	種子島	http://taneko.edu.pref.kagoshima.jp/
鹿児島県	種子島中央	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/tanechuo/docs/2020022700212/
鹿児島県	中種子養護	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ss/nakatane-h/
鹿児島県	大島養護	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ss/oshima-h/

鹿児島県	樟南第二	https://shonandaini.wixsite.com/shonandaini
鹿児島県	屋久島おおぞら	https://www.ohzora.ac.jp/
沖縄県	久米島	http://www.kumejima-h.open.ed.jp/
沖縄県	宮古	http://www.miyako-h.open.ed.jp/
沖縄県	八重山	http://www.yaeyama-h.open.ed.jp/post-7.html
沖縄県	宮古工業	http://www.miyako-th.open.ed.jp/index.html
沖縄県	八重山農林	http://www.yaeyama-ah.open.ed.jp/post-10.html
沖縄県	八重山商工	http://www.yaeyama-th.open.ed.jp/cat/cat9/cat12/
沖縄県	伊良部	
沖縄県	宮古総合実業	http://www.miyasou-h.open.ed.jp/index.html
沖縄県	宮古特別支援	http://www.miyako-sh.open.ed.jp/
沖縄県	八重山特別支援	http://www.yaeyama-sh.open.ed.jp/

付録２　アンケート回答票

第３章において、調査として使用したアンケート調査・回答票を示す。

離島の高等学校における地域学習教育に関するアンケート調査【回答票】

①貴校の地域学習の内容に関して質問します。

設問1 地域学習教育の**基本的な情報**についてお尋ねします。
以下の各項目について、貴校が取り組まれている地域学習教育の情報をご記入ください。

(i)該当する地域学習教育のプログラム名

(ii)開始年度(西暦)

年度

(iii)カリキュラム上の科目名

(iv)**生徒数**(2021 年度の各学年の人数と、地域学習教育に取り組む学年に○をつけてください)

	1 年	2 年	3 年
生徒数	名	名	名
取り組む学年			

(v)**時間数**(学期ごとに、地域学習教育のために確保しているコマ数の合計をご記入ください。) ※2 学期制の場合、3 学期の部分は空白で構いません。

前期（1 学期）	後期（2 学期）	3 学期
コマ	コマ	コマ

(vi)**地域学習教育に取り組み始めた経緯**についてお尋ねします。
以下、いずれか該当ものに✓をつけてください。(一つのみ選択)

- □教育委員会の要請
- □自治体の要請
- □地域企業の要請
- □学校提案
- □わからない
- □その他

（　　）

設問2 地域学習教育において、**島内あるいは島外のどのような組織や団体が関わっているのか(関わっていない場合は、今後の関わりについてのご見解)**についてお尋ねします。以下の表を埋める形でご回答ください。
(現在の関わり状況は「**①現在関わっている、②以前は関わっていたが、現在は関わっていない、③関わっていない**」でご回答ください)

①を選択した場合 → ①の場合
②③を選択した場合 → ②・③の場合

島内あるいは島外の組織や団体	島内にある組織や団体である(当てはまる場合は○をつけてください)	現在の関わりの状況(①～③でご回答ください)	①の場合 関わり始めた年度(西暦)	①の場合 地域学習教育において特に重要だと思う関係者(最大3つ)	②・③の場合 今後、地域学習教育における連携（関わり）についての貴校のご見解（いずれかに○をつけてください）
市役所・町役場・都道府県庁及び支所（あるいはその職員）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
都道府県または市町村議会（あるいは議員）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
金融機関（銀行・信用金庫など）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
小学校・中学校（生徒あるいは教職員）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
大学（学生または教職員）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
公民館			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
図書館			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
美術館・博物館			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
漁協（漁師）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
農協（農家）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
森林組合（林業家）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
商店街振興組合（または商店会）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
商工会（商工会議所）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
自治会（町内会・部落会・区会）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
まちづくりの委員会・協議会			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
まちづくり会社（TMO）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
観光協会			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
観光地域づくり法人（DMO）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
NPO 法人			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
神社（氏子）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
お寺（檀家）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
地域おこし協力隊			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
社会奉仕団体（ライオンズクラブ・ロータリークラブなど）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
メディア・マスコミ（新聞社・地元ローカルテレビ局など）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
その他の組織や団体または個人①（　　）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
その他の組織や団体または個人②（　　）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない
その他の組織や団体または個人③（　　）			年		1：連携を強く望む　2：できれば連携を望む　3：どちらでもない　4：あまり連携は望まない　5：連携は全く望まない

設問3 貴校の地域学習教育について、**設問2でお答えいただいた学外の関係者(①を選択した主体)の協力によるものを含めた、具体的な取り組み内容**についてお尋ねします。

地域学習教育の中の各取り組みにおいて、該当する取り組み内容に〇をつけた上で、各組織や団体が協力している取り組み内容に〇をつけてください。

島内あるいは島外の組織や団体	行っている取り組み内容（〇をつける）▶	地域学習教育の中の取り組み内容																												
		外部講師による講演やレクチャーを聞く	施設や事業所を見学する	まち歩きを行う	インタビュー調査をする	史資料や文献を使って調査する	島内の地域課題を発見・整理する	島内の地域課題に対する解決策を立案する	生徒主体の催しやイベントを実施する	討論（ディベート）や議論を行う	パンフレットやガイドブックを作成する（観光産業に関連するもの）	パンフレットやガイドブックを作成する（観光産業以外に関連するもの）	映像を作成する（観光産業に関連するもの）	映像を作成する（観光産業以外に関連するもの）	商品を開発する（食料品またはその加工品）	商品を開発する（食料品またはその加工品以外の物品）	プログラムやアプリを開発する	ビジネスプランやアイデアプランを作成する	島内の住民に向けた成果発表会・報告会を開く	島内外に向けてWebを使って発信する	開発した商品を店頭に立って販売する	島内の自治活動に参加する（清掃活動や防災活動など）	島内の伝統行事に参加する（祭りなど）	島内の年間行事に参加・出店する（フリーマーケット等・祭り以外の各種イベント）	島内の伝統芸能や伝統工芸・技術等を体験する	職場体験・ボランティア体験をする（観光産業に関連するもの）	職場体験・ボランティア体験をする（観光産業以外に関連するもの）	その他の取り組み①（　　）	その他の取り組み②（　　）	その他の取り組み③（　　）
市役所・町役場・都道府県庁及び支所（あるいはその職員）																														
都道府県または市町村議会（あるいは議員）																														
金融機関（銀行・信用金庫など）																														
小学校・中学校（生徒あるいは教職員）																														
大学（学生または教職員）																														
公民館など																														
図書館																														
美術館・博物館																														
漁協（漁師）																														
農協（農家）																														
森林組合（林業家）																														
商店街振興組合（または商店会）																														
商工会（商工会議所）																														
自治会（町内会・部落会・区会）																														
まちづくりの委員会・協議会																														
まちづくり会社（TMO）																														
観光協会																														
観光地域づくり法人（DMO）																														
NPO 法人																														
神社（氏子）																														
お寺（檀家）																														
地域おこし協力隊																														
社会奉仕団体（ライオンズクラブ・ロータリークラブなど）																														
メディア・マスコミ（新聞社・地元ローカルテレビ局など）																														
その他の組織や団体または個人①（　　）																														
その他の組織や団体または個人②（　　）																														
その他の組織や団体または個人③（　　）																														

設問4 **地域学習教育を進めていく、あるいは貴校で最初に地域学習教育に取り組み始める時に（カリキュラムの内容の設定や、協力者を決める際等に）参考にしたもの**に関して教えてください。

以下、それぞれの項目において当てはまるものに✓をつけてください。

項目	現在の地域学習教育を**進めていく上で**参考にしているか	最初に地域学習教育に**取り組み始める時に（カリキュラムの内容の設定や、協力者を決める際等に）**参考にしたか
学習指導要領	□大いに参考にしている □少し参考にしている □参考にしていない	□大いに参考にした □少し参考にした □参考にしていない □わからない
島内での（貴校以外の）教育活動や地域づくりの取り組み	□大いに参考にしている □少し参考にしている □参考にしていない	□大いに参考にした □少し参考にした □参考にしていない □わからない
他の離島での地域学習教育の内容や成果	□大いに参考にしている □少し参考にしている □参考にしていない	□大いに参考にした □少し参考にした □参考にしていない □わからない
他の地域（離島以外）での地域学習教育の内容や成果	□大いに参考にしている □少し参考にしている □参考にしていない	□大いに参考にした □少し参考にした □参考にしていない □わからない
他の離島での地域づくりの取り組み	□大いに参考にしている □少し参考にしている □参考にしていない	□大いに参考にした □少し参考にした □参考にしていない □わからない
その他の取り組みや資料① （　　）	□大いに参考にしている □少し参考にしている □参考にしていない	□大いに参考にした □少し参考にした □参考にしていない □わからない
その他の取り組みや資料② （　　）	□大いに参考にしている □少し参考にしている □参考にしていない	□大いに参考にした □少し参考にした □参考にしていない □わからない

設問5 貴校の**地域学習教育の目的**についてお尋ねします。

以下、当てはまるものに✓をつけてください。(最大５つまで)

□人と協働して行う力を養うこと
□問題を解決する力を養うこと
□考えたことを発信する力（プレゼンテーション能力）を養うこと
□自分の在り方や生き方を考えさせること
□地域にある組織・団体や地域活動を知ってもらうこと
□地域の魅力や課題を認識させること
□郷土に誇りを持ち、郷土愛を高めさせること
□授業外でも地域の活動に積極的に参加してもらうこと
□地元の地域づくりを進めること
□地域の課題を解決すること
□地域住民の地域に対する意識を変えること
□高校の対外的 PR を行うこと
□進路選択を有利に進めさせること
□その他（　　）

設問6 貴校の地域学習教育において、**独自の特徴だと思う点や、アピールポイント**をご記入ください。(自由記述)

設問7 貴校の地域学習教育を通して、**地域へ実際に提示・提供（あるいは提案）した具体的な成果物**についてお尋ねします。該当する成果物に〇をつけ、回答例を参考に具体的な成果をご記入ください。

成果物	該当するもの（〇をつける）	具体的な成果（自由記述）
パンフレットやガイドブック		
映像		
商品		
プログラムやアプリ		
ビジネスプランやアイデアプラン		
その他の成果物① （　　）		
その他の成果物② （　　）		
その他の成果物③ （　　）		

②地域学習教育を担当するあなた自身の考えに関する質問です。

本研究では、担当教員の方が現場で感じている課題についても考えたいと思っており、担当されている教員の方の意見をお伺いしたいと考えております。これからの質問は、学校の代表としてではなく、地域学習教育を担当する一教員としてお答えいただきたいです。

（冒頭でお伝えしました通り、お答えいただいた回答を研究目的以外で公表することはございません。皆様のご迷惑にならないことをお約束いたします。）

設問8 **地域学習教育を担当するあなた自身のこと**について教えてください。

(i) 年代　□20 代　□30 代　□40 代　□50 代　□60 代以上

(ii) 担当科目　（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

設問9 **教員になって何年**になりますか。また、**貴校に赴任して何年**になりますか。

教員になって＿＿＿＿＿＿年目　赴任して＿＿＿＿＿＿年目

設問10 **あなた自身が感じている地域学習教育の効果**についてお尋ねします。

以下、当てはまるものに✓をつけてください。（最大 5 つまで）

□生徒が人と協働して行う力を身につけた
□生徒が問題を解決する力を身につけた
□生徒が考えたことを発信する力（プレゼンテーション能力）を身につけた
□生徒が自分の在り方や生き方を考えた
□生徒が地域にある組織・団体や地域活動を知った
□生徒が地域の魅力や課題を認識した
□生徒が郷土に誇りを持ち、生徒の郷土愛が高まった
□生徒が授業外でも地域の活動に積極的に参加していた
□地元の地域づくりを進めた
□地域の課題を解決した
□生徒の活動によって地域住民の地域に対する意識を変えた
□高校の対外的 PR を行うことができた
□進路選択を有利に進めさせることができた
□その他（　　）

設問11 あなたにとって、**地域学習教育に関する準備や事前調整、振り返りや改善の検討等のための時間的余裕は十分であると感じますか。**以下、いずれか該当するものに✓をつけてください。（一つのみ選択）

□時間的余裕は十分にある
□時間的余裕は少しある
□どちらでもない
□時間的余裕はやや不足している
□時間的余裕は全く不足している

設問12 貴校での地域学習教育の担当教員として、あなたは**通算何人目**になりますか。（一つのみ選択）

□１人目（地域学習教育の立ち上げ時から担当している）（→設問 14 へ）
□２人目以降（前任者から引き継いで現在担当している）（→設問 13 へ）

設問13 （設問12 で「2 人目以降」と回答した人にお尋ねします。）

あなたが地域学習教育の担当になった際、**前任の教員からの引き継ぎは十分になされたと感じていますか。**以下のそれぞれの項目について、いずれか該当するものに✓をつけてください。（一つのみ選択）

項目	引き継ぎの程度	
地域学習教育の目的や理念について	□十分に引き継がれた □一部しか引き継がれなかった	□おおむね引き継がれた □まったく引き継ぎがされなかった
地域学習教育の具体的内容について	□十分に引き継がれた □一部しか引き継がれなかった	□おおむね引き継がれた □まったく引き継ぎがされなかった
地域学習教育に関わっている島内外の組織や団体の概要や人となりについて	□十分に引き継がれた □一部しか引き継がれなかった	□おおむね引き継がれた □まったく引き継ぎがされなかった
地域学習教育に取り組む中での上手くいった点や失敗した点について	□十分に引き継がれた □一部しか引き継がれなかった	□おおむね引き継がれた □まったく引き継ぎがされなかった
地域学習教育に対する前任の教員の個人的思いについて（地域学習教育の展望やあるべき姿など）	□十分に引き継がれた □一部しか引き継がれなかった	□おおむね引き継がれた □まったく引き継ぎがされなかった

設問14 今後、地域学習教育を後任の教員に引き継ぐ上で、あなたが思う、**特に重要な引き継ぎ内容はありますか。**

ある場合は、具体的に教えてください。（設問13の項目から選んでいただいても構いません。）

□ある

（　　）

□特にない

設問15 地域学習教育を進めていく上での、**現在の困りごとや課題**があればご記入ください。（自由記述）

（　　）

設問は以上になります。ご協力ありがとうございました。

最後に、連絡先（電話番号またはメールアドレス）をご記入ください。

なお、差支えがなければ、貴校が**取り組んでいる地域学習教育に関する参考資料（授業計画やシラバス、パンフレット等）を、回答いただいたアンケート票と一緒に送付していただけますと有難いです。**（参考資料は、お問い合わせ先のアドレスへのメール添付による送付でも結構です。）

ご協力いただける場合は、同封ください。何卒よろしくお願いいたします。